

律ノ活用應サニ然ラサルヲ得サル所ナリト確信ス因テ治罪法第四百二十九條第五項ニ據リ
再審ノ訴ヲ提起スト云フニアリ

本院檢事長渡邊驥ハ被告人カ再審ノ訴ハ治罪法第四百二十九條第五項ニ相當スル理由ナシ
トノ意見ヲ述ヘタリ

大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ之レヲ審理スルニ本案再
審ノ訴ハ原裁判所於テ被告ヲ過當ノ罰金ニ處シタルヲ其宣告書ト明治十三年第四十號布告
ヲ比照シテ明瞭ナレハ治罪法第四百二十九條第五項ニ適當セサルモ他ニ保護ノ道ナキヲ以
テ該條項ニ擬シ之カ再審ヲ仰クトノ趣旨ニ外ナラス然レモ治罪法第四百二十九條ノ各項ニ
適當セサル以上固ヨリ之ヲ受理スヘキ限リニ非サレハ假令ハ過當ノ刑ニ處シタルヲ明瞭ナ
ルモ之ヲ以テ再審ノ理由ト爲スヲ得ス因テ本案再審ノ訴ハ之ヲ棄却スルモノ也
第一千二百五十七號

○判文(新聞條例犯)明治十六年五月九日上告
同十七年五月六日發付

福岡縣筑後國御井郡苧板川
裏町十番地士族東京府京橋
區銀座三丁目十九番地自由
新聞社假編輯長

佐々木千之助

明治十六年四月

二十年九月

新聞紙條例違犯被告事件ニ付明治十六年四月十七日東京輕罪裁判所ニ於テ新聞紙條例第十
五條ニ依リ罰金百圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人佐々木千之助ハ上告ヲ爲シタリ
其要領ハ被告人カ新聞紙上高等法院ノ豫審ニ於テ免訴放免ノ言渡ヲ受ケタル長坂八郎外一
人ノ調書ヲ掲載シタルハ條例第十五條ニ問擬セラル可キモノニ非ス同條ニ未タ公判ニ付セ
サル者トアレハ其豫審中ニ在ル者ハ掲載スルヲ得サルモ既ニ結了セシ事件ニ至テハ之ヲ掲
載スルヲ禁シタル者ニ非ス特ニ未タノ文字ヲ加ヘアルニ依リ其偏ヘニ豫審中ノ者ニ限ルヤ
論ヲ竣タサルナリ故ニ長坂八郎等カ免訴ト爲リ既ニ結了セシ事件ノ調書ヲ掲載シタルハ罪
ト爲ルヘキ事實ナラス又法ニ正條ナキモノナルヲ原裁判所ハ刑法第二條ニ依ラスシテ新聞
紙條例第十五條ヲ適用セシハ越權ノ處分ナリ且本件檢察官公訴ノ旨趣タル長坂八郎等ハ免
訴ノ言渡ヲ受ケタルモ其同一事件ノ被告人タル河野廣中等ハ仍ホ豫審中ニ在テ其事件ハ未
タ公判ニ付セサル者ナレハ調書ヲ掲載セシハ條例違犯者ナリト云フニアルモ長坂八郎等ハ
其事件ノ共犯人ニ非サルヲ以テ免訴セラレシニ因リ全ク事件ニ關係ヲ有スル者ニ非スト抗
辯セシナリ故ニ原裁判所ハ起訴ナキ事件ニ對シ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ亦越權ノ處
分ナリ以上ノ理由若シ越權ノ處分ニ非ストセハ法ノ解釋ヲ誤リタルヲ以テ適用ヲ失シタル
擬律ノ錯誤ナリト思量スト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ
上告代言人林和一ノ辯明及ヒ檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
新聞紙條例第十五條ニ裁判所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公判ニ付セサル者云々トアルハ未タ公

判ニ付セサル前ノ下調事件ヲ載スルコトヲ得ストノ律意ニシテ即チ豫審調書ヲ掲載スルヲ許サ、ルノ禁令ナリ抑豫審ノ取調ハ傍聽ヲモ許サ、ルモノナレハ其調書ヲ新聞紙上ニ掲載公布スルコトヲ得サルハ固ヨリ論ヲ竣タス故ニ原裁判所ニ於テ本案被告事件ニ對シ同條例ヲ適用セシハ相當ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤アルニ非ス越權ノ處分アルニ非サルナリ且原檢察官公訴ノ旨趣ハ被告人カ長坂八郎等ノ豫審調書ヲ新聞紙上ニ掲載セシハ同條例第十五條ニ違背シタリト云フニ在リテ其公訴ヲ受理シ刑ノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ起訴ナキ事件ト謂フコトヲ得サルナリ而シテ上告人及ヒ代言人條例中未ノ字者ノ字等ノ字義ヲ分析シテ法文ノ意ヲ解釋シ犯罪ノ所爲ヲシト論告スルモ要スルニ強辯ヲ以テ法網ヲ脱セント欲スルニ過キスシテ其論旨ハ總テ相立サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ
第一千二百五十八號

○判文(新聞條例違反) 明治十六年六月廿一日上告
同 十七年五月六日發付

鹿島縣薩摩國鹿島郡小川町
平民鹿城新報編輯長

山口 笑 三

明治十六年五月

二十八年

右笑三カ被告事件ニ付明治十六年五月二十六日鹿兒島輕罪裁判所カ新聞紙上高等法院豫審

言渡書及ヒ問答書ヲ掲載シ新聞條例ニ違反セシモノト認メ明治十六年第十二號布告改正新聞紙條例第三十三條同第三十一條ニ依リ二月ノ輕禁錮ニ處シ三十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ鹿城新報第七第八第九號紙上ニ長坂八郎カ豫審言渡書問答調書ヲ掲ケタルヲ以テ被告人ハ改正新聞條例ヲ以テ其罪ヲ問ハレタリ抑改正新聞條例ハ其犯罪後ニ頒布セラレタルモノニテ既往ヲ罰セラレタルモノナレハ刑法第三條ニ違反シタル擬律錯誤ノ裁判ナリト云ヒ而シテ被告人ハ誤テ罪トナルヘキ書面ヲ掲載シタルハ之ヲ遂ケスシテ中止セリ然ラハ則チ錯誤ノ廉ニ因リ一等未遂犯罪ナルヲ以テ又一等ヲ減セラ
ルヘキモノナルニ原裁判ノ玆ニ出テサルハ共ニ不當ノ裁判ナルヲ以テ破毀アリタシト要求セリ

對手人檢事補江貞繼ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判允當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
鹿城新報第九號即チ四月廿六日發兌官令欄内ニ改正新聞紙條例ヲ掲ケ其雜報欄内ニ長坂八郎カ問答調書前號ノ續キト題シ問答調書ヲ掲ケタルモノニテ改正新聞紙條例ヲ知り得サリシ前ノ犯則ナリト云フヲ得ス然ラハ則チ改正新聞紙條例ヲ以テ罰セラレタルモ未知ノ法律ヲ以テ既往ノ所爲ヲ責ルノ理ニ當ラサレハ其犯罪後頒布セラレタル法律ヲ以テ既往ヲ罰シタリトノ上告趣旨ハ相立タス其他被告人ハ誤テ罪トナルヘキ書面ヲ掲載シタルヲ以テ中止セシニアレハ未遂犯ナリト云フト雖モ其事柄ノ終尾ニ至ラサルモ一旦之ヲ掲載シタル上ハ何ソ未遂犯罪ナリト云フヲ得ンヤ因テ上告ノ趣旨總テ相立タサルモノト判定ス

以上ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千二百五十九號

○判文(集會條例犯) 明治十七年二月廿八日上告
年五月六日發付

佐賀縣肥前國東松浦郡唐津
町二百四番戶士族

堀 木 富 次 郎

明治十七年一月

二十年九月

集會條例違犯事件ニ付明治十六年一月三十一日小松治安裁判所ニ開キタル金澤輕罪裁判所ニ於テ右被告人堀木富次郎ハ學術演說會ヲ開設シ政談ヲ爲シタル者ト判定シ集會條例第十六條第二項同第十條及ヒ明治十四年第七十二號公布ニ依リ罰金六圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告富次郎ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ學術演說會ニ於テ聽衆ニ向ヒ被告カ口ニハ錠カ懸リタリ此錠ヤ英米佛ノ如キ開明ノ國ヨリ渡來セシニアラスシテ和制即チ集會條例ニ依リテ檢束サレシ云々ト演シタルハ曩キニ屢政談演說ノ届出ヲ爲スモ認可セラレサルニ依リ更ニ學術演說ヲ爲ス所以ノ旨趣ヲ辯シタル迄ニテ政治ニ關スル利害得失ヲ論議シタルニアラス然ルチ金澤輕罪裁判所カ集會條例ニ依リ處斷シタルハ不當ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
上告ノ旨趣ハ學術演說ヲ爲ス所以ノ旨趣ヲ演シタル者ニテ政談ヲ爲シタルニ非スト言フニ

在ルモ集會條例第十六條第二項ハ學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議シタル者ハ云々トアリテ苟シクモ學會術ニシテ言ノ政談ニ涉ル者ハ該法條ノ制裁ヲ免カレサル者トス本件被告カ演說ノ如キハ原裁判官カ認ムル如ク開明野蠻ノ邦國ヲ對照シ來リテ我集會條例ニ論及シタル者ナレハ純然タル政談ニシテ之ヲ以テ學術會ヲ開ク所以ヲ辯シタルニ止ル者ト爲スヲ得サル者トス

右ノ理由ナルニ依リ本件上告ハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ原由ナシト判定シ同法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千二百六十號

○判文(集會條例犯則) 明治十六年五月三十日上告
十七年五月六日發付

德島縣阿波國美馬郡曾江山
村士族勝三郎長男

三 宅 秀 夫

明治十六年五月

二十四年二月

同縣同國同郡同村士族

笠 井 善 太

明治十六年五月

三十七年七月

一八五

一八六

同縣同國同郡拜原村士族

櫻 間 登

明治十六年五月

二十五年十一月

同縣同國同郡岩倉村平民

鄉 司 雄 太郎

明治十六年五月

五十一年十一月

同縣同國同郡同村士族

眞 鍋 勝 太郎

明治十六年五月

二十六年十月

同縣同國同郡猪尻村平民

谷 本 本 藏

明治十六年五月

二十九年十月

同縣同國同郡拜原村士族

大 塚 忠 三 郎

明治十六年五月

二十四年九月

明治十六年五月七日德島輕罪裁判所脇町支廳ニ於テ被告秀夫外六名カ集會條例違犯事件ヲ
 審理シ集會條例第一條第十條ニ依照シ被告秀夫ニ對シ罰金十五圓笠井善太外五名ニ對シ罰
 金各十圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法トナシ秀夫外六名カ上告セル其要旨ハ抑モ集會條
 例ナルモノハ一名政談條例トモ云フヘキモノニテ即チ政事ニ關スル事項ヲ講談論議セサル
 モノハ該條例ノ管理スヘカラサルヲ規定シタル特別法ニシテ被告等同志輩交際ノ友誼ヲ親
 密ナラシメン爲メ自由黨集會所ヘ相會セシ際宴酬ニシテ各感スル處アリテ集會新聞出版ノ
 三條例廢棄ヲ請願スヘシト參集人中建白ノ手續方法ヲ協議決定ノ上即チ被告ノ内秀夫ニ於
 テ建白事件取扱ヒタルモノナリ而シテ此事實タル自由黨臨時會議決書並建白書被告等カ豫
 審及脇町警察署ニテ取調ヲ受ケタル供述書等ニ因リ明白ニシテ其政談ヲ爲シタルニ之レナ
 ケレハ警察署ノ認可ヲ受クヘキ理由モナク且傍聽者ヲ入レ置キタルニアラサルニモ拘ハラ
 ス被告等カ利益トナルヘキ証憑ヲ採ラス剩サヘ會主若クハ教唆人ニモ之レナキニ特リ秀夫
 ニ科スルニ罰金ヲ重クシ其言渡ヲ爲シタルハ事實理由ニ齟齬アリ且擬律ニ錯誤アル裁判ナ
 リト云フニアリ對手人檢事補堀口順逸ハ上告旨趣ノ非理ナル旨ヲ論シ原裁判ハ不當ニアラ
 スト答辯セリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ
 如シ

本件上告ノ趣旨タル原裁判ハ事實理由ニ齟齬アリ若クハ擬律ニ錯誤アリト云フト雖モ之ヲ

一八七

要スルニ原判官カ職權ヲ以テ爲シタル採証及事實上ノ判定ヲ非難シ不服ヲ訴フルニ過キス
シテ原裁判ハ上告論旨ノ如キ瑕瑾アルナケレハ到底上告ヲ爲シ得ルノ原由ナキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按ノ上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第一千二百六十一號

○判文〔賣藥規則犯〕明治十六年十一月六日上告
同 十七年五月六日發付

茨城縣常陸國多賀郡安良川

村平民

小林作兵衛

明治十六年十月

五十五年

右作兵衛カ賣藥規則違犯被告事件ニ付明治十六年十月十一日水戸輕罪裁判所ニ於テ被告ハ
明治十六年五月中一包金四錢賣ノ丸藥ニ金四厘ノ賣藥印紙ヲ貼用シタルヲ請賣ノ爲メ買取
リ之ヲ所持シ又無鑑札ニテ之ヲ請賣シタルモノト認定シ賣藥印紙稅則第六條賣藥規則第二
十一條ニ依リ一ハ罰金三圓ニ處シ一ハ丸藥ヲ沒入シ罰金拾圓ヲ科スト言渡シタル裁判ニ服
セス被告作兵衛ハ上告ヲナシタリ其要領ハ藥品ノ被告宅ニアリシハ藥商飯塚勝三郎ナルモ
ノカ被告ノ留主宅ニ差置シ迄ナレハ被告ノ所持ト云フヲ得ス又暫ク之ヲ所持シタルモノト
スルモ賣藥規則第二十一條ノ罰例ニ該ルハキモノニアラス何トナレハ該條ノ請賣スルモノ
トハ既ニ若干ノ藥品ヲ賣却セシモノ、謂ニシテ本件ノ如キ藥品ノ被告宅ニ現出シタルノミ

ニシテ未タ賣却セントスルノ場合ニ至ラサルモノニ適施スヘキモノニアラサレハナリ然ル
ニ原裁判所ニ於テ皮相ノ見解ヲ以テ被告カ賣却セントシタルモノ、如キ認定ヲ下シ處罰セ
シハ治罪法第四百十條第十項ニ適合スル不法ノ裁判ナリト云フニアリ原裁判所檢察官ハ被
告ノ上告ハ其理由ナキ旨答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ踐行シ
之カ判決ヲ與フル左ノ如シ

本按被告カ上告ノ旨趣タル既ニ原裁判官ニ於テ被告ハ印紙不足ノ賣藥ヲ所持シ且無鑑札ニ
テ之ヲ請賣セシモノト認定シタル事實ニ侵入シ其當否ヲ批難シ以テ罰例ニ抵觸セスト主張
スルニ過サレハ上告正當ノ原由トナスヲ得ス何トナレハ事實ノ判定ハ法律上裁判官ニ特任
スル所ニシテ他ヨリ之ヲ動シ得ヘキモノニアラサレハナリ依テ被告ノ上告ハ相立サルヲ以
テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第一千二百六十二號

○判文〔賣藥規則〕明治十六年十一月六日上告
同 十七年五月六日發付

青森縣陸奧國南津輕郡黒岩

元町士族

祖父尼武三

明治十六年十月

二十七年五个月

右武三カ被告事件ニ付明治十六年十月十三日弘前輕罪裁判所ニ於テ被告ハ官許保命内羅散

一八九

ノ一方チ一病毎ニ其用法ヲ改更シ賣捌キ又無鑑札ニテ馬目藥馬武藥馬糞詰藥ノ三方ヲ調製賣捌キタルモノト認定シ其用法ヲ更改シタルハ賣藥規則第二十二條ニ依リ一方ナルヲ以テ十圓ノ罰金ニ處シ無鑑札ニテ三藥ヲ賣捌キタルハ一方ニ付三十圓ノ罰金三方ナルヲ以テ九十圓ノ罰金ニ處シ現在ノ製藥及賣得金ハ沒收ス但免許鑑札己ニ其筋へ返納シタルヲ以テ取上ケスト言渡シタリ

被告武三ハ右ノ裁判ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要領ハ原裁判所於テ被告カ該藥品ヲ賣捌キタルモノト判定セラレタルモ明治十五年五月ノ始末書中藥名一口毎ノ詳細調ニ於テ馬内羅藥ノ内二十五帖ヲ除キ其他ハ現在或ハ廢棄或ハ他人ニ配置シタルモ代價ヲ受取ラサルコト明瞭ナリ然ルニ其事實ヲ推究セス單ニ賣捌キ云々ト判定セラレタルハ事實ニ齟齬アル不當ノ裁判ナリ又馬内羅藥ノ内二十五帖販賣シタル分ハ保命内羅散ノ用法ヲ更改シタルモノト判定セラレシモ馬製藥營業願書中但書ニ功能用法ノ大体ヲ証シタルマテナレハ之ヲ精細ニ記載シタルモノニシテ決シテ用法ヲ更改セシニ非ス然ルニ之ヲ更改シタルモノト判定セラレシハ事實ノ齟齬アルモノニシテ從テ擬律ノ錯誤ニ係ル不當ノ裁判ナリト云フニアリ

原裁判所檢事補大堀武八ハ被告カ上告ノ旨趣ハ不當ナリト答辯シタル上附帶上告ヲ爲セリ其要領ハ被告カ官許保命内羅散ナル賣藥ヲ私ニ馬腹痛藥馬内羅藥馬背摺藥馬足痛藥ト四種ノ特稱ヲ附シ用法能書ヲ改更シタルナリ故ニ賣藥規則第二條第四條ニ違背シタルモノナレハ其藥名ヲ改メ用法能書ヲ改更シタル藥劑四方ニ對シ同則第二十二條ニ依リ各方毎ニ罰スヘキモノナルニ原裁判所於テ四方ヲ合シ一方ト爲シ處罰セシハ法律ノ明文ニ背キタル擬律

ノ錯誤アル裁判ナリト云フニアリ

本院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ナスコト左ノ如シ
被告上告ノ趣旨ハ要スルニ原裁判官ノ判定シタル事實及證據ノ採擇ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キスソ治罪第法四百十條第九項十項ニ適當シタル原由ト爲スニ足ラス而シテ附帶上告ノ旨趣ハ被告カ官許保命内羅散ノ用法能書ヲ更改シ四個ノ持名ニ付シタル上ハ各一方毎ニ罰金ヲ科スヘキモノナリト云フニアレトモ被告ノ所爲ハ只保命内羅散ノ用法能書ヲ更改シ四個ノ名稱ヲ付シタルニ止マリ其藥劑ノ一方ナルコト明ラカナレハ之ヲ以テ各別種ノ方劑ナリト云フヲ得ス因テ原裁判所於テ賣藥規則第二十二條ニ依リ一劑ノ罰金ヲ料シタルハ相當ニシテ擬律ノ錯誤ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告及附帶上告ハ之ヲ棄却ス
第千二百六十三號

○判文〔集會條例違反〕明治十七年三月四日上告
年五月七日發付

福島縣磐城國田村郡菅谷村

平民八等小賣商

佐藤萬吉

明治十七年二月

二十三年二月

同縣同國同郡同村平民農業

佐久間 万次郎

明治十七年二月

二十一年五月

明治十七年二月八日福島輕罪裁判所平支廳ニ於テ右被告人兩名カ所爲ヲ審理シ被告等ハ明治十七年一月十九日夜其會テ設置シタル共正館ニ於テ名ヲ學術演說會ニ藉リ政談ヲ爲シタル者ト判定シ集會條例第十六條第二項同第十條ニ依リ各罰金十圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告等ハ學業ノ恭微スルヲ憂ヒ共正館ヲ設ケ學術上ノ演說ヲ爲スモ政治ニ關スル事項ヲ論議スルヲナシ現ニ原裁判官ニ於テ政談ヲ爲シタリトセラレタル當夜ニ於テモ万次郎ハ數學ヲ爲サスンハ人間ノ實ナカルヘシトノ演題ニテ算術ノ事ヲ講シ毫モ政談ニ涉リタルコトナク万吉ハ主義ハ屈大可カラス及ヒ良醫ナカル可カラストノ演題ニテ學術ノ演說ヲ爲シ引例トシテ古來歷史上ニアル處ノ專制政府ノ事ヲ講論シタルニ過キス且ツ當夜ハ官吏ノ監臨シタルコトモナク被告等カ演說ヲ終リタル後ニ於テ點燈ヲモ携ヘス巡查三名突入シ被告等ヲ拘引シタルモノニテ素ヨリ監臨筆記モナキニ原裁判官ハ單ニ巡查等カ口頭ノ証言ニ依リ有罪ノ判定ヲ下シタルハ事實理由ニ齟齬アル裁判ナリト云フニ在リ仍ホ退申書ヲ出シテ前趣意ヲ擴張シ原裁判官擬律ノ錯誤アリト論告セリ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコ左ノ如シ

証憑ヲ採擇シテ事實ノ有無ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル者ナレハ其判定ニ對シテ不服ヲ訴フルモ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サル者トス本案被告等カ上告論旨ノ如キ

ハ單ニ學術演說ヲ爲シタルモ政談ヲ爲シタルニアラス然ルチ原裁判官ハ巡查カ口頭ノ陳述ノミニ依リ處斷シタルハ不當ナリト云フニ在リテ事實ノ理由ニ齟齬アリ擬律ノ錯誤アリト陳辯スルモ其歸着スル所ハ要スルニ裁判官カ職權内ナル事實採証ノ如何ヲ論難スルニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲スコトヲ得ヘキ理由ナキ者トス右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

第千二百六十四號

○判文〔集會條例犯〕明治十六年四月廿六日上告
同 十七年五月七日發付

岡山縣美作國眞島郡垂水村

平民

飯 田 薫

明治十六年三月

二十五年三月

同縣同國同郡同村平民

金 田 謙

明治十六年三月

二十五年五月

同縣同國同郡同村平民

木村 房太郎

右三名カ被告事件ニ付明治十六年三月十二日岡山輕罪裁判所津山支廳ニ於テ被告共ハ同年二月十日無届ニテ公衆ヲ集メ政事ニ關スル事項ヲ演說縱聽セシメ房太郎ハ仍ホ臨場警察官ヲ侮辱シタルモノト判定シ右第一ノ事實ニ對シテハ明治十三年第十二號布告集會條例第一條及ヒ第十條ヲ適用シ第二ノ房太郎カ所爲ニ對シテハ刑法第四百一十一條並ニ明治十四年第七十二號公布第五條ヲ適用シ被告三名ノ内黨ハ罰金十五圓ニ謙ハ罰金十圓ニ房太郎ハ罰金十圓及ヒ重禁錮二月ニ處シ罰金十圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告三名カ上告ヲナシタル主要ハ抑モ被告等カ明治十六年三月十日居村石田直藏宅ニ於テ催シタル集會ハ純然タル知己朋友ノ親睦會ニシテ公衆ヲ集メタル政談演說會ニアラス故ニ席上懇話中談偶々政治上ニ涉ルコアルモ豈之ヲ以テ公衆ヲ集メ政談演說ヲ爲シタル者ト同一視スルヲ得ンヤ然ルニ原裁判官カ名ヲ親睦會ニ托シ其實公衆ヲ集メテ政談演說ヲ爲シタルモノト判定セラレシハ甚ダシキ不當ニアラスヤ殊ニ被告房太郎カ壓制官吏云々ノ語ヲ以テ臨監警吏ヲ侮辱シタルトノ點ニ至テハ其証憑單リ隨行巡查ノ虛言造語アルニ止リ他ニ一モ其証左之レナキノミナラス同人ハ早々退場セシヲ以テ實際其目前ニ於テ侮辱スル等ナシ然ルニ原裁判官ハ右巡查等ノ詐言ヲ偏信シ反テ被告等ノ實供ヲ排斥シ全ク官吏ヲ侮辱セシモノト認定セラレシハ是亦不法ニ付只管該裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ同裁判所檢事補小貫清成カ答辯ノ要旨ハ到底上告ノ理由ナシト云フニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ被告三名代言人

大井憲太郎ノ陳述並ニ立會檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ代言人ニ於テハ上告ノ旨趣ヲ擴張シ原判文中被告等カ如何ナル方法ヲ用ヒテ公衆ヲ集メタルヤ其告知ノ方法及ヒ之レニ由テ多數人民カ集會シタルトノ事實記載ナキハ即チ事實理由ヲ付セサルモノニシテ好シヤ其判文ニ記載アル處ヲ以テ充分ナリトスルモ公衆ヲ集メ政談演說ヲ爲シタル者ニ非サレハ集會條例ノ範圍内ニ入ラサルモノトス然ルチ該條例ニ問擬セシハ擬律ノ錯誤ナリト云ハサルヲ得ス而シテ又被告房太郎カ臨場警察官ヲ侮辱シタルトノ點ニ至テハ根元其事實ナキモノニシテ房太郎カ當時其場ニ居合セサル事ハ各被告人ノ期セスシテ相符合スル所ノ証言アルアレハ同人カ臨場警察官ヲ侮辱スル等之レナキノミナラス好シヤ壓制官吏云々ト言ヒタリトスルモ未タ以テ官吏侮辱ノ罪トハ爲シ難カラン然ルニ刑法第四百一十一條ヲ適用セラレシハ是亦擬律ノ錯誤ト云ハサルヲ得ス是レ上告シテ該裁判ノ破毀ヲ求ムル所以ナリト論辯シ立會檢事ニ於テハ原判文ノ全部ヲ通看スレハ事實理由モ付シテアリ擬律モ致シテアリ誠ニ完全ナル裁判言渡ニシテ毫モ間然スル處ナケレハ上告ヲ棄却アランコト望ムト陳述セリ因テ之レヲ審按スルニ各被告人ハ固ヨリ代言人ニ於テモ縷々原裁判ノ不當ナルコトヲ論告スルモ其旨趣タル概チ事實判定又ハ証憑取捨ノ當否ニ涉リ何レモ承審官カ職權内ノ處分ヲ是非スルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲シ得ヘカラスアルモノトス又代言人ニ於テ原判文上事實理由ヲ付セサル處アリト云フモ其判文中(是則チ名ヲ親睦會ニ托シ其實公衆ヲ集メ政事ニ關スル事項ヲ演說縱聽セシメ)云々トアリテ無届ニテ公衆ヲ集メ以テ政談演說ヲ爲シタルノ事實理由完備セルカ故ニ此論旨亦相立ストス然リ而シテ該判文上他ニ又瑕瑾アルチ見

サレハ該裁判至當ニシテ更ニ破毀ノ原由ナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ
遵ヒ該上告ハ都テ棄却スル者也

第千二百六十五號

○判文(証券印税反則)明治十六年五月十九日上告
十七年五月七日發付

熊本縣肥後國玉名郡高瀬町

二十九番地平民現今山鹿町

井泉吉方止宿代書營業

川 浪 五 郎 二

明治十六年四月

二十五年三月生

同縣同國同郡繁根木村五百

十壹番地士族材木商

大 江 壽 一 郎

明治十六年四月

五十一年九月生

明治十六年四月二十七日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ右川浪五郎二大
江壽一郎カ被告事件ヲ審理シ被告兩名ハ第一材木賣渡証書第二約定証並ニ借用金証書ヲ無
印紙ニテ授受シタルモノトシ刑法第五條及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ照シ第一ノ所爲

ハ証券印税規則第二則第一條同第四則第二條ニ依リ壽一郎ハ脱税高壹圓六拾三錢ノ二十倍
五郎二ハ十倍ノ罰金ニ該リ第二ノ所爲五郎二ハ脱税高四錢ノ二十倍壽一郎ハ十倍ノ科料ニ
該ルヲ以テ壽一郎ハ三拾貳圓六拾錢ノ罰金四拾錢ノ科料ニ處シ五郎二カ第一ノ所爲ハ拾六
圓三拾錢ノ罰金第二ノ所爲ハ自首シタルヲ以テ刑法第五條第二項同第七十條同第八十五條
ニ依リ一等ヲ減シ六拾錢ノ科料ニ處シタリ被告兩名ハ其裁判ヲ不法ナリトシ五郎二カ上告
セシ要旨ハ被告ハ未發前自ラ印紙ヲ貼用シ告發シタルハ犯則者ニ非ス然ルニ何等ノ理由ヲ
モ明示セス且証券印税規則第四則第十四條ヲ適用セズシテ罰金ヲ言渡シ又被告ハ委員ノ資
格ナルニ一己ノ資格ト爲シ判定セラレタルハ違法越權ノ處分ナレハ破毀アラソクテ請願ス
ト謂フニ在リ壽一郎カ上告ノ要旨ハ川浪五郎二ハ部内人民ヨリ架橋委員ノ名稱ヲ剽奪セラ
レ材木賣買約定証ハ無効ニ屬セリ假ニ有効ト爲スモ該証書ハ川浪五郎二カ草稿ヲ作り被告
之ヲ筆記シテ五郎二ニ授與シタル者ナレハ減輕セラレヘキニ事茲ニ出テスシテ罰金ヲ言渡
サレタルハ服スル能ハスト謂フニ在リ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ
上告ノ趣旨ハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲スヲ得ヘキ各項目ニ恰當セサルヲ以
テ總テ其原由ナキモノトス抑五郎二ハ自ラ告發シタレハ印税規則第四則第十四條ヲ適用ス
ヘシト論告スレトモ是法律ヲ誤解シタルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ同條ハ他人犯
則アルニ當リ之ヲ告發シタル者ハ賞與スヘキヲ指定シタルモノニシテ自己ノ犯則ヲ首告
シタル者ニ適用スヘキ法條ニアラサレハナリ其後ニ印紙ヲ自貼シタレハ犯則者ニアラスト

ノ論旨モ亦タ法律ヲ誤解シタルモノナリ何トナレハ証券印税規則違犯ノ罪ハ証券授受ノ時ニ成立チタル者ナレハ事後印紙ヲ自貼スルモ已ニ成立チタル犯罪ノ消滅スヘキモノニ非サレハナリ而シテ五郎二ハ委員ノ資格ナレハ罰ヲ受クヘキ者ニ非サルカ如ク論告スレトモ決テ罰ヲ免カルヘキ者ニ非ス何トナレハ其印紙ヲ貼用セサルハ全ク五郎二一己ノ所爲ニシテ委任者其人ノ所爲ニアラサレハナリ又壽一郎ハ証書ノ有効無効ヲ論シ或ハ刑ヲ減輕セサルハ不當ナリト論告スレトモ是事實點ニ干渉シ判官ノ職權内ニ侵入シタル論旨ナレハ總テ採用スルコトヲ得サルモノトス何トナレハ事實ヲ判定シ刑ヲ酌減スルハ事實判官ノ職權ニシテ佗ヨリ之ヲ左右スルコトヲ得サルモノナレハナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スルモノ也
第一千二百六十六號

○判文(証券印税規則犯)明治十六年十一月廿一日上告
同十七年五月七日發付

大阪府西區北堀江三番町十
五番地平民

長興藤次郎

明治十六年十月

四十三年

右藤次郎及ヒ森本小兵衛カ被告事件ニ對シ明治十六年十月二十二日大阪輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治七年第八十一號布告証券印税規則第二則第一條第三類ニ屬スル明治十六年八月

二十日付金六百五十圓及ヒ五百圓ノ借用証書ニ印紙貼用セズ授受シタル者トシ同則第四則第二條ニ依リ仍ホ明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ藤次郎ハ二十倍ノ罰金三十三圓ニ處シ小兵衛ハ十倍ノ罰金十一圓五十錢ニ處スト言渡シタルニ服セズ被告長興藤次郎ハ上告セリ其要領ハ本案ニ通リ借用証書ハ小兵衛カ被告ヲ恐喝騙取シタル者ニテ其事實ハ大坂始審裁判所ニ於テ民事訴訟中小兵衛カ自白ニ依テ明白ナレハ原裁判所ニテ此儀ヲ問ヒ合ハサレンコトヲ請求シタルニ採用セズ直チニ裁判ヲナシタルハ越權ノ處分ナリ且該証書ハ警察署人民溜リ所ニ於テ騙取セラレタル者ナレハ此際印紙ヲ貼用セントスルモ爲シ能ハサル場合ニテ固ヨリ罪ヲ犯ス意アルニ非ス况ンヤ印紙貼用スルノ用ナキ反古同様ノ証書ナルニ被告ヲ犯則者トシテ罰セラレタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云ニ在リ原檢事補水村定治ハ上告ノ非理ニシテ原裁判ハ相當ナル旨答辯セリ

茲ニ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
被告カ上告ノ趣旨ハ本案ノ証書ハ曩キニ民事訴訟中森本小兵衛カ自白セシコトアルヲ以テ原裁判ニテ此儀ヲ問合ハサレンコトヲ請求シタルニ採用セズ直チニ裁判ヲナシタルハ不法ナリト云ニ在レハ訴訟書類ヲ閱スルニ被告カ右請求ヲナシタル廉ヲ認ムヘキ者毫モ之レナシ要スルニ無根ノ陳述ヲナシ破毀ヲ試ミントスルニ過キズ其他縷々論告スル處アリト雖モ總テ原裁判所ノ職權内ニ立入事實ノ當否ヲ論難スルニ止ルモノナレハ上告ノ原由ナキモノトス右ノ理由ナルヲ以テ本訴ハ治罪法第四百十條ニ適當セサルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千二百六十七號

○判文(烟草稅犯則) 明治十六年四月五日上告
十七年五月七日發付

山形縣羽前國南村山郡山形
宮町平民烟草小賣商

原 田 吉 藏

明治十五年十二月
三十八年十二月生

二〇〇

右吉藏カ被告事件ニ付明治十五年十二月廿二日山形輕罪裁判所カ製造烟草ニ印紙ヲ貼用致シ置クヘキトアルニ違背シタルモ之ヲ罰スヘキ法ノ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補土屋安久ハ上告セリ其要領ハ明治十年第十四號布告ハ烟草稅則第三則第七條ヲ擴張シタル法律ナルヤ明カナルニ原裁判所ハ無印紙烟草ヲ店頭ニ展示スルハ明治十年第十四號布告ニ違背シタルモ之ヲ罰ス可キ法律ノ明文ナシト斷了シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトシ破毀ヲ要求セリ
對手人被告原田吉藏ハ之ニ答辯セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按スルニ
明治八年第五百十號布告烟草稅則第三則第七條ニ烟草印紙ヲ用ユヘキ製造烟草ニ印紙ヲ貼用セス自用ノ人ヘ賣出ス者云々トアリテ明治十四年第十四號布告ト密着離レサル法律ナレハ其店頭ニ展示シタル製造烟草ニ印紙ヲ貼用セサル者ハ勿論同則第七條ノ製裁ハ免カレ得

ヘカテサルモノナリトス然ルニ原裁判所カ法律ニ正條ナキモノトシ之ヲ處罰セサルハ治罪法第四百十條第十項ニ該ル上告ノ原由アル裁判ナリト判定ス
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

原裁判所カ各種ノ証憑ニ依リ確認セシ事實ハ烟草稅則第三則第七條ニ依リ罰スヘキ犯則ノ罪ナリトス

其第七條ニ烟草印紙ヲ貼用スヘキ製造烟草ニ印紙ヲ貼用セス自用ノ人ヘ賣出ス者ハ脫稅高ノ二十倍ノ科料可申付事トアリテ犯則ニ係ル十錢未滿ノ製造烟草三十二本ト五十九玉合テ九十一箇此ノ脫稅高四十五錢五厘ノ二十倍九圓十錢トナル

刑法第三條ニ從ヒ之レヲ改定烟草稅則ニ照スニ其第三十五條ニ烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアリテ舊法輕シトス

因テ被告原田吉藏ヲ九圓十錢ノ罰金ニ處スルモノ也
第一千二百六十八號

○判文(烟草稅犯則) 明治十六年四月十八日上告
十七年五月七日發付

山形縣羽前國南村山郡山形
七日町平民烟草小賣營業人

矢 萩 金 助

二〇一

明治十五年十二月二十九日

右金助カ被告事件ニ付明治十五年十二月二十二日山形輕罪裁判所ニ於テ被告ハ烟草一個ニ付拾錢未滿二十八個二十錢未滿四個ニ印番ヲ貼用セス之ヲ店頭ニ展示シタルモノトシ右所爲明治十年第十四號公布ニ違犯シタルモ烟草稅則中其所爲罰スルノ正條ナキヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ檢事補大内幹カ上告ヲ爲シタル旨趣ハ明治十年第十四號公布ハ製造烟草ヲ自用人ニ賣渡ス節印紙貼用スヘキ成規ナルヲ前以テ印紙貼用スヘキヲ成定シタルハ烟草稅則第三則第七條ニ依リ處分スヘキモノト云フニアリ對手人被告金助ハ答辯セズ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ明治十年第十四號公布ニ（製造烟草ノ儀ハ自用人ノ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候處爾來自用人ノ購求ニ宛テ候製造烟草ハ前以テ印紙貼用致シ可置云々）トアルニ據レハ此布告ニ背キ自用人ノ購求ニ宛ツ可キ製造烟草ニ印紙ヲ貼用セサル者ハ明治八年第五百十號布告烟草稅則第三則第七條ニ依リ脫稅高二十倍ノ科料ニ處ス可キモノナルヤ明白ナリ然ルニ原裁判所ハ該布告ニ違背シタル事實ヲ認メナカラ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ裁判スル左ノ如シ

矢 萩 金 助

右ノ理由ナルヲ以テ被告事件ハ原裁判所ノ認定シタル事實ニ依リ當時明治八年第五百十號烟草稅則第三則第七條ニ依リ脫稅高九錢六厘ノ二十倍即チ科料金壹圓九十二錢ニ處スヘキ

現今明治十五年第六十三號布告煙草稅則第七章第三十五條ニ依リ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノナルヲ以テ刑法第五條ニ若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フトアルニ依リ之ヲ同法第三條ニ照シ新舊法ヲ比照スルニ舊規則輕キヲ以テ其規則ニ從ヒ科料金壹圓九拾貳錢ニ處スルモノ也

第一千二百六十九號

○判文(烟草稅犯則)明治十六年十一月一日上告
十七年五月七日發付

福島縣岩代國岩瀨郡須賀川
村西二丁目平民烟草製造兼
仲買營業

有 馬 卯 八

明治十六年十月三十五年

烟草稅則違犯被告事件ニ付明治十六年十月九日福島輕罪裁判所白河支廳カ被告ヲ烟草稅則第二十二條ニ違犯セシ者ト認メ同罰則第三十五條ニ依リ罰金十圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス右卯八ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ製造場ニ未製造ノ烟草ヲ乾カスカ爲メニ差置タル迄ニテ印紙無貼用ノ烟草ヲ所持シタル者ニアラス因テ烟草稅則第二十二條ニ抵觸セシ義ニ之ナキヲ原裁判所ニ於テ日限ノ經過ト檢査官ノ告發トニ依リ同罰則第三十五條ニ依リ處分セラレタルハ不當ナルヲ以テ更ニ覆審ヲ求ムト云フニアリ

一〇四
對手入檢事補安藤武吉ハ原裁判ハ事實ニ適セル裁判ニシテ被告カ上告ハ其當ヲ得ザル旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任事判ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
上告ノ理由トスル所被告ハ未製造ノ烟草ヲ乾カス爲メ製造場ニ差置タル迄ニテ無印紙ノ烟草ヲ所持シタル者ニアラサレハ烟草稅則第二十二條ニ牴觸セシニアラサルヲ原裁判所ニ於テ日限ノ經過ト檢査官ノ告發トニ依リ同罰則第三十五條ニ依リ處分セラレタルハ不當ナリト云フニアリテ徒ニ原裁判官カ判定セシ事實上ニ立入り之ヲ非難シテ事實ノ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ乃チ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ至ル項目ニ適當セサルヲ以テ上告ノ原由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

福島縣岩代國岩瀬郡須賀川

村西二丁目平民烟草製造兼

仲買營業

有馬 卯 八

明治十六年十月

三十五年

煙草稅則違犯被告事件ニ付明治十六年十月九日福島輕罪裁判所白河支廳カ被告ヲ煙草稅則第十五條及ヒ第十六條ニ違犯シタル者トシ同罰則第三十八條ニ依リ罰金五圓ニ處シ仍ホ賣代金一圓二十九錢六厘ヲ追徴スト言渡シタル裁判ニ服セス右卯八ハ上告ヲ爲シタリ其要旨

ハ有馬「エイ」ハ賣渡シタル煙草ハ舊裝置品ニ係ルモ七月一日以後自カラ五匁ニ崩シタル上帶ハ印紙ヲ用フヘキ筈ナルニ當時該印紙賣切レ居ルヲ以テ已ムヲ得ス角印紙ヲ貼用セリ又右崩シタルモ正五匁ニ直シ定價量目ヲ附記シ置タル次第ニシテ五匁以下ニ崩シ賣ヲ爲シタルニアラサルヲ原裁判所ニ於テ煙草稅則第十五條及ヒ第十六條ニ違犯セシ者トシ同罰則第三十八條ニ依リ處斷セラレタルハ不當ナルヲ以テ更ニ公明ノ判決ヲ求ムト云フニアリ
對手入檢事補安藤武吉ハ原裁判ハ事實ニ適セル裁判ニシテ被告カ上告ハ其當ヲ得サル旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任事判ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
上告ノ理由トスル帶印紙賣切レ居ルヲ以テ已ムヲ得ス角印紙ヲ貼用セリトノ論旨ハ徒ニ事實上ニ涉リ治罪法第四百十條ニ規定セル第一ヨリ第十一ニ至ル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ原由ナキ者トス然レモ本件被告事實ハ原裁判言渡ニ看認メシ如クナレハ上告論旨ノ如ク五匁以下ニ崩シ賣ヲ爲シタルニアラサルヲ以テ煙草稅則第十四條ヲ適施スヘキ者ナルニ原裁判玆ニ出ス同則第十五條ヲ適用シタルハ乃チ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル擬律錯誤ノ裁判ナリトス

有馬 卯 八

原裁判言渡ニ看認メシ事實ニ因リ之ヲ法律ニ照スニ煙草稅則第十四條ニ刻煙草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消

印シ云々ス可シ第十六條ニ刻煙草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス而シテ其第三十八條ニ第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者云々五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ストアルニ該ル因テ被告ヲ煙草稅則第十四條ニ違犯シタル者トシ同則第三十八條五圓以上五十圓以下ノ罰金ノ範圍内ニ於テ罰金五圓ニ處シ仍ホ賣代金壹圓貳拾九錢六厘ヲ追徵スル者也

○判文(煙草稅犯則) 明治十六年十月三十日上告
同 十七年五月七日發付

秋田縣羽後國山本郡能代畑
町平民煙草小賣營業

大和半十郎

明治十六年十月

三十六年生月不知

右半十郎カ煙草稅則違犯被告事件ニ對シ明治十六年十月九日能代治安裁判所ニ開キタル秋田縣罪裁判所ニ於テ上告セサル他ノ二被告カ稅則施行前ヨリ所持ノ裝置セル刻ミ煙草ニ貼用セシ印紙ヲ墨肉ヲ以テ消印セシテ販賣又ハ所持シタルハ稅則第十四條及ヒ明治十六年太政官第二十號布達第五項ニ違犯セル者トシ同則第三十八條ニ照シ罰金五圓ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル煙草五貫二百五十匁ハ沒收シ其賣捌キ代價十三圓四十四錢ハ追徵スト言渡シタル

ニ服セス上告セリ其要領ハ被告カ朱肉ヲ以テ消印セシハ明治十六年第二十號布達以前ニ在ツテ未ダ何ノ肉ヲ以テ消印スヘシトノ規則ナキ當時ノ所爲ナリ且同年太政官第十八號布達ヲ以テ既ニ裝置セル分ハ本年限リ其儘賣捌クヲ得ルト明示アルニ既往ニ溯リ判決セラレタルハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人警部補根田忠正ハ被告カ朱肉ヲ以テ消印シタルヲ稅則第十四條ノ犯則者トナシタルハ不當ト認ムレト被告ト其論點ヲ異ニセリ抑明治十五年第六十三號公布第二十條ニ煙草印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムトアリテ同則第十四條ニハ細則ヲ定ムル明文ナシ然ラハ第二十號布達第五項ニ違犯セシモノニモセヨ犯則者ト爲スノ理由ナシ又該裝置煙草ノ如キハ第二十號布達第四項ニ背反シタル者ナルニ原裁判所ハ此項ニ觸レタルヲ問ハス獨リ五項ニ觸レタルノミヲ問ヒタルハ何等ノ點ニ出タルカ到底原裁判所ハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムル旨答辯書ヲ付セリ尙附帶ノ上告ヲ爲シテ曰ク被告カ改正稅則施行前ヨリ所持ノ煙草ニ自己ノ氏名住所ヲ附記セサル一部ハ已ニ公訴ヲ拋棄セリ原裁判所ハ此廉ニ對シ治罪法第三百一條ニ基キ相當裁判ヲ爲スヘキ者ナルニ之レカ判決ヲ降サ、リシハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムル旨上告書ヲ送致セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ
被告カ裝置セル刻ミ煙草ニ貼用セシ印紙ヲ墨肉ヲ用ヒス朱肉ヲ以テ消印シタルハ改定稅則施行以前ノ所爲ナルヲハ原裁判所ニ於テ認定スル處ナリ又明治十六年太政官第十八號布達ヲ以テ稅則施行以前裝置セル製造煙草ハ其儘賣捌クヲ得ルトアリ既ニ原裁判所ハ被告事

實ヲ認メ又斯ク第十八號ノ布達アルニモ拘ハラス改定稅則第十四條及ヒ明治十六年太政官第二十號布達ニ依リ被告ヲ犯則者ト斷定シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ適當スル破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリトス又訴訟書類ヲ閱スルニ原檢察官カ附帶上告ノ如ク該官ニ於テ當初被告カ刻ミ煙草ニ自己ノ氏名住所ヲ附記セサル廉チ公訴ニ及ヒ爾后之レヲ拋棄シタルモ一旦公訴ニ係ル條件ナル上ハ相當裁判ヲ爲スヘキ筋ナルニ之レニ判決ヲ降サ、リシハ治罪法第三百一條ニ背反スルモノニシテ同法第四百十條第七項ニ適當スル破毀ノ原由アル上告ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ依リ被告ノ三罪ニ對スル裁判ノ中上告ニ係ル一部分即チ刻ミ煙草ニ貼用セル印紙ヲ墨肉ヲ以テ消印セサル所爲ニ對スル裁判及ヒ刻ミ煙草ニ被告ノ姓名住所ヲ附記セサル公訴ニ對シ相當裁判ヲ與ヘサルトチ破毀シ山形輕罪裁判所ヘ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第一千二百七十一號

○判文(徵兵令犯則) 明治十六年十一月十四日上告
十七年五月七日發付

京都府山城國紀井郡深草村

平民農業

小西七左衛門

明治十六年十月

三十九歲

右七左衛門カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十六日京都輕罪裁判所ニ於テ被告ハ實弟喜三郎カ徵兵適齡ナルヲ以テ免役セシメンカ爲メ明治十四年九月五日付ヲ以テ山本「モヨ」ノ養子ト爲シタル虛構ノ屆書ヲ偽造シ又同月十日付ヲ以テ徵兵各自屆書ヲ偽造シ終ニ喜三郎ヲシテ徵兵ヲ免レシメタル者トシ刑法第三條ニ從ヒ其私書偽造罪ハ改定律例第二百四十六條不應爲重キニ問ヒ七十日ノ懲役ト刑法第二百十條後項ノ刑ヲ比照シ徵兵ヲ免カレシメタル罪ハ雜犯律違令律ニ依リ四十日ノ懲役ト刑法第一百七十八條ノ刑ヲ比照シ仍ホ自首スルヲ以テ新舊ノ自首法ヲ比較シ私書偽造罪ハ舊法ノ輕ニ從ヒ之ヲ全免シ免役セシメタル罪ハ新法實施以後ニ繼續スルヲ以テ舊法ノ自首法ヲ適用セス刑法第八十五條ニ依リ同法第一百七十八條ノ刑期金額ニ一等ヲ減シ一月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判不當ナリトシ被告小西七左衛門ハ上告セリ其要領ハ被告カ該偽書ヲ製セシハ實弟喜三郎ナシテ山本「モヨ」ノ養子タラシメントノ零ホ相談アリシカ故ニ追テ「モヨ」ニ請ヒ真正ノ書面ト之ヲ更改セハ敢テ不可ナカルヘシト思惟セシニ因ルモノナレハ爾後「モヨ」ニ於テ異約セシ故被告ハ悔悟ノ余リ之ヲ原裁判所ノ檢事ニ自首シタルモノナレハ刑法第三條ノ趣旨ニ基キ輕キ舊法ニ從ヒ其罪ヲ全免スヘキ筈ナルニ單リ私書偽造罪ノミチ全免シテ免役セシメタル罪ハ繼續犯ナリト斷セシ耳ナラス他人ノ免役ヲ圖リタル者ニ適用スヘカラサル刑法第三百七十八條ノ刑ヲ科セシハ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人原裁判所檢事補恒河修一郎ハ右上告ノ理由ナキ旨辯駁シ而シテ附帶上告ヲ爲シタル要領ハ被告カ喜三郎ヲ免役セシメタル罪ハ事已ニ官ニ發覺シタル以後自首シタルモノニ付

刑法第八十五條ノ減輕例ヲ用ユヘキモノニアラス又公廷ノ審問中被告カ山本「モヨ」ノ實印ヲ偽造シ前顯偽造書ニ之ヲ押捺シタリト供述シタルヲ以テ治罪法第二百七十六條ニ從ヒ別ニ其起訴アルヲ要セス之ヲ判決セサルヘカラス況ヤ刑ノ適用ニ付其意見モ已ニ述ヘタルヲヤ然ルニ原裁判所カ之ヲ不問ニ措キタルハ共ニ不法ノ處斷ナリト云フニアリ
因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ刑法第七十八條ノ初項ハ「陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ云々」トアリテ其免役ヲ圖ルノ手段ハ果テ徵兵ニ編入セラル可キ者躬自カラ爲スヲ必要トセリ

然ルニ本按被告ノ如キハ自己ノ免役ヲ圖リタル者ニアラスシテ實弟喜三郎ヲ免役セシメタル者ナレハ固ヨリ該條ノ裁判ヲ受クヘキ者ニアラサルヤ明晰タリ又治罪法第二百七十六條ニ「云々但辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ事件及ヒ公廷内ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラス」トアリテ其上文ノ禁法ニ反スル令法アルニモ拘ラス原裁判所カ審理中現ニ起訴ニ係ル私書偽造罪ニ附帶セシ私印偽造ノ廉ヲ被告カ供述セシ耳ナラス仍ホ檢察官ニ於テモ其判決ヲ求ムル趣旨ヨリ之ニ對スル刑ノ適用ニ付意見ヲ述ヘタル事實ハ公判始末書ニ徵シテ灼然タレハ宜シク此點ニ付テモ審理ヲ盡シ餘罪ト共ニ判決セサヘカラサルニ更ニ其處分ニ及ハサリシハ則チ治罪法第四百十條ノ第十項第十一ノ三個ニ適當スル破毀ノ原由アル裁判ナリトス其他非難ノ點ハ本按ノ必要ニアラサルカ故ニ別ニ辯明ナサス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判爲

セシメンカ爲メ之ヲ大坂輕罪裁判所ニ移スモノ也

第一千二百七十二號

○判文(詐欺取財) 明治十六年四月廿五日上告
同 十七年五月七日發付

山梨縣甲斐國東八代郡下曾

根村十番地平民

小林惣平

明治十六年二月

二十六年六月

明治十六年二月十四日甲府輕罪裁判所於テ右被告人小林惣平カ證書偽造詐欺取財ノ罪ヲ審判シ刑法第二百十條同第二百十二條同第二百九十四條ニ照シ情狀重キ刑法第二百九十條ニ從ヒ重禁錮十月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ仍ホ同第二百九十四條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡セリ

被告惣平ハ右裁判ヲ不服ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ハ證書偽造詐欺取財等ノ所爲アルナシ而シテ原裁判官カ證人トセラレタル長田友平小林多次右衛門等ハ被告ト私怨アル者ニテ告訴者トハ親戚ノ間柄ナルニ依リ告訴者ヲ保庇スル爲メ共謀シテ不實ノ申立ヲ爲ス者ニテ其他證人等ノ陳述モ皆證據ト爲ス可キ者ナシ然ルチ原裁判官ハ是等口頭ノ證言ヲ以テ證據ト爲シタルノミナラス豫審終結モナシ公判ニ付セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 上告ノ旨趣ハ被告ハ證書偽造詐欺取財等ノ所爲ナキニ原裁判官ハ證人等カ口頭ノ陳述ニ依
 リ處斷シタルハ不當ナリト云フニ在ルモ抑證據ヲ監別シテ犯罪ノ有無ヲ判定スルハ裁判官
 ノ職權ニシテ其判定ノ當否ヲ論訴スルモ上告ノ原由ト爲スチ得サル者トス且豫審終結ノ言
 渡モナク公判ニ付シタル旨論告スト雖モ一件書類ニ徵スレハ豫審終結言渡ヲ爲シタルコト明
 瞭ナレハ被告カ陳述ハ不實ノ飾言ニ過キス之ヲ要スルニ本件上告ハ事實ノ有無ヲ陳辯シテ
 原裁判官ノ判定ニ對シ漫ニ不服ヲ訴フルニ止マリ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ原由
 ナキニ因リ同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也
 第千二百七十三號

○判文(詐欺取財)明治十六年十一月廿七日上告
 同 十七年五月七日發付

大坂府南區瓦屋町一番地平
 民刻物職

篠 井 靜 枝

天保二年三月十二日生

同府東成郡天王寺村平民吳

服商

岡 本 万 助

天保十年正月廿八日生

右兩名カ被告事件ニ對シ明治十六年十月二十日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告共ハ他ノ一名ト
 謀リ中村万次郎ノ商品タル懷中硯ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ明治十五年五月六日同人宅ニ至
 リ各偽名ヲ稱シ該品六千九百七十組ヲ買取セント約シ代金ハ大坂表ニ於テ該品ト引換ニ爲
 カントテ手附金十圓ヲ差入レ置退テ万助ノ指示セシ家宅へ該品運搬セシ際万助於テ代金ハ
 靜枝宅ニテ渡サント偽リ万次郎ヲ連レ出シ跡ニ就テ靜枝ハ該品悉皆盜取シ去リシ耳ナラス
 仍ホ其前靜枝ハ他ノ一名ト謀リ花隈雄次郎ヲ欺キ半紙及ヒ半切ヲ騙取シタルモノト認定シ
 靜枝カ万次郎ニ對スル罪ハ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ照シ五月ノ重禁錮ト監視
 六月ニ處シ雄次郎ニ對スル罪ハ同法第三百九十四條第三百九十四條ニ照シ三月ノ重禁錮六圓
 ノ附加罰金六月ノ監視ニ處シ仍ホ同法第百條三項ニ照シ万次郎ニ對スル罪ノ重キ一ニ從ヒ
 執行受クヘキモノトシ万助ノ罪ハ万次郎ニ對スル靜枝ノ從犯タルヲ以テ仍ホ同法第百九條
 ニ照シ第三百六十六條ノ刑ニ一等ヲ減シ四月ノ重禁錮ト六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁
 判不當ナリトシ原裁判所檢事補御坐中治ハ上告セリ其要領ハ原裁判所カ認テ以テ事實ナリ
 トセシ所ニ據レハ被告等ハ共ニ詐術ヲ以テ中村万次郎ヲ瞞着シ物件騙取セシモノタルコト歷
 然タルニ之ニ竊盜ノ刑ヲ科セシハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀求ムト云フニ在リ
 對手人被告篠井靜枝岡本万助ハ被告等ノ行爲ハ賣買上ノ取引ナルヲ以テ曾テ渡シ置タル手
 付金十圓ヲ差引殘剩ノ額ヲ中村万次郎ニ渡スニ於テハ毫モ不可ナル所ナシ良シ又之レヲ詐
 欺セシモノト爲スモ竊盜ノ刑ヲ受クヘキ理由ナケレハ檢事補ノ上告ハ至當ナル旨辯辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事加納久宜ハ右上告ノ至當ナル旨意見ヲ陳へ併

テ附帶上告ヲ爲ス要領ハ被告万助ハ靜枝ト共ニ万次郎ヲ瞞着シ物件騙取セント謀リ躬身ヲ之ヲ行ヒタル事蹟アリト証明セシ上ハ刑法第四百條ニ依リ共ニ正犯ヲ以テ論スヘキニ却テ靜枝ノ從犯ト爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀更正ヲ求ムト云ニ在リ

因テ之ヲ審案スルニ被告等ノ所爲ハ欺罔シテ他人ノ財物ヲ騙取シタルヲハ原判文ニ徴シテ分明ナレハ已ニ詐欺取財ノ罪ヲ構造スヘキ原素完備セシモノニ付刑法第三百九十四條第三百九十四條ニ依リ處セサルヘカラス又被告萬助ハ靜枝ト共ニ糾合シ右事犯ヲ現ニ執行シタル者ナレハ其正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ト云フヘキモノニアラスシテ刑法第四百條ニ依リ正犯タルヲ勿論ナリ然ルニ原裁判所カ其判文中事實ノ結句ニ至テ僅カニ盜取ノ二字ヲ附シ以テ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用セシ耳ナラス仍ホ萬助ヲ同法第九條ニ照シ從犯ナリト斷セシハ共ニ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十二該當スル破毀ノ原由アルモノトス

右ノ理由アルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ依リ原裁判ノ上告ニ係ル部分ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ其裁判爲スヲ左ノ如シ

篠井 靜枝
岡本 萬助

原裁判所カ認定セシ中村萬次郎ニ對スル罪ハ刑法第三百九十四條及ヒ第三百九十四條ニ該當スルヲ以テ靜枝ヲ五月ノ重禁錮ト五圓ノ附加罰金六月ノ監視ニ處シ萬助ヲ四月ノ重禁錮四圓ノ附加罰金六月ノ監視ニ處ス

第千二百七十四號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十一月一日上告
同 十七年五月七日發付

富山縣越中國上新川郡豐田
村三百十五番地平民農業
市 田 三 郎

明治十六年十月
三十七年四月

右三郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月四日富山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ曩キニ中西間七郎へ賣却シタル舊高拾貳石ノ内反別三反七畝六步七厘ヲ明治十一年二月十六日馬場道久へ二重ニ賣渡シタルモノト認定シ所犯新法實施前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ依リ新舊法ヲ比較シ舊法ニ在テハ盜賣田宅條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金百六十二圓九十二錢懲役十年新法ニ在テハ刑法第三百九十三條同第三百九十九條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該當スルヲ以テ其輕キ新法ニ照シ重禁錮一年ニ處シ公訴裁判費用ハ被告ニ於テ擔當ス可シト言渡シタル裁判ニ服セス被告三郎ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本件舊高拾貳石ハ切高ノ姿ニ爲シ曩キニ中西間七郎へ年賣賣ニ爲シタルヲ明治九年中示談ノ上該代金ハ更ニ借金ト爲シ地所ハ被告人へ取戻シ然ル後馬場道久ニ賣却セシモノナリ然ルヲ已ニ他へ賣却セシ地所ヲ二重ニ賣渡シタルモノト判決セラレタルハ審理不盡不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人檢事補土屋次郎八ハ原裁判ハ相當ニシテ被告カ上告ハ治罪法第四百十條ニ列記スル

以外ノモノナリトノ答辯ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

凡ソ徵証ノ採擇事實ノ認定ハ法律上承審官ノ特權ニ任從スル所ニシテ其職權上ニ於テ採擇シタル事實ニ對シテハ他ヨリ非難論及スルヲ得サルモノトス而シテ被告カ上告ノ主旨ハ專ラ承審官カ認定シタル事實ノ點ニ對シテ不服ヲ唱フルニ過キスシテ到底治罪法第四百十條ニ定メタル各項目外ニ涉リ上告ノ理由ナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノ也

第一千二百七十五號

○判文(詐欺取財) 明治十六年四月十六日上告
同 十七年五月七日發付

宮崎縣日向國兒湯郡荒武村
士族農業

關 屋 善 藏

明治十六年二月
三十五年一月

右善藏カ官吏ノ公証文書ヲ増減變換シテ行使シ及詐欺取財被告事件ニ付明治十六年二月八日鹿兒島輕罪裁判所宮崎支廳ニ於テ刑法第三條第二項ニ依リ公証ノ証書ヲ増減變換シテ行使シタル罪ハ新法ニ在テハ刑法第二百四條舊法ニ於テハ詐偽律詐爲官文書條ニ依リ懲役三

年ヨリ五等ヲ減シ懲役百日舊法ヲ輕シトス又詐欺取財ノ罪ハ新法ニ在ツテハ刑法第三百九十條第三百九十四條舊法ニ於テハ賊盜律詐取財條ニ依リ贓金百二十圓以上懲役十年新法ヲ輕シトス因テ刑法第百條第三項ニ從ヒ一ノ重キ刑法第三百九十條ニ依リ明治十四年第八十一號布告ニ照シ單ニ重禁錮二年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告善藏カ上告シタル主旨ハ該証書ノ金員タル齋藤次郎等ト連帶借金ナレハ素ヨリ右次郎ノ田地モ記入シテ公証ヲ受ケ后チ催促ヲ受ルニ際シ自己借用ノ元利金返辦ノ義ハ債主約諾ノ上証書ニ債主ニ於テ附箋ヲ爲シ調印モ爲シ在ル筈ナルニ其附箋ヲ如何セシヤ是等ノコトニ付次郎ト對決チ請フモ採用ナクシテ有罪ト認定セラレタル事實ニシテ被告ニ於テ官吏ノ公証シタル証書ヲ増減變換シタルモノニ非ラス其公証付ナル私書ヲ變換シタルハ債主卯兵衛ニアルモ被告ノ所爲ニ在ラサルハ次郎等モ知ル處ナルニ前記ノ如ク處斷セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ同裁判所檢事補松田方規ハ原裁判至當ニシテ上告ノ理由ナキコトヲ答辯セリ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ仍ホ立會檢事加納久宜ノ上告ニ對スル意見且附帶上告ヲ聽クニ本案上告ハ徒ラニ事實ノ判定ヲ非難スルニ止リ毫モ其理由ナシ然レモ原判文ヲ閱スルニ被告ハ一旦戸長ノ與書ヲ爲シタル畑地抵當借用証書へ擅ニ他ノ田地ヲ更ニ記入シタルモノナレハ其所爲私書ニ關スル部分ヲ變換シタルニ止リ敢テ與書ヲ變換シタルニアラサレハ舊法ニ於テハ私文書詐爲ヲ以テ論シ不應爲ニ問フ可キモノナルニ詐爲官文書ヲ以テ罰シタルハ擬律錯誤ノ第一ナリ又數罪俱發ノ罪ヲ處スルニ新舊法ヲ比照スルニハ舊法中ノ重キモノト新法中ノ重キモノトヲ比照シ而ル後刑法第三條第二項ノ原則ニ從ヒ其輕キニ

從テ處斷スヘキモノナルニ原裁判玆ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ第二ナリ因テ之ヲ破毀シ直ニ相當ノ判決ヲ求ムトノ陳述アリ玆ニ之ヲ審按スルニ被告カ上告ハ承審官ノ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定ヲ論難スルニ過キカレハ治罪法第四百十條各項以外ニ涉リ毫モ上告ノ原由ナキモノナレハ相立クサルモノトス而シテ其附帶上告第一論旨ノ如キ其証書タルヤ割印帳ニ騰記ヲ求メ公証ヲ受ケタル上ハ其証書全体ニ効力ヲ生スルモノナレハ假令其與書ノ如キ公証人ノ筆記シタル部分ニ在ラサルモ其証書全面ノ内効用ニ關スル條項ハ幾部分ニ係ルモ之ヲ増減變換シテ行使シタル以上ハ舊法ニ在テハ詐爲官文書條餘ノ文書ヲ以テ論シ新法ニ於テハ刑法第二百四條ノ支配スヘキハ當然ナルヲ以テ之ヲ擬律ノ錯誤ト爲スヲ得ス然レニ第二點ハ其論旨ノ如ク新舊法比照ヲ誤リ即チ擬律錯誤ノ裁判タルハ勿論ナレニ本按被告カ犯罪ノ事實ニ於ケル原判官ノ認定シタル處ニ依レハ舊法ニ在テハ詐僞律詐爲官文書條餘ノ文書ヲ以テ論シ懲役百日ノ賊盜律詐欺取財條ニ依リ贓金百二十圓以上懲役十年ニ當ルニ罪併發スルヲ以テ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財條ニ依リ懲役十年ヲ相當トス又新法ニ於テハ刑法第二百四條ニ照シ輕懲役六年以上八年以下ト同法第三百九十條ノ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ該ルヲ以テ之レヲ同第三百九條ニ照セハ一ノ重キ同第二百四條ニ該當ス因テ之ヲ刑法第三條末項ニ照シ輕キ刑法第二百四條ニ依リ六年以上八年以下ノ輕懲役ニ處ス可キ重罪犯ニ該レハ輕罪裁判所ノ管理スヘキ事件ニ非サルヲ以テ治罪法第三百六十條ノ成法ニ從ヒ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキヲ當然ナリトス然ルニ原判官ハ重罪犯タルノ事實ヲ認メナカラ刑法第三百九十條ヲ適施シテ斷リシタルハ治

罪法第三百六十條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ大分重罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

第一千二百七十六號

○判文(偽造証書) 明治十六年三月七日上告
十七年五月七日發付

山形縣羽後國飽海郡酒田今

町九十七番地同居平民寬治

父隱居

山田 革 藏

明治十五年十二月

四十二年

右山田革藏カ私書偽造被告事件ニ付明治十五年十二月八日酒田輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十條同第三百九十七條同第三百九十二條同第三百九十四條同第二百十條同第二百十一條同第二百十二條ニ依リ同第三百條第三項ニ照ラシ一ノ重キニ從ヒ重禁錮一年罰金十圓監視一年ト言渡タル裁判ニ服セス被告本人ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ第一事發覺前ニ被害者ニ首服シ犯罪ノ物件ヲ還給私和セシニ裁判言渡書ニ其理由ヲ付セス第二委任狀ヲ偽造行使シタルモノト處斷セラレタルモ委任狀ハ偽造借用証書ヲ調製スル爲メナレハ其証書ノ目的ヲ遂ケサレハ委任狀ヲ行使セシモノト云フヲ得ス第三被告ハ三罪ヲ犯シタルモノトシ刑法第百條第

三項ニ照ラシ一ノ重キニ從ヒ重禁錮一年ニ處シ云々トアリテ其重シトスル犯罪ヲ明記セサルハ治罪法第四百十條第九項ニ違背スルモノニテ共ニ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人原檢察官飯田直行ハ上告趣旨ノ第一第二ハ共ニ事實上ノ論辯ニシテ上告ノ理由ナキモノナルモ第三ノ點ニ至ツテハ被告カ所謂擬律ノ錯誤ニアラサルモ法律ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ立會檢事武内維積ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ

按スルニ本按上告ノ理由トスル所其第一第二ノ論點ノ如キハ要スルニ原裁判官ノ職權ヲ以テ認定シタル事實ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ナキモノナリトス其第三ノ論點ニ至テハ被告カ所謂擬律錯誤ニアラサルモ究竟不法タルヲ免レサルモノトス何トナレハ原判文末項ニ被告ハ三罪ヲ犯シタルモノナルニ因リ刑法第百條第三項ニ照ラシ一ノ重キニ從ヒ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ尙一年ノ監視ニ付スト言渡シ其罰スヘキ法律ノ正條ヲ示サ、レハ何等ノ犯罪ニ據リ刑ニ處シタルヤ知ルニ由ナク隨テ其當否ヲ知ル能ハス即テ是法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサルモノニシテ治罪法第四百十條第九項ニ相當スル破毀ノ理由アルモノトス又本院檢事ノ附帶上告ニ依リ原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告ハ眞田又十郎ノ印影ヲ欺キ同人所有ノ耕地ヲ抵當トナシ云々トアリテ印影盜用ノ所爲アルモノニ似タリ然ルニ原裁判所カ之レヲ不問ニ措キタルハ或ハ

擬律ノ錯誤タルヲ免カレサルモノ、如シト雖モ如何セシ止タ印影ヲ欺キトノミアリテ果シテ其盜用ノ事實アリヤ否分明セサルニ因リ刑ノ適用如何亦之ヲ監別スル能ハス即チ事實ノ理由ヲ付セサルモノニシテ是亦治罪法第四百十條第九項ニ相當スル破毀ノ理由アルモノトス因テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ適當ノ裁判ヲ受ケシメシメ秋田輕罪裁判所へ移スモノナリ

第千二百七十七號

○判文(証書偽造) 明治十六年五月十九日上告
同 十七年五月七日發付

愛媛縣伊豫國喜多郡北只村
平民

西尾 治 六

明治十六年四月

三十八年

同縣同國同郡五郎村 民

西山 喜衛 美

明治十六年四月

四十二年

明治十六年四月二十五日大洲治安裁判所ニ開キタル松山輕罪裁判所ニ於テ右西尾治六西山喜衛美カ被告事件ヲ審判シ被告等カ証書偽造ノ罪ヲ犯セシ証憑充分ナラサルモノト認定シ

無罪ノ言渡シヲ爲シ且ツ之ヲ放免ストシ裁判言渡チ不當トシ原檢察官大申進ハ上告セリ其要領ヲ約スルニ被告兩名等カ証書偽造事件ハ最初喜多郡北只村平民會根高尙カ西尾治六ニ對スル告訴ニ依リ捜査ノ未犯狀明白ナルヲ以テ松山輕罪裁判所ニ向テ起訴セシニ証憑充分ナラサルモノトシ無罪放免ノ言渡チナセリ抑原裁判官カ証憑充分ナラサルト認メシハ何レノ點ナルヤ被告西尾治六西山喜衛美ハ公判廷ニ於テ大洲警察署ノ訊問調書ヲ異翻シテ該申立ハ眞實ニアラサル旨ヲ供述スルト雖モ被告治六カ明治十六年四月二日以來逐日ノ訊問ニ對シ前後ノ答辯齟齬セサルハナク偽造証書ハ印紙貼用ナシタルノ顛末及ヒ該印紙ヲ購求ナシタル箇所ノ判然ナラサルノミナラス金員遺拂其他借用ノ目的喜衛美カ訊問ニ對スルノ答辯等悉ク曖昧ニシテ信ヲ措クニ足ラス是等ノ踪ヲ以テ之ヲ推スニ被告兩名假リニ債主負債主ト爲リ會根高尙カ請人タルノ借用証書ヲ偽造シテ証書面ノ金員ヲ高尙ヨリ詐取セント爲シタルヲ明カナリ然ルチ原判官ハ被告兩名ニ對シ無罪ト判決シタルハ事實ヲ審究セサル不當ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百十條第十項ニ從ヒ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云ヒ仍ホ追申書ヲ以テ前意ヲ擴張セリ

對手人西尾治六西山喜衛美ハ原檢察官ノ上告ハ不理ニシテ原裁判至當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本按被告事件ノ如キハ原裁判官ニ於テ檢察官及証人ノ陳述ニ徵シ被告ノ答辯ニ參シ以テ心証ヲ資リ即チ被告人等ノ所爲ハ証憑充分ナラサルモノト認定シ無罪ノ言渡チ爲シタルモノ

ナレハ毫モ不法ト視ルヘキ點アルニ非ス然ルニ上告ノ旨趣ハニニ事實ノ有無採証ノ當否ヲ論辯シテ破毀ヲ求ムルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スルモノナリ

第千二百七十八號

○判文(証書偽造) 明治十六年十一月十三日上告
同 十七年五月七日發付

福井縣越前國坂井郡覺善村
十五番地當時橫濱區石川町
三丁目十二番地角田「トヨ」
方寄留平民雜業

長谷川多四郎

明治十六年六月
三十二年

右多四郎カ被告事件ニ付明治十六年十月廿二日橫濱輕罪裁判所ニ於テ被告ハ河野伊助ト共謀シ寺澤喜右衛門ノ實印ヲ盜用シタリトノヲハ証憑ナシト雖モ寺澤喜右衛門ヨリ被告河野伊助宛ノ約定書ヲ偽造シテ寺澤喜右衛門ヲ相手取り勸解ヲ出願シ以テ金員ヲ騙取セントシタルモノト判定シ証書偽造ノ罪ハ刑法第二百十條初項及ヒ同第二百十二條ニ該當シ財物ヲ騙取セントシタルノ罪ハ刑法第三百九十七條同第三百九十七條同第三百九十七條ニ該當シ二罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ証書偽造ノ罪ヲ問ヒ重禁錮十ヶ月ニ處シ罰金八圓

○附加シ六月間監視ニ付ストノ裁判言渡シニ服セス被告人カ上告爲シタル旨趣ハ之ヲ五ヶ條ニ別ツテ論疏スト雖モ要スルニ寺澤喜右衛門ヨリ河野伊助へ差入レタル喜右衛門妻「シケ」カ賄料金ノ約定書ハ有効ノ者ニシテ偽造ノ成立ニアラス然ルチ無功ト判決シタルノミナラス偽造ナシタル者ナリトノ判決ハ不當ナルニ付キ破毀ヲ求ムト云フニ外ナラス同裁判所檢事補島村文耕ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

本按上告ノ旨趣ハ要スル處事實ノ一點ニ就テ之ヲ論疏スルモノニ過キサレハ以テ上告ノ原由ト爲スコト得ス何トナルニ該事實ヲ審按シテ其罪ノ有無ヲ判別スルハ法律ニ於テ承審官ニ任從スル所ノ職權ナレハ他ノ得テ輒ク非難スヘキ所ニアラサレハナリ因テ該上告ハ相立サルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スル者也

第一千二百七十九號

○判文(証書偽造) 明治十六年三月廿四日上告 同 十七年五月七日發付

福島縣岩代國北會津郡面川 村平民

增井軍平

明治十五年十二月

二十三年八月

明治十五年十二月十二日若松輕罪裁判所ニ於テ右增井軍平ハ証書偽造ノ罪アリト判定シ刑

法第二百十條同第二百十二條同第八十九條同第九十條ニ依リ本刑ヲ減輕シ重禁錮二月ニ處シ罰金二圓ヲ附加シ監視六月ヲ附スル旨宣告セリ

增井軍平於テ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ原裁判所ハ被告利益ノ陳述ヲ排斥シ却テ被告ニ不利益トナル告訴人及事實參考人等ノ陳述ヲ採用シ無罪人トシテ有罪人ト認定シ前記ノ刑ヲ言渡シタルハ探証法ニ違フタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補藤井民次郎ハ原裁判相當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ抑証據ヲ採擇シ事實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ主權ナリ被告人上告論旨ノ如キハ原裁判官ノ職權ニ侵入シ徒ラニ探証ノ不當ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ノ原由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本按上告ハ棄却スルモノナリ

第一千二百八十號

○判文(誣告) 明治十六年五月廿六日上告 同 十七年五月七日發付

福島縣岩代國北會津郡若松 川原町士族雜業

唐澤源吾

明治十六年四月

四十八年七月

右源吾カ被告事件ニ付明治十六年四月二十三日福島輕罪裁判所若松支廳カ私書偽造ノ罪ア

リト告訴シ他人ヲ陷害セント誣告シタル事實アリト認メ刑法第三百五十五條同第二百二十條第二項ニ依リ八月ノ重禁錮ニ處シ二十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ淺岡彦十郎ヲ私書偽造者ナリト誣告セシニアラス其實アルコトニテ工ミニ偽造セシモノナルニ原裁判所ハ審カニ其顛末ヲ盡サス事實理由ニ齟齬アル裁判ヲ與ヘラレ且連借人ヲ喚問アラントテ指名請求スルモ之ヲ斥ケラレ被告人ニ於テハ終ニ其衷情ヲ伸暢スルコト能ハス冤枉ニ陥リタレハ原裁判ノ不當ヲ破毀アリタシト要求セリ

對手人檢事補加藤秀男ハ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處誣告シタルニアラス其實アルコトニテ工ミニ偽造セシモノナルニ原裁判所ハ之カ審理ヲ盡サス且連借人ノ喚問ヲ請求セシモ之ヲ斥ケ終ニ冤枉ニ陥リタリト云フニアリト雖モ公判始末書中其連借人ノ喚問ヲ請求シタルト見ルヘキナク假ニ原裁判所カ其請求ヲ斥ケタリトセハ直ニ以テ異議ヲ申立テ其裁判ヲ請ハスンハアルヘカテサルニ之カ異議ヲ申立タルニモアラサレハ到底謂レナキ申分ニ過キサルモノトス其他誣告シタルニアラストノ申立ハ事實認定ニ對シ徒ニ不服ヲ唱フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ上告ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタル第一ヨリ第十一ニ至ル項目ニ適合セサルニ因リ是亦相立サル訴旨ナリト判定ス

以上ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也
第一千二百八十一號

○判文(財産藏匿) 明治十六年五月十五日上告
同 十七年五月七日發付

栃木縣下野國下都賀郡栃木

相生町平民

藤 沼 増 造

明治十六年四月

四十六年五月

右増造カ財産藏匿被告事件ニ付明治十六年四月二十五日栃木輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百八十八條ニ依リ重禁錮三月ニ處ス仍ホ証人細川熊藏ノ請求ニ依リ其日當料金五十錢ヲ償ヒ又民事原告人ノ請求ヲ至當ナリト爲シ其日當四度ノ損害金貳圓并其藏匿品ヲ公賣シ先キノ債主大澤佐市ヘ償却スヘシト言渡シタル裁判ニ對シ民事原告人豆生田友造岸吉彌ヨリ上告ヲ爲シタル要旨ハ原告等カ要求シタル辨償金五圓ノ点ニ對シテ毫モ判決ヲ與ヒサルハ審理不盡ナル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ對手人被告増造ハ答辯セス

茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ凡ソ裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ對シテハ素ヨリ判決ヲ與フヘキハ勿論ナリト雖モ今民事原告人ノ論告スル所ノ辨償金五圓ノ点ニ至テハ原書類ニ徴スルモ請求シタルト看認ム可キ徵驗ナシ殊ニ公判始末書ニ依ルキハ民事原告人ニ對シ損害ノ要償ハ何レノ点ナルヤトノ問ニ財産發覺シタル上ハ之ヲ公賣シ先ノ債主ヘ配當方ヲ請求スト答ヘ又夫レ迄カトノ問ヒニ其他出廷等ノ日當ヲ請求スト答ヒシノミニシテ毫モ辨償金五圓ノ事項ニ及ハサルヲ以テ視レバ即チ民事原告

人等カ曾テ請求ヲ爲サ、ル條件ニシテ之レカ裁判ヲ與ヘタルハ勿論ニシテ之ヲ不當ナリト云フヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本按上告ハ棄却スルモノ也
第二百八十二號

○判文(氏名詐稱) 明治十六年五月二日上告
同 十七年五月七日發付

東京府神田區江川町平民繪
草紙商

尾崎 民太郎

明治十六年四月
三十七年五月

右民太郎カ被告事件ニ付明治十六年四月四日東京輕罪裁判所カ官署ニ對シ屬籍氏名ヲ詐稱シタル事實アリト認メ刑法第二百三十一條ニ依リ十圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ尾崎長吉ノ空籍ヲ作爲シタルハ亡兄尾崎吉五郎病中ノ所爲ニテ自分ハ毫モ知ラサルコナリ其空籍ヲ削除スルハ容易ニ行届カサルコナレハ親類協議ノ上被告人カ藉面ヲ取消スコトニ相極メ吉之助後見届ヲ爲シタルマテニテ決テ人ヲ欺クノ意ニ出テタルモノニアラサルニ原裁判所ハ刑法第二百三十一條ニ該ル罪ナリト裁判言渡サレタルハ不當ナリトシ破毀ヲ要求セリ

對手人檢事補鹽野宜健ハ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處空籍ヲ作爲シタルハ亡兄病中ノコトニ決テ人ヲ欺クノ意ニ出テタルニアラサルニ原裁判所カ刑法第二百三十一條ニ該ル罪アリト裁判セラレタルハ不當ナリト云フニアリト雖モ要スルニ原裁判所カ各種ノ証憑ニ徵シ認メタル事實ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲シ得ル場合第一ヨリ第十一ニ至ル各項目ニ適合セザルニ因リ相立タサル訴旨ナリト判定ス
以上ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千二百八十三號

○判文(強盜) 明治十六年十一月廿七日上告
同 十七年五月七日發付

岐阜縣美濃國不破郡牧野新

田村平民

梨畑 金藏

明治十六年十月
二十三年八月

右金藏カ強盜被告事件豫審終結言渡ニ對スル故障ニ付明治十六年十月三十日大津輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審終結ヲ認可シタル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告セリ其要領ハ明治十六年五月五日ヨリ同年六月九日ニ至ルノ間更ニ強盜盜ヲ犯タルコトナキニ守山警察署ニ於テ拷訊ヲ受痛苦ノ余リ無實ノコトヲ陳述シタリ其後草津警察署ニ傳遞ヲ受ケシニヨリ曩ニ守

山警察署ニ於テ爲シタルハ無實ノ白狀ナルヲ陳述シ更ニ正當ノ錄取ヲ乞ハント欲スルモ又拷訊ニ遭ヒ再ヒ無實ノ白狀ヲ爲シタルモノニシテ決テ強盜ヲ犯シタルヲナケレハ何卒正當ノ判決アリタキト云フニアリ

對手人檢事平川楨ハ被告金藏カ上告趣旨ハ強盜ヲ犯シタルヲナシト喋々陳辯スルモ被告カ自供及諸般ノ証憑ニ據リ強盜ヲ犯シタルノ証憑充分ナレハ原裁判允當ナリト答辯セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
按スルニ上告ノ理由トスル處ハ明治十六年五月五日ヨリ同年六月九日ニ至ルノ間強盜ヲ犯シタルト毫モ無之ニ強盜ヲ犯シタルト豫審終結ヲ認可シタルハ畢竟守山草津兩警察署ニ於テ作りタル不適法ノ調書ヲ採用セラレタルニ依ルト云フニアリト雖モ夫レ諸般ノ証憑ヲ取捨鑑別スルハ承審官ノ職權内タル載テ治罪法第四百十六條ニ明カナレハ其職權内ニ侵入シ漫リニ採証ノ當否ヲ批難スルヲ得サルモノトス然ルニ本按上告ノ論旨タル純ラ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ唱フルモ拷訊ヲ受ケタルヨリ無實ノ陳供ヲ爲シタル証憑アルヲナク徒ラニ事實ヲ動サント試ムルニ外ナラサレハ到底治罪法第四百十條ノ各項目ニ則ラサル上告ナリトス因テ同法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ
第一千二百八十四號

○判文〔竊盜〕同 明治十六年十一月十三日上告
十七年五月七日發付

兵庫縣淡路國三原郡瑞井村
平民農業

村上伊三郎

明治十六年八月

三十三年

同縣同國同郡三條村

平民農業銀平事

山田銀藏

明治十六年十月

二十六年

右兩名カ被告事件ニ對シ明治十六年十月六日神戸輕罪裁判所洲本支廳ニ於テ伊三郎ハ明治十六年七月廿二日來ニ次竊盜ヲ爲シ内一次ハ共犯三人ニテ窓ノ格子ヲ損壞シ一次ハ共犯二人ニテ戸ノ開キアル所ヨリ忍入り之レヲ犯セシ者ニシテ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第三百六十六條第三百六十八條第三百六十九條第三百七十六條第九十二條第七十條第百條三項ニ照シ一ノ重キ第三百六十八條ニ從ヒ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ二等ヲ加ヘ九月以上七年六月以下ノ範圍内ニ於テ一年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ヲ附加シ犯罪ニ因テ得タル物件ハ同法第四十八條ニ依リ被害者ヘ還付ス銀藏ハ明治十六年七月廿二日共犯三人ニテ窓ノ格子ヲ損壞シ竊盜爲シタルモノニテ再犯ニ係ルニヨリ刑法第三百六十八條第三百六十九條第三百七十六條第九十二條第七十條ニ照シ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ二等ヲ加ヘ九月以上七年六月以下ノ範圍内ニ於テ一年六月ノ重禁錮ニ處シ一年六月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判不當

ナリトシ原裁判所檢事補城三郎ハ上告セリ其要領ハ前顯引用セシ正條ニ依レハ被告ヲ罰スル刑期ハ九月以上七年以下ノ重禁錮ト爲ルヲ以テ此範圍内ニ於テ相當ノ刑ヲ定メサルヘカラサルニ原裁判所カ之ヲ九月以上七年六月以下ノ範圍ト爲シタルハ違法ノ處分ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニ在リ

對手人被告村上伊三郎山田銀藏ハ之レニ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事林三介ハ原檢察官ノ上告ハ至當ナリトノ意見ヲ述ヘ併テ附帶上告ヲ爲シタル要領ハ本件被告ハ二人以上共ニ竊盜ヲ爲シ且ツ再犯ニ係ルモノナレハ先ツ其二人以上共犯ノ點ヲ以テ刑ヲ加重シ其加ヘタル所ヲ以テ本刑ト爲シ而テ後再犯加重ニ及フヘモノナルニ原裁判所カ之ヲ通加セシハ擬律錯誤ニ係ルヲ以テ破毀更正ヲ求ムト云ニ在リ

因テ之ヲ審按スルニ上告趣旨ノ如ク原裁判所カ重禁錮ノ刑ヲシテ七年六月ニ及ボシ又刑法第三百六十九條ノ加重ト再犯加重ヲ通加セシハ違法ノ處斷ナリト云ハサルヲ得ス何トナレハ刑法第七十條ノ二項ニ「輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得」トアリテ其七年以上ニ超過スルヲ得サルヤ知ルヘシ又同法第九十九條ニ「犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス」「一再犯加重」云々トアルヲ以テ其各本條即チ同法第三百六十九條ニ記載スル加重ノ如キハ其加重シタル所ヲ以テ本刑ト爲シ而シテ再犯ノ加重ヲ爲スニハ仍ホ同法第七十條

初項ニ照シ其本刑ト爲シタル刑ノ四分一ヲ以テ一等トナシ之ヲ加ヘサルヘカテサルモノダレハナリ因テ原檢察官ノ上告及ヒ本院檢事附帶上告ノ趣旨ハ治罪法第四百十條第十二適當ナル原由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ更ニ其裁判爲スル左ノ如シ

村上伊三郎

原裁判所カ認定シタル第一ノ罪即チ共犯三人ニテ窓ノ格子ヲ損壞シ内ニ入テ竊盜爲シタル件ハ刑法第三百六十九條ニ照シ第三百六十八條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ七月十五日以上六年三月以下ノ重禁錮ニ處シ仍ホ第三百七十六條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス又第二ノ罪即チ共犯二人ニテ戸ノ開キアル所ヨリ忍入竊盜爲シタル件ハ刑法第三百六十九條ニ照シ第三百六十六條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ仍ホ第三百七十六條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス以上二罪俱ニ發シタルモノニ付仍ホ同法第百條末項ニ照シ其犯情重キ第一犯罪ノ一ニ從ヒ十月ノ重禁錮ニ處シ八月ノ監視ニ付ス

但先キニ輕罪ノ刑ニ處セラレタルハ新法實施以前ノ犯罪タルコト已決犯罪表ニ徴シテ昭然タレハ刑法第三條ノ趣旨ニ基キ再犯加重ノ例ヲ用ヒス又犯罪ニ因テ得タル鏡二面外三品ハ現在スルヲ以テ同法第四十八條ニ從ヒ被害者岡喜市ヘ還付ス

山田銀藏

原裁判所カ認定シタル罪ハ刑法第三百六十九條ニ照シ第三百六十八條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ七月十五日以上六年三月以下ノ重禁錮ニ該當スレモ先キニ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノニ付同法第九十二條第九十九條第七十條第七十三條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ九月十一日以上七年以下ノ範圍トナルヲ以テ一年六月ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同法第三百七十六條ニ依リ一年ノ監視ニ付ス

第一千二百八十五號

○判文〔竊盜〕明治十六年四月廿七日上告
同 十七年五月七日發付

鹿兒嶋縣薩摩國鹿兒嶋郡吉野村伊知地「タケ」附籍平民
無職業

伊知地 政秀

明治十六年三月二十八年三月

右政秀カ被告事件ニ付明治十六年三月廿日浦和輕罪裁判所熊谷支廳カ監視規則違犯及ヒ竊盜ノ事實アリト認メ刑法第百條ニ從ヒ一ノ同第三百六十八條同第三百七十六條ニ依リ同第九十二條ニ照シ三年ノ重禁錮ニ處シ二年ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ埼玉縣比企郡松山町地内ノ空屋ニ泊セシト立入り其寢所ヲ尋ヌル内近傍ノ人ニ見咎メラレ巡查モ出張セラレ其家屋内ニ木綿拾半纏一枚外三品有之ヲ尋問セラレハニ付

偽テ自己ノ品ナリト相答ヘタレモ其品ハ以前ヨリ家屋内ニアリシモノニアラサルニ原裁判所ハ之ヲ盜ミ來リタル品ナリトシ刑ヲ言渡サレタルハ不當ノ裁判ナルニ因リ破毀アリタシト要求セリ

對手人檢事補島田定勝ハ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
上告ノ理由トスル處自己ノ盜ミ來リシ品ニアラサルニ原裁判所ハ盜ミ來リシ品ナリトシ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニアリト雖モ要スルニ原裁判所カ各種ノ証憑ニ徴シ認メタル事實ニ對シ徒ラニ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲シ得ル場合第一ヨリ第十一ニ至ル各項目ニ適當セサルニ因リ相立サル訴旨ナリト判定ス
以上ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千二百八十六號

○判文〔竊盜〕明治十六年四月二十日上告
全 十七年五月七日發付

秋田縣羽後國由利郡蟹澤村
平民農業

佐藤市十郎

明治十六年二月四十二年九月

右市十郎カ被告事件ニ付明治十六年二月二日本莊治安裁判所ニ開キタル秋田輕罪裁判所ニ

於テ被告ハ明治十二年舊八月全十四年六月全十五年月日不知同年九月中ト四ヶ度ニ山林ニ於テ他人所有ノ立木及研伐シ置タル木材ヲ竊取シタルモノト判定シ新律綱領賊盜律盜田野穀麥條ト刑法第三百七十三條明治十四年第八十一號布告第二條トヲ適用シ刑法第百條ニ照シ一ノ犯情重キ刑法第三百七十三條及ヒ全第三百七十六條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告市十郎カ上告シタル要旨ハ被告カ所爲タル盜伐竊取ニ非サル明瞭ナルニ審理爰ニ到ラス之ヲ刑法第三百七十三條ニ依テ處斷セラレタルハ事實ニ背馳スルモノナリ假リニ之ヲ伐採シ及之ヲ取リタルモノトスルモ故意ニ出タル者ニ非サレハ刑法第七十七條ニ照シ不論罪タル可キニ原裁判玆ニ出サルハ不當ナリト云ニ在リ原裁判所檢事代理警部高橋良之輔ハ被告カ上告ハ事實ノ覆審ヲ請フニ過キサレハ其理ナキモ被告ノ所爲ニ對テハ刑法第三百六十六條ヲ當行スルハ至當ナルモ原裁判ハ全法第三百七十三條ヲ適施シタルハ擬律ノ錯誤ナルニ付此點ハ破毀ヲ求ムトノ旨趣ヲ答辯併セテ附帶上告セリ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ抑モ證據ヲ取捨シテ事實ヲ判定スルハ特リ承審官ニ任從スル處ノ職權ニシテ就中其故意有無ノ如キハ其權内ニ在ル論ヲ俟タサル者ナレハ他ヨリ漫ニ之ヲ左右シ得ヘキ者ニ非サルナリ然ルニ本案上告論旨タル即チ其職權内ニ侵入シテ事實判定ノ當否ヲ非難スルニ過キサル者ナレハ毫モ上告ノ理由ナク試ニ原書類ヲ檢スルモ違法ノ廉アルコトヲ將タ原檢察官ニ於テハ擬律ニ錯誤アリトノ附帶上告ヲ爲スモ本案犯罪ノ事實ニ於ケル原判官ノ認定シタル處ニ據レハ人

ノ看守スルコトナク安意ヲ以テ山林ニ置キタル木材ヲ竊取シタルノ所爲ニシテ刑法第三百六十六條ノ支配スヘキ者ニ非サレハ原判官カ刑法第三百七十三條ヲ當行シタルハ尤モ其當ヲ得タルモノナレハ之ヲ擬律ノ錯誤ト爲ス可カラス結局該上告ハ渾テ相立タサルモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ本案上告ハ共ニ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千二百八十七號

○判文(毆傷) 明治十六年十一月二十七日 上告
十七年五月七日 發付

滋賀縣近江國甲賀郡春日村
平民牛馬商

與 崎 留 藏

明治十六年十月
二十歲十一月

右留藏カ被告事件ニ對シ明治十六年十月廿四日大津輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年五月中根本龜吉ト爭論ノ末同人ヲ蹴リ胸部其他ニ創傷シ二十日以上疾病休業ニ至ラシメタル耳ナラス仍ホ其際根本喜一ノ面部ヲ毆打シ創傷セサル者ト認定シ龜吉ニ對スル罪ハ刑法第三百一條一項喜一ニ對スル罪ハ同法第四百二十五條第九ニ照シ仍ホ同法第一百一條ニ依リ一ノ重キ龜吉ニ對スル罪ニ從ヒ重禁錮一年六月ニ處スト言渡シタル裁判不當ナリトシ被告與

崎留藏ハ上告セリ其要領ハ被告カ龜吉ヲ毆打セシハ同人ヨリ不當ニ暴行ヲ加ヘシ故之ヲ防衛シタルニアリ且爲メニ同人カ負傷セシコナキハ其際居合セタル者能ク之ヲ知ル又檢察官ハ公廷ニテ被害者ノ疾病休業時間ハ廿日以内ナルヲ以テ刑法第三百一條二項ニ該ルモノト云ハレシ故被告ニ於テモ其刑ナレハ甘受セント思ヒシニ原裁判所ハ被害人ノ親屬タル醫師ノ診斷書ヲ證據ト爲シ以テ被告ヲ刑法第三百一條第一項ニ依リ處斷シタルハ不服ニ付破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補森田勉ハ原裁判ニ瑕瑾ナキ旨答辯セリ
因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ被告カ龜吉ヲ毆打セシハ防衛手段ニ出テタルモノナリ又醫師加藤長伯ハ龜吉ノ親屬ナリト主張スレモ只無証ノ陳辯ニシテ採ルヘキモノナク且其毆打ニ因テ負傷セシメシコナク仮令ヒ其負傷セシモノトスルモ爲メニ廿日以上疾病休業ニ至リシコナシト云ヘルモ箇ハ承審官ノ已ニ認定スル事實ノ點ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス又原裁判ハ檢察官ノ意見ニ異ナル云々主張スレモ裁判官ハ檢察官ノ意見ニ拘束セラルヘキモノニアラサレハ是亦相立サルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第一千二百八十八號

○判文(毆傷) 明治十六年十一月廿一日上告
同 十七年五月七日發付

高知縣土佐國長岡郡角茂谷
村農宿屋業

西岡百千萬

明治十六年十月
四十四年

右百千萬カ被告事件ニ付明治十六年十月十九日高知輕罪裁判所於テ被告及ヒ手島要上村辻之助ハ相被告岡林治太郎カ村上傳藏ト闘毆スル傍ヨリ治太郎ヲ助ケ竹木鋏等ヲ以テ傳藏ヲ亂打共毆シ疾病休業二十日以上ニ及フコ創傷ヲ成シタルモノト認定シ刑法第三百一條第一項第三百五條ニ依リ一年以上三年以下ノ重禁錮ヨリ一等ヲ減シ九月以上二年三月以下ノ範圍内ニ就キ處斷ス可キ處原諒ス可キ情實アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ照シ酌量シ本刑ニ二等ヲ減シ四月十五日止一年一月十五日以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮七月ニ處スル旨ヲ言渡シタリ被告ハ之レヲ不當ナリトシ上告セリ其要旨ハ原判文中「被告西岡百千萬手島要上村辻之助カ治太郎ヲ助ケル爲メ傳藏ヲ毆打シタリ」ト又相被告ハ竹木並皿或ハ鋏等ヲ以テ毆打シタリト記載アレモ被告ハ傳藏カ鐵杖ヲ以テ打掛ントスルヨリ不得止其場ニ有合ノ竹杖ヲ以テ傳藏攜帶ノ鐵杖ヲ打落シタル迄ニ毫モ前顯ノ如キ所爲ニ及ヒタルコナシ依テ原裁判ノ破毀ヲ乞ヒ度ト云フニアリ對手人檢事補相原市之丞答辯ノ要ハ本按上告ハ事實認定ニ對スル批難ニ付到底原由ナキ上告ナリト云フニアリ
大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
抑事實ノ認定ハ治罪法第四百十六條第二項ノ規定ヲ以テ裁判官ノ職權ニ任從スル所ナレハ他ヨリ敢テ之レヲ非難スルヲ得サルモノトス今ヤ上告ノ主旨ハ原裁判官カ認定シタル事實

ヲ動サント試ムルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ適當スル理由一モ之レナケレハ同法第四百二十七條ニ從ヒ本按上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

第一千二百八十九號

○判文(毆打創傷)明治十七年三月廿五日上告
同 年五月七日發付

千葉縣下總國香取郡八日市
場村平民農業
向 後 鐵 五 郎

明治十六年二月
二十三年三月生

右鐵五郎カ毆打創傷被告事件ニ管シ千葉輕罪裁判所ノ裁判ニ服セス上告シタル一件ニ付明治十七年三月二十一日本院ニ於テ被告ノ上告ハ相立サルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告鐵五郎ハ治罪法第四百二十六條第二項ニ依リ哀訴ヲナシタリ其要領ハ第一戸長役場ハ一人ノ家ト同視スヘキモノカ將タ之ト差異アルモノカ抑官私何レノ一ニ屬スルモノナルヤ之カ明示ヲ得タシ第二逮捕監禁及ヒ引致ハ何レモ人ノ自由ヲ束縛スルノ意義ト信ス然レハ被告カ行爲中右等ニ該當スヘキ理由ハ何レノ證據ニ起因スルカ之レカ審理ヲ得タシ第三被告住地ノ如キ警察署所在外ノ地ニ在ルヲ以テ至急ヲ要スル時戸長ハ司法警察官ト爲テ其權ヲ行フハ治罪法ノ規定スル所ナリ故ニ被告林田愛明ヲ同行シ其權アル戸長ノ訊問ヲ求メントセシモノナルニ之ヲ一般人民ノ許ニ同行シタル

モノト同視シテ處刑セラレタルヲ以テ之ヲ視レハ戸長ハ是等ノ權ナキヤ果シテ然ラハ右治罪法ニ規定シアル場合ハ何レノ場合ヲ指シタルモノナルヤ之レカ審明ヲ得タシト云フニ外ナラス茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十七條第三項ニ從ヒ同第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
抑刑法第三百二十三條ハ擅ニ人ヲ逮捕スル乎又ハ私家ニ監禁スル乎其二箇中一ノ行爲アラハ即チ茲ニ罪ヲ組成スルモノニシテ今ヤ本件ハ被告ニ於テ擅マ、ニ林田愛明ヲ逮捕シタル行爲ニアルコトハ原裁判言渡書ニ其夜愛明ヲ擅ニ取押ヘ下小堀村戸長役場迄引致シタルノ事實云々ト明示シアルニ依リテ灼然タリトス然ハ則チ戸長役場ハ官私何レニ屬スルヤノ問題ノ如キハ本案被告事件ニ對シ毫無關係ヲ有セサルヘキニ被告カ之ヲ哀訴旨趣中ノ第一點ニ置キ強テ之カ區分ノ審明ヲ要請スルハ全ク法律ノ見解ヲ誤リ從フテ原裁判ノ主旨ヲ了得セサルニ出テタルモノトス而シテ又其第二點ハ止タ單ニ裁判官ノ特權内ナル採証上ニ對シ不滿ヲ訴フルニ過キサルノミナラス其第三點ノ如キモ亦前第一點ト同シク原裁判ヲ了解セサルニ起因シタルモノニシテ本案被告事件ニ付無用ノ論告トナサ、ルヲ得ス何トナレハ原裁判ハ被告カ擅マ、ニ現行犯ニモアラサル林田愛明ヲ逮捕シタル行爲ヲ認メ處斷シタルモノナレハ戸長ニ於テ司法警察ノ權ヲ行ナヒ得ルト否トハ毫モ之レニ管セサル事柄ナレハナリ依テ被告哀訴ノ旨趣ハ一モ適法ノ理由ナキモノトス况ヤ本院ニ於テ先キノ上告ニ對シ與ヘタル判文ヲ通讀スルニ被告ノ申立タル條件ニ付充分ノ理由ヲ付シ判決シアリテ毫モ治罪法第四百三十六條第二項ニ適シタル不法ナキニ於テオヤ

以上辯明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案哀訴ハ之ヲ棄却スルモノ也
第一千二百九十號

○判文(官吏抗拒)同 明治十六年六月廿一日上告
十七年五月七日發付

大坂府大和國高市郡畑村第
十二番地平民農

稻 上 與 吉

明治十六年五月
二十七年七月

右與吉カ官吏侮辱及暴行ヲ以テ官吏ニ抗拒シタル被告事件ニ付明治十六年五月二十八日大坂輕罪裁判所奈良支廳ニ於テ刑法第四百一十一條第三百二十九條ニ照依シ第三百條ニ照シ一ノ犯情重キ同第三百二十九條ヲ適用シ四月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告カ上告シタル要領ハ巡查トハ識ラス和服ヲ着用シタル男子來リ被告ヲ連レ出シ小房ノ方ニ曳カル、ニ付之ヲ斷リタルニ其男子ハ被告カ手ヲ捕ヘ強テ連レ行カントスルヲ以テ其手ヲ振り放チ逃ケ歸リタル迄ニシテ暴行或ハ侮辱等ヲ與ヘタルコトナク又証人對質ヲ乞フモ聽許ナク何モ辨別ナキ藤田「ツル」ノ言ヲ証トシ前記ノ如ク斷定セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ同裁判所檢事補吉村信賢ハ逐條辯駁シテ原裁判至當ナルコトヲ答辯セリ爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ證據ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ原裁判官ノ職權ニ在テ違法ノ廉アラサル限リハ之ヲ左右シ得ヘキモノニ非

大然ラハ即チ本按上告ニ於ケル其職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定及採証ノ可否ヲ論告スルモノニシテ一モ上告ノ理由ト爲シ得ヘキ事項アルコトナク且其對質ノ如キハ裁判官ニ於テ必要トセサル以上ハ之ヲ許サ、ル素ヨリ當然ナレハ是又不當ト爲スヲ得ス結局本按上告ハ不相立モノト判定ス因テ治罪法第四百二十七條ニ照シ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
第一千二百九十一號

○判文(官吏職務ヲ行フヲ妨害)同 明治十六年四月十六日上告
十七年五月七日發付

長野縣信濃國小縣郡新張村
平民當時群馬縣上野國吾妻
郡田代村寄留鹿澤溫泉湯宿
屋渡世

依 田 角 平

明治十六年二月
三十年

群馬縣上野國吾妻郡田代村
平民

松 本 藤 八

明治十六年二月
二十八年八月

右兩名カ被告事件ニ付明治十六年二月十日長野輕罪裁判所上田支廳ニ於テ被告ハ官吏職務ヲ行フテ妨害シ及ヒ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノト判定シ刑法第四百一十一條第三百九十九條及ヒ同第四百條ニ依照シ犯情ノ重キ第三百三十九條ニ從ヒ仍ホ同法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ各重禁錮三月ニ處シ罰金三圓七十五錢ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告兩名カ上告ヲ爲シタル要旨ノ第一ハ被告カ巡查秋山豐治ノ職務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シ又ハ目前ニ於テ侮辱ヲ加ヘタルヲナキニ原裁判官ハ中村警部補及ヒ巡查秋山豐治ノ陳述ヲ證據ニ採リ正當ナル被告ノ申供ヲ採ラスシテ速了ノ判定ヲ下サレシハ不當ナリ第二ハ原裁判官言渡ニハ事實ノ理由及ヒ証憑ヲ明示セサルノミナラス汝ヲ引戻サントシ且汝ニ對シナト、不分明ノ文詞ヲ掲ケタルハ不當ナリ第三ハ被告角平ノ籍ハ上野國吾妻郡田代村ナルニ長野縣信濃國小縣郡新張村ト肩書ヲ記載シタルハ不當ナリ第四ハ官吏ノ職務ヲ行フテ妨害スルノ罪ハ官吏カ正當ノ事ヲ行フノ場合ヲ指シタルモノニシテ本案被告事件ノ如ク拘引スヘカラサル肩書相違アル不當ノ拘引狀ヲ以テ拘引セントスルカ如キ正當ノ職務ヲ行フト云フ可カラサルハ暫ク暴行等ノ所爲アリトスルモ其罪ノ構成スヘキモノニアラスト云フニ在リ原裁判所檢事補高橋克親ハ上告旨趣ノ不當ナルヲ一々駁論シ原裁判ハ適當ナリト答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審按スルニ上告第一ノ旨趣ハ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル証憑ノ採擇事實ノ判定ニ對シ漫ニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ素ヨリ上告ヲ爲スノ理由トスルニ足ラス又第二第二

第四ノ論告ニ因リ原判文ヲ閱スルニ依田角平ハ明治十五年九月六日長野縣巡查秋山豐治ヨリ上田治安裁判所ノ拘引狀ヲ示シ引致スベキ旨ヲ告知セラレ其引致ニ應シ云々巡查ノ引致ヲ拒ミ^中藤八カ首トナリ巡查ヲ罵詈シ加之巡查ニ迫リ官帽及ビ官棒ヲ取揚ケ剩ヘ制服ノ上ニ在合セ^中古單衣ヲ着用セシメ云々該事實ハ汝等カ豫審及ヒ當廷ニ於テ隨意ニ爲シタル陳供証人長野縣巡查秋山豐治群馬縣警部中村^中申立ニ徵シテ判然明白ナリト事實ノ理由及ヒ証憑等ハ充分ニ明示シテ毫モ不分明ノ廉アルヲナキノミナラス此事實ニ對シテハ官吏ノ正當ニ職務ヲ行フニアラスト云フヲ得ス又被告角平カ肩書ニ於テハ原籍戸長ノ公正ナル證明書アリテ之ヲ不當ナリト無謂苦情ヲ唱フルモ此等ノ理由ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第千二百九十二號

○判文〔賭博〕明治十六年十一月廿七日上告
同 十七年五月七日發付

兵庫縣播磨國飾東郡國府寺
村平民農業

松 本 福 松

明治十六年十一月
二十六年六月

右福松カ被告事件ニ對シ明治十六年十一月五日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ被告ハ明治十六年十月九日夜金錢ヲ賭シ現ニ博奕爲シタル者ト認定シ刑法第二百六十一條ニ依リ一月

十日ノ重禁錮ニ處シ七圓ノ罰金ヲ附加シ現場ニテ差押ヘタル賭金十七錢ヲ沒取スト言渡タル裁判不當ナリトシ被告松本福松ハ上告セリ其要領ハ被告ハ學務委員ニシテ博奕杯ヲ爲スモノニアラス殊ニ該日ハ居村ノ祭禮ニシテ其犯所ト認メラレタル社殿ハ多衆群集シテ巡查ノ爰ニ近寄目撃スル能ハサル筈ナルニ之ヲ撞見シタリトテ唐突被告ヲ捕縛拘引シ仍ホ分署ニ於テモ事實相違ノ口供ヲ作り強テ捺印セシメタルモノナルニ原裁判所ハ其巡查ノ片言及ヒ社殿ニ散亂アリシ賽錢ヲ以テ證據ト爲シ事實及ヒ理由ヲモ付サスシテ輒シ有罪ノ處斷ニ及ヒタルハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人原裁判所檢事補小西甚平ハ其上告理由ナキ旨答辯セリ
因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ原判文ハ事實及ヒ理由ヲ示サ、ルニ非ラス井然トシテ之ヲ記載セリ又警察官分署ニ於テ不正ノ口供ヲ作りタリト云フト雖モ更ニ其証憑ノ見ル可キモノナシ其他被告カ非難スル所ハ總テ原裁判所カ特有權内ニ於テ爲シタル探証及ヒ事實ノ認定ヲ論難スルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ項目ニ適中スル原由之レナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スルモノナリ
第一千二百九十三號
兵庫縣攝津國神戸區北長狹
通一丁目平民茶ホシ

○判文(賭博)明治十六年十月三十日上告
同 十七年五月七日發付

兵庫縣攝津國神戸區北長狹
通一丁目平民茶ホシ

平野 伊造

明治十六年十月
三十三年

右伊造カ被告事件ニ付明治十六年十月五日神戸輕罪裁判所カ財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル罪アリト認メ刑法第二百六十一條ニ依リ一月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ且差押ヘシ金錢ハ場錢ケツト并將基盤同駒ハ犯罪ニ用ヒシ者ト認メ沒収スト言渡シタル裁判ニ服セス伊造ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ明治十六年九月二十七日牧野定七方へ相越シタルニ朋友水田岩吉外兩名ノ者カ其店先キニ集合シ雜談或ハ將基ヲサシ又駒ヨミト唱フル手遊等致居タルニ付何心ナク其場ニ居合セタル迄ニテ白晝路傍ニ明ケ開キタル店先キナレハ固ヨリ金錢ヲ賭ケ勝負ヲ爲スヘキノ謂レナク然ルヲ原裁判所ニ於テ警察官苛酷ノ調ニ成立タル被告カ供狀并ニ告發調書等ニ依リ有罪ノ言渡ヲ爲セシハ事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ニシテ夫ノ不正品ニアラサルケツトナ犯罪ノ用ニ供セシ者ノ如ク認メ沒収セシハ法理ヲ採ルニ失セシ最モ太シキ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人檢事補中島孝叔ハ被告カ上告ハ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キサレハ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル所水田岩吉外兩名ノ者カ牧野定吉方店先キニ集合シ雜談或ハ將基ヲサシ又駒ヨミト唱フル手遊等ヲ致居タル所へ被告ハ何心ナク居合セタル迄ニテ白晝路傍ニ明

ケ開キタル店先キナレハ固ヨリ金錢ヲ賭ケ勝負ヲ爲スヘキ謂レナキチ原裁判所カ苛酷ノ調
ニ成立タル被告カ供狀並ニ告發調書等ニ依リ有罪ノ言渡シヲ爲セシハ事實ノ理由ニ齟齬ア
ル裁判ニシテ不正品ニアラサルケツトチ犯罪ニ用ヒシ者ノ如ク認メ沒收セシハ法理ヲ採ル
ニ失セシ最モ太シキ不法ノ裁判ナリト云フニ在リテ徒ニ原裁判官カ判定セシ事實上ニ立入
リ其裁判ヲ非難スルニ過キサレハ乃チ治罪法第四百十條ニ規定セル第一ヨリ第十一迄ノ場
合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告
ヲ棄却スル者也

第一千二百九十四號

○判文(損害要償) 明治十六年五月五日上告
同 十七年五月七日發付

岩手縣陸中國南岩手郡仁王
村字帷子小路吉田ミヨ方同
居士族

石橋宮機
年齡不詳

明治十六年四月六日盛岡輕罪裁判所カ借用物件ヲ騙取シタル公訴ニ附帶シテ爲シタル物件
取戻及損害要償請求ノ通現在ノ分ハ其儘引渡シ其品賣渡シタル分ハ賣拂タル代金ヲ以テ原
告ニ相渡スヘキモノナリト言渡シタル裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

本按附帶私訴ノ請求金額ハ百圓以上ナレハ始審ノ裁判ニシテ終審ノ裁判ニハアテサルナリ
然ラハ則チ其始審ノ裁判ニ對シテハ控訴ヲ經サレハ直ニ上告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス因テ
上告ハ成立サルモノト判定ス
以上ノ理由ナルヲ以テ本按上告ハ棄却スルモノ也

第一千二百九十五號

○判文(詐欺取財) 明治十六年四月五日上告
同 十七年五月八日發付

兵庫縣播磨國佐用郡中島村
平民

山本長太郎
明治十六年二月
三十四年十一月

明治十六年二月十七日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ右山本長太郎ハ已ニ抵當トナシタル
地所タルヲ詐欺隱シ他ニ賣却シタル罪アリト判定シ刑法第三百九十三條同第三百九十條同
第三百九十四條ニ據リ重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ附シ仍ホ刑法第四十
三條ニ依リ耕地賣渡書及地券書換願書ハ沒收シ地所賣渡代金三百九拾圓ハ民事原告人ニ返
濟スヘキ旨宣告セリ

山本長太郎於テ右ノ裁判ニ服セス上告ヲ爲シタル要旨第一點ハ被告カ内山歌藏ニ賣渡タル
地所ハ他ニ抵當トナシタルヲ詐欺隱シタルニ非ストノ第二點ハ賣渡ノ地所ハ被告於テ早

晚引渡スヘシト申立内山歌藏於テモ受取ント申立ルニ關セズ賣渡代金ヲ返濟スヘシト判定シタルトノ第三點ハ耕地賣渡書地券書換願書ハ素ヨリ犯罪ノ用ニ供シタル者ニアラズ又被告ノ所有物ニ非ス則チ民事原告人内山歌藏ノ所有物ナリ然ルチ刑法第四十三條ニ依リ沒收スル旨言渡タルハ共ニ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補河野通信ハ原裁判所事實ノ認定上ニ於テハ毫モ不當ノ廉ナジト雖モ証書類ヲ沒收シタルハ少シク適法ヲ失シタル者ノ如シ因テ此一點ニ就テハ被告人論旨ヲ相當ナリト思料スル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事武内維積ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

証憑ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判所承審官ノ主權ナリ然リ而シテ上告論旨第一點ハ原裁判官カ職權ヲ以テ採擇シタル証據ニ據リ認定シタル事實ニ對シ不當ヲ訴フルニ過キサレハ上告ノ理由トナスヘカラス其第二論旨ハ私訴ニ關スル上告ニシテ其金額ハ三百九十圓則チ原裁判所終審權以外ニ超過スルヲ以テ控訴ヲ爲シ終審ノ裁判ヲ受クルニ非サレハ直ニ上告ヲナシ得サルモノトス其第三論旨ハ已ニ原裁判所ニ於テ被告ハ刑法第三百九十三條ノ罪ヲ犯シタルト事實ノ認定ナシタル上ハ彼ノ証書類ハ則チ犯罪ノ用ニ供シタル者ニシテ其賣買ノ無効ニ歸シタルニ於テハ其賣買ニ關スル証書類ハ素ヨリ無効ニシテ被告ノ所有ニ歸シ民事原告人内山歌藏ノ所有物ニアラサレハ原裁判所於テ刑法第四十三條ニ依リ沒收シタルハ相當ノ裁判ナリトス

以上辯明スル如ク被告人上告ノ論旨ハ徒ラニ原裁判ノ不當ヲ訴ヘ事實ノ覆審ヲ要ムルニ過

キスシテ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百一十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千二百九十六號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十一月十四日上告
十七年五月八日發付

高知縣土佐國土佐郡蓮池町

平民無職業

久 武 馬 七

明治十六年十月

三十年

右馬七カ被告事件ニ付明治十六年十月十一日高知輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年九月廿二日田淵丑藏ヲ欺キ絀綿五反ヲ騙取シタル者ト判定シ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ照シ重禁錮六月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ且監視十月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告馬七カ上告ヲ爲シタル要旨ハ本接ノ物品ハ右丑藏ヨリ買得タルモノニシテ騙取シタルモノニアラス然ルニ騙取ナリト斷定セラレシハ不法ナリト云フニ在リ同裁判所檢事補村田穗ハ上告不當ナル旨ヲ答辯セリ茲ニ專任判事ノ報告并ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ旨趣ハ徒ニ承審官カ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定上ニ不服ヲ唱ヘ之カ覆審ヲ要求スルニ止リ治罪法第四百十條ノ規則ニ適セサルヲ以テ其理由ナシトス仍テ同法第四百廿七條ニ遵ヒ該上告ヲ棄却スル者也

第一千二百九十七號

二五二

○判文(詐爲証書) 明治十六年四月三十日上告
同 十七年五月八日發付

富山縣上新川郡富山山王町
平民 金厚石太郎

明治十六年二月
三十一年

明治十六年二月十七日金澤輕罪裁判所富山支廳於テ石太郎カ被告事件ニ付其証書ヲ詐爲シ馬ヲ騙取シタルハ刑法實施前ニアリ衣類ヲ騙取シ未決監ヲ破壞シ逃走セントシテ未タ遂ケス自首シタルハ刑法實施後ニ係ルヲ以テ之レヲ刑法第百條末項明治十四年第八十一號公布ニ照シ新舊法ヲ比照シ一ノ重キ衣類騙取ノ罪ヲ以テ論シ刑法第三百九十四條第三百九十四條ニ依リ重禁錮一年六月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加シ十月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法トナシ被告石太郎カ上告セル第一要旨ハ高安平治郎ヨリ馬ヲ牽キ去リシハ岡本幸太郎ニシテ而シテ米借用証并馬賣切証書共右平次郎於テ幸太郎ヘ差入シヤ否被告ハ只タ平次郎ヨリ依頼ヲ受ケ不得止幸次郎同道戸長方等ヘ相越シタル迄ニテ其事實ニ於ケル毫モ覺知セサルトノ事第二ハ衣類騙取シタルモノト認定セラレシト雖モ青木フチイ等カ所持致シ居タルモノニテ被告カ騙取セシニアラサルニモ拘ハラス其所爲アリトシテ刑ヲ言渡サレシハ不法ナリト云フニアリ

對于人檢事補土屋次郎八ハ上告趣旨ノ理由ナキヲ論駁シ原裁判適當ナリト答辯セリ因テ大審院於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ
本件上告第一第二趣旨ハ之ヲ要スルニ被告於テハ証書ヲ詐爲シ若クハ馬並衣類等ヲ騙取シタル事毫モ之レナキニ刑ヲ言渡サレシハ不服ナリト訴フルニ外ナラスシテ其訴旨即チ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル採証並事實認定上ノ當否如何ヲ論難スルニ止マリ治罪法第四百十條各項目外ニ涉リ上告ヲ爲シ得ルノ原由ナケレハ到底相立サルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也
第一千二百九十八號

○判文(証書騙取) 明治十六年四月六日上告
同 十七年五月八日發付

朽木縣下野國下都賀郡朽
木萬町平民砂糖商

總 二
明治十五年六月
三十五年

右摠ニカ被告事件ニ付明治十五年六月十二日朽木輕罪裁判所カ詐欺取財ノ事實アリト認メ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓監視一年ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要領ハ山藤榮三郎ヨリ金員借用証書ト抵當地券証ヲ受取リタルハ正當ノ授受ニ出テタルモノニテ騙取ノ所爲ニ出テタルモノニ非サルコトハ

二五三

証人ノ陳述及ヒ証據書類ニ依テ明瞭ナリ其他山藤榮三郎ハ田中信吉外一名ト連借人ニアラ
 フト云フト雖ヒ連借人タルコトハ証書ニ押捺アル印影ノ同人ノ印影ト異ナラサルコトハ鑑定人
 ノ鑑定ヲ以テ明瞭タリ然レモ被告人ハ實際榮三郎ニ金員ヲ渡サス信吉外一名ニ渡シタル
 ハ過失ナルヲ以テ榮三郎ニ對シ返金ヲ請求スルノ權利ナキコト覺リ金員借用証書并ニ地券
 証ヲ返還シタルモノナルニ原裁判所ハ此等ノ事實ヲ審究セス被告ヲ証書騙取者ナリト判定
 セラレタルハ不當ナリ仮ニ原裁判ノ如ク被告人ヲ有罪者ナリトスルモ証書騙取ノ精神ハ
 必ス金圓ヲ詐取セントノ目的ナレハ其目的ヲ遂ケサレハ未遂犯罪ナルニ之ヲ已遂犯ナリト
 サレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ヒ又上告代言人歌木伸一ハ上告趣意擴張書ヲ提出シ本
 件ハ被告外二名ノ連犯事件ニテ互ニ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ同時ニ之カ判決ヲ爲サ
 ル可ラサルモノナルニ同一ノ証廷ニテ審問ヲ爲シタル倉之助ニ對シテハ今日ニ至ルモ裁判
 ナ與ヘサルハ不當ナリ其他原裁判ハ事實理由ノ明示ヲ欠キタル裁判ナレハ破毀アリタシト
 要求セリ

對手人檢事補桑田親五ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シ附帶上告ヲ爲シタリ其要領ハ事實參
 考人ト爲スモノハ治罪法第百八十一條同第百八十二條ニ列記スルモノナルニ原裁判所ハ本
 件被害者タル山藤榮三郎ハ民事原告人ニアラサルモノナルニ之ヲ事實參考人トシテ其陳述
 ヲ聽キタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ハ本按ニ對スル意見ヲ陳述シ而シテ附帶上告
 ナ爲シテ曰原裁判言渡書ノ語句タルヤ前後照應セサルノミナラス証據ノ論點ト亦相合ハス

其他証書變造ノ罪アルカ如クナルニ之カ行使ノ点ニ至テハ判文上明瞭セサルハ事實ノ理ヲ
 缺キ且理由ニ齟齬アルモノナレハ原裁判全部ノ破毀アリタシト開陳セリ茲ニ之ヲ審按スル
 ニ

上告ノ理由トスル處証書ノ授受ヲ爲シタルハ正當ニ成立タルモノナルニ之ヲ騙取ノ所爲ナ
 リト認メラレタリ又ハ目的タル金圓ヲ詐取セサレハ未遂犯ナリ或ハ連犯人ヲ同時ニ處斷セ
 ス加ルニ原裁判言渡ハ事實理由ヲ明示セスト云フニ在リト雖ヒ原裁判所カ各種ノ徵憑ニ依
 リ認メタル事實ニ對シ徒ニ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス又其目的タル金
 圓ヲ詐取セサルモ既ニ証書ヲ騙取シタル上ハ其遠因ノ目的ハ遂ケ得サリシモノナルモ其近
 因即チ騙取ノ目的ハ遂ケタルモノニテ既遂犯タルコト當然ナレハ未遂犯罪ナリトノ訴旨モ相
 立タサルモノトス又ハ連犯人ヲ同時ニ裁判セサルハ不當ナリトノ訴旨モ其効ナキモノトス
 何トナレハ連犯人アル場合ニハ必ス同時ニアラサレハ裁判爲シ得ヘカラサルトノ理アルコ
 ナシ法律モ亦之ヲ拘束セサルニ因ル原檢察官附帶上告論旨ノ如ク事實參考人トシテ陳述ヲ
 聽ク場合ハ治罪法第百八十一條第百八十二條ニ掲ケテ明瞭ナルニ原裁判所ハ該條ニ則ラス
 檢察官ノ請求ヲ採ラス又異議ノ申立ヲ棄却シ職權ヲ以テ民事原告人ニモ非サル一ノ告訴人
 ナ事實參考人トナシ宣誓ヲ用ヒス其陳述ヲ聽キタルハ越權ノ處分ナリトス

立會檢察官附帶上告ニ付原裁判言渡ヲ閱スルニ
 〔中〕
 抵當ノ地所ハ獨リ榮三郎ノ所有ニシテ
 而シテ榮三郎ハ云フ嘗テ連帶ノ契約ヲナシタルコトナシト又倉之助ハ云フ事實信吉ト俱ニ周
 旋人ニ過キサレモ其方ノ云フニ任セテ証書ニ署名セシモノナリト然ラハ則榮三郎ノ信吉倉

之助ニ於ケル義務ヲ連帶シタルノ事實アリト思料スルヲ得サレハ云々トノ事實ニ依レハ
教唆ニ應ジ證書ニ氏名ヲ記入シテ變造シ連帶者ト爲シタルモノ、如キ理由ナルニ後段ニ至
テハ〔前〕榮三郎ヨリ金一千圓ヲ詐取セントスルノ目的ヲ以テ榮三郎ヲ騙瞞シ金一千圓ノ貸
金証書并ニ地券証三十一枚ヲ詐取シタルモノト斷定ス云々ト説キ去リタルハ前後其理由
ノ撞着スルモノニテ是即チ治罪法第四百十條第九項ニ適當スル上告ニテ破毀ノ原由アル裁
判ナリト判定ス

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ被告人カ上告ハ棄却シ原檢察官及ヒ本
院檢察官附帶上告ニ付同法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ水戸輕罪裁判所下
妻支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第千二百九十九號

○判文〔屬籍詐稱〕明治十六年十二月六日上告
同 十七年五月八日發付

栃木縣下野國河内郡駒生村
平民

大野 信 作

明治十六年十月

三十一年三月生

右大野信作カ屬籍詐稱事件ノ豫審終結言渡ニ對スル故障ニ付明治十六年十一月十五日栃木
輕罪裁判所宇都宮支廳會議局ニオイテ抑モ豫審終結言渡ニ對シ故障ヲ爲シ得ヘキ場合ハ治

罪法第二百四十六條第三項ニ明記セル如ク管轄違ヒ越權又ハ其事件ヲ移ス可キ裁判所ノ管
轄違ヒニ限レリトス然ルニ被告カ故障ハ之レニ反シ事實ノ陳述ニ止ルニヨリ豫審判事カ之
レヲ採ラスシテ屬籍詐稱ノ罪アリト認定シタルヲ相當ナリトシ被告カ故障申立ヲ棄却シタ
リ被告ハ該言渡シヲ不當ナリトシ上告セリ其要旨第一ハ被告人ニオイテ函館縣渡島國函館
町菅沼吉郎方ニ寄留シタリト宇都宮治安裁判所へ届出タルハ故意ニ非スシテ錯誤ナリ第二
被告ハ事實証明ノ爲メ菅沼吉郎ノ書面及ヒ電報書ヲ提供シタルニ之レヲ採ラスシテ詐稱犯
ト認メラレタルハ第一事實ノ齟齬第二審理不盡ノ判決ナリト云フニアリ對手人檢事補常井
誠一郎ハ逐項之レヲ駁撃シ結局原由ナキ上告ニ付速ニ棄却アリ度旨答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
抑實事ノ認定ハ治罪法第四百十六條第二項ノ規定ヲ以テ裁判官ノ職權ニ任從セシ所ナレハ
其裁判言渡ニ於ケル同法第四百十條各項ニ適當スル原由アルニ非サレハ漫ニ之レヲ論難ス
ルヲ得サルモノトス今ヤ上告論旨ハ徒ラニ裁判官ノ職權内ニ立入り喋々スルニアリテ一モ
該條適當ノ原由ナキモノタリ依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ本按上告ハ棄却スルモノナリ

第千三百號

○判文〔竊盜〕明治十六年十一月十四日上告
同 十七年五月八日發付

長野縣信濃國上水内郡南長
野町平民

羽 鳥 由 松

二五七

明治十六年九月

三十九年九月生

同縣同國同郡同町平民

羽鳥米太郎

明治十六年九月

十四年七月生

右ノ者共カ竊盜被告事件ノ豫審終結ニ對スル故障ニ付明治十六年十月二十四日長野輕罪裁判所會議局於テ被告ノ所爲ハ寺島新吉ノ水車場ニ至ルモ未タ屋内ニ侵入セス屋外ニ在テ竊取ノ方法ヲ思考スル際新吉ニ見留ラレタルモノナレハ未タ犯罪ニ着手セサルナリ即チ刑法第百十一條ニ所謂罪ヲ犯スノ豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ニ付同法第百十二條ニ據ルヘキモノニアラストシ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタリ檢事補川久保信任ハ之レヲ不當トシ上告セリ其要旨ハ被告等ノ所爲ハ豫備ヲ經テ既ニ未遂ノ區域即チ行爲ノ端緒ニ移リタルハ彼里道ヲ去テ水車場而已ニ通スル私道ニ侵入シ戶外ニ於テ事主ニ見留ラレシ是レ即チ意外ノ障礙ニ因リ未タ遂ケサルモノト云ハスシテ之ヲ何トカ謂ハソ然ラハ會議局於テハ輕罪裁判所ヘ移スノ言渡ヲ爲スカ當然ナルニ事茲ニ出サルハ不法ナリト云フニアリ

對手人羽鳥由松羽鳥米太郎ハ上告趣意書ノ送達ヲ受ケタル証アルモ答辯書ヲ差出サス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

抑刑法第百十二條ノ法文タル罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若ク

ハ舛錯ニヨリ未タ遂ケサル時ハ云々トアリ是其犯罪ニ着手シタル者ヲ指スヤ明カナリ然ルニ本按被告等カ所爲ハ已ニ着手シタリヤ如何ヲ案スルニ原判文ニ「屋外ニアツテ竊取スルノ方法ヲ思考スル際云々」トアルヲ以テ視レハ事實思考中ニアツテ未タ其事ヲ行ハサリシモノト爲サ、ルヲ得ス故ニ原會議局カ豫審終結ヲ認可シタルハ相當ニシテ本案上告ハ治罪法第四百十條ノ項目ニ適應シタル原由ナキモノナリトス依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ハ棄却スルモノ也

第千三百一號

○判文〔強盜〕明治十七年三月十三日上告
同 年五月八日發付

佐賀縣肥前國小城郡板屋村
平民

本 村 末 吉

明治十七年二月

二十九年三月

右末吉カ被告事件ニ對シ明治十七年二月二十日佐賀重罪裁判所ニ於テ被告ハ佐賀縣肥前國小城郡藤ノ瀬村平民森彌兵衛カ豫テ古金銀ヲ貯藏シ居ルヲ聞知シ當時藤ノ瀬村ニ假住セル同縣平民黒岩作太郎ト共ニ明治十五年五月七日夜右彌兵衛宅ニ押入り携來ル所持ノ脇差ヲ以テ彌兵衛及ヒ其妻「ムラ」ヲ斬殺シ二十錢銀貨一枚天保錢十三枚一厘錢十六枚ヲ奪取シ又明治十六年八月五日佐賀監獄署入監中同囚橋口堅助外七名ト共ニ共謀シ暴行脅迫シ以テ脱

獄逃走シタルモノト判定シ之ヲ法律ニ照シ刑法第三百八十條同法第四百十四條同法第四百十二條同法第四百十五條同法第四百條同法第四百條ノ法文ヲ掲ケ而シテ被告人ニ對シ刑法第三百八十條ニ據リ死刑ニ處ス但シ犯罪ノ用ニ供シタル脇差并筒袖襦袢ハ刑法第四十三條ニ據リ沒収ス云々ト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告人ハ上告ヲナシタリ其要旨ハ被告カ所持ノ脇差ハ當時已ニ竊取セラレタレハ携帶スヘキ謂ハレナシ又黒岩作太郎カ被告ト共犯シタル如ク申立テタルハ被告ヲ陷害セントノ惡謀ニ外ナラス然ルニ其惡謀ハ被告ニ遺恨ヲ懷キ居ル肥前國小城郡古葉村平民姓不知源兵衛ナル者ノ教誘ニ出ツルトノヲ知リ右源兵衛ヲ面責シ冤罪ヲ雪カントノ念慮ニテ遂ニ脱監シタル實際ナリ又筒袖襦袢ハ被告ノ持所品ナルモ血ニ染ム謂ハレナケレハ再鑑定ヲ命セラレ度ヲ及ヒ源兵衛ナルモノハ犬山巡查ノ手先ナレハ他ノ巡查ヲシテ探偵セシメラレ度ヲ豫審廷ニ於テ申立テタルニ判官カ採用セカリシハ不當ナリ又証人森「ハル」ノ陳述ハ無實ナリ筒袖襦袢及ヒ脇差ハ本件ノ証據物タル効力ヲ有セス到底原裁判ハ法律事實ニ違背セル不當ノ裁判ナレハ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ對手人檢事山根恭太カ答辯ノ要旨ハ上告ノ趣意ハ裁判官カ証憑ノ判定ヲ不當ナリト云フニアルモ治罪法第四百十六條第二項ノ法文アル限りハ其論旨ハ無効ニ屬スルノミナラス原裁判ハ毫モ事實ト法律ノ違背セル點ナキ相當ノ裁判ト思料スト云フニアリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ檢事武内維積代言人志摩方次郎ノ辯明ヲ聽クニ代言人原判文ヲ閱スルニ適用スヘキ法律ノ正條ヲ列舉シタル末突然刑法第三百八十條ニ據リ云々トアリテ判然ニ罪俱發ノ例ニ依ルノ理由ヲ示サルハ法律ノ理由ヲ付スルノ方ニ於テ不完全ナルニ似タリ

ト云ヒ檢事ハ反之法律ノ理由ヲ付スルノ方ニ於テ完全セリト云ヒ更ニ附帶ノ上告ヲ爲シタル主旨ハ筒袖襦袢ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件トナシ沒収ヲ言渡シタル原裁判ハ不當ナルニ付其一部ノ破毀アランヲ求ムト云フニアリ因テ判決スル左ノ如シ
 本按上告ノ趣旨ハ要スルニ原裁判官カ共犯人黒岩作太郎ノ供述森「ハル」ノ証言并ニ脇差及筒袖襦袢等ノ証據物件ニヨリ被告カ犯罪ノ事實ヲ判定シタルハ不當ナリト云フニアル如キモ抑モ証據徵憑ノ取捨及ヒ事實ノ如何ヲ判定スルハ事實裁判官ノ特權ナレハ其判定ニ對シテハ他ヨリ之ヲ動カシ得サルハ勿論ナルニ上告ノ趣旨ノ如キハ徒ニ之ニ不服ヲ唱フルニ止マリ治罪法第四百十條各項ニ記列スル上告ノ原由ナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス但筒袖襦袢ハ本件犯罪ノ用ニ供シタル物件トナスヘキモノニアラサルニ脇差ニ併セ沒収ヲ言渡シタルハ附帶上告趣旨ノ如ク原裁判其當ヲ得サルニ付治罪法第四百三十一條ニ依リ其不當ノ一部ヲ破毀シ原裁判言渡書但書中(并ニ筒袖襦袢)ノ六字ハ之ヲ取消スモノ也

第一千三百一號

○判文(賭博) 明治十六年五月十四日上告
 同 十七年五月八日發付

滋賀縣近江國愛智郡中岸本
 村平民善右衛門長男大工職

岸 下 龜 吉

明治十六年四月

右龜吉カ被告事件ニ付明治十六年四月十四日大津輕罪裁判所彦根支廳カ博奕ヲ爲シタルノ事實アリト認メ刑法第二百六十一條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加ストノ裁判言渡ニ服セス上告セリ其要領ハ中島與惣吉宅ニ於テ辰巳寅吉外數名ト戯レニ酒又ハ豆腐ヲ賭ケ其兩品ニ代フルニ小間板ヲ以テ勝負ヲ爭ヒタル事アルモ被告人ハ其半ニシテ歸宅セリ然ルチ原裁判所ハ賭博現行犯ナリトシテ刑ヲ言渡サレタルハ畢竟巡查ノ想像ヲ以テ爲シタル告發ヲ偏信シ且自白セシモナキニ自白シタルモノトセラレタルハ不當ナレハ原裁判破毀アリタシト要求セリ

對手人檢事補吉川雅都ハ上告ノ趣旨ヲ不當ナリトシ棄却セラレタシト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處酒豆腐ヲ賭ケ戯レニ勝負ヲ爭ヒタルモ其半ニシテ歸宅シタルモノナルニ博奕現行犯ナリト刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニアツト雖モ原裁判所カ認メタル事實ニ對シ徒ニ不當ヲ訴フルニ過キサレハ上告ノ理由トナスヲ得ス何トナレハ治罪法第四百四十六條第二項ニ規定スル如ク諸般ノ徵憑ヲ取捨鑒別シテ有罪ナルヤ否ヤヲ認定スルハ原裁判所ニ特任シタル職權内ナルヲ以テナリ因テ本按要求ノ趣旨ハ相立タサルモノト判定スル以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ハ棄却スルモノ也

第千三百三號

○判文(樹木盜伐及ヒ誣告)明治十六年十一月廿一日上告
同 十七五月八日發付

千葉縣下總國香取郡高萩村
平民農業

椎名 庄 作

明治十六年十月
四十二歲七ヶ月

同縣同國同郡同村平民農業

椎名 庄右衛門

明治十六年十月
三十八歲三ヶ月

同縣同國同郡同村平民農業

椎名 繁次郎

明治十六年十月
二十三歲五ヶ月

同縣同國同郡同村平民農業

高 木 國 藏

明治十六年十月
二十八歲五ヶ月

同縣同國同郡同村平民農業

明治十六年十月

二十九歲二月

右五名カ藥王寺所有ノ樹木ヲ盜伐シ及ヒ村上廣海ヲ誣告シタリトノ被告事件ニ對シ明治十六年十月二十七日千葉輕罪裁判所八日市支廳ニ於テ審理ノ末其証憑充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪放免シ且差押ヘアル賣渡証書ハ其宛名ノ者へ許可書及ヒ帳簿ハ村上廣海へ誓約書及ヒ請取書ハ被告共へ還付スト言渡シタル裁判不法ナリトシ原裁判所檢事碧川眞澄ハ上告セリ其要領ハ被告等ハ該木盜伐シタルヲ掩ンカ爲メ村上廣海ヲ誣言シタルノ犯蹟明確ニシテ已ニ原判文ニモ其事實ヲ掲載シナカラ反テ其証憑不充分ナリトシ之ヲ無罪トナシタル耳ナラス良シ其証ナシトスルモ他人ノ動産ヲ冒認シテ販賣シタルモノナレハ詐欺取財ヲ以テ論セサルヘカラサルニ裁判爰ニ及ハサリシハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人被告椎名庄作外四名ハ之ヲ辯駁シテ原裁判ノ至當ナル旨答辯セリ
 因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ上告者カ原判文ニ被告ノ樹木盜伐セシ事實ヲ掲載シナカラ云々非難スト雖モ之ヲ閱スルニ原裁判所ハ其盜罪及ヒ誣告罪ヲ構造スヘキ要件ノ未タ具備セサルトノ理由ヲ逐一明示シタルモノニシテ其竊盜爲シタリト認定シタルノ文詞ナシ又其理由ニ基ケハ被告ニ冒認罪ノアルヘキモノト認メ得サレハ上告者カ仍ホ此點ニ就キ喋々スル所モ亦相立サルヲ知ルヘキナリ其他ハ舉テ事實上ノ非難ニ歸

シ治罪法第四百十條ノ項目ニ適當スル上告ノ原由之レナキモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ヲ棄却スルモノ也
 第一千三百四號

○判文(煙草稅則犯)明治十七年四月一日上告
 同年五月八日發付

熊本縣肥後國合志郡室町三
 十八番地煙草小賣人

坂田 庄吉

明治十六年十月
 二十五年

右庄吉カ被告事件ニ付明治十六年十月十五日熊本輕罪裁判所ニ於テ煙草稅則違犯ノ罪アリトシ煙草稅則第二十三條同第三十八條ニ照シ罰金五圓ニ處シ尙現在スル煙草七百五十匁ヲ沒收シ賣捌代金壹圓八厘ヲ追徴スト言渡シタル裁判確定ノ後本院檢事長渡邊驥ハ職權ヲ以テ非常上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判所ニ於テ被告庄吉カ煙草賣入帳ヲ調製セスシテ煙草ヲ買入販賣シタル所爲ニ對シ煙草稅則第二十三條同第三十八條ニ依リ罰金五圓ニ處シ尙ホ現在スル煙草及賣捌代金ヲモ沒收シタルハ即チ通常ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル擬律錯誤ノ裁判ナリ依テ原裁判ヲ破毀シ直チニ至當ノ裁判アラントナ請フト云フニアリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 被告庄吉ハ明治十六年七月以降煙草買入帳ヲ調製セスシテ製造煙草ヲ販賣シタル者トシ原

裁判所カ煙草稅則第二十三條第三十八條ニ依リ罰金五圓ニ處シ尙ホ現在スル煙草及賣捌代金ヲモ沒收シタルハ所謂相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス何トナレハ本案ノ如キ唯々煙草買入帳ノ調製ヲ怠リタルノミニシテ他ニ違法ノ廉ナケレハ單ニ罰金ノミニ處スヘクシテ煙草及賣捌代金ヲ沒收スヘキノ限リニアラサレハ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ該煙草及賣捌代金ヲ沒收シタル部分ヲ破毀シ之ヲ取消モノナリ

○判文(新聞條例違反) 明治十六年五月十一日 上告
同 十七年五月八日 發付

新潟縣越後國北魚沼郡小千
谷町百三十二番地平民山本
茂長男東京府京橋區銀座四
丁目八番地朝野新聞社假編
輯長

山本 作 平

明治十六年四月
十六年九ヶ月

新聞條例違反事件ニ付明治十六年四月十七日東京輕罪裁判所カ刑法第五條ニ基キ明治八年
第一百十一號公布新聞條例第十五條ニ依リ明治十四年第七十二號公布ニ照シ尙ホ犯時年齡十
六歳以上二十歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ照シ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減シ其範圍内

ニ於テ偏ヘニ罰金八十圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告作平ハ上告ヲ爲シタリ其要旨
ハ第一新聞條例第十五條ニ斷獄ノ下調ニ係リ未タ公判ニ付セサル者云々トアルハ未タ豫審
中ニ在ルモノヲ掲グルヲ得ストノ法文ナレハ被告カ新聞紙上ニ免訴ノ言渡ヲ受ケ既ニ結了
シタル豫審調書ヲ掲載シタルモ罪トナルヘキモノニ非ス又法ニ正條ナキナリ然ルニ原裁判
所ハ刑法第二條ニ依ラスシテ新聞條例第十五條ヲ適用シタルハ越權ノ處分ナリ第二檢察官
ノ公訴ハ假令長坂八郎等ニ於テ免訴セラレタルモ同一事件ヲ以テ被告セラレタル河野廣中
等ハ未タ公判ニ付セサル者ナレハ之ヲ掲載スルヲ得スト云フニ在リテ豫審ニ於テ結了セシ
事柄ヲ掲載セシハ新聞條例ノ犯則者ナリトノ公訴ニ非ス是レ原裁判ハ起訴ニナキ事柄ニ涉
リ判決ヲ爲シタルモノニテ是亦越權ノ處分ナリト云フニ在リ對手人原裁判所檢事補金田清
二郎ハ新聞條例第十五條ニ明示スル所ノ者トハ人其者ニ非スシテ事件ヲ指シタルモノナレ
ハ假令豫審ニ於テ其事件ニ關係スル被告人中ノ一部ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スモ本件ノ被告
事件未タ公判ニ付セサル者ナルハ本條ノ問フ所タリ故ニ原裁判ハ至當ナリト答辯セリ大
審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ被告代官人林和一カ上告趣意擴張ノ辯論
及ヒ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本按上告第一ノ旨趣ハ新聞條例第十五條ニ未タ公判ニ付セサル者トハ豫審ノ結了セサルモ
ノヲ謂ヒ本件ノ如キ結局公判ニ付セス免訴セラレタル豫審調書ヲ掲載スルモ本條ノ支配ヲ
受クヘキモノニ非スト云フニ在レハ新聞條例第十五條ハ斷獄ノ下調即チ豫審ノ調書ハ其既
ニ結了スルト否トチ分タス之ヲ掲載スルヲ許サストノ法意ナレハ被告カ新聞紙上ヘ長坂

八郎外一名ノ豫審調書ヲ掲載シタル上ハ素ヨリ該十五條ノ刑ヲ免ル、ヲ得サルナリ又上告第二ノ旨趣タル原裁判官ハ檢察官ノ起訴以外ニ判決ヲ及ボシタリト云フニ在ルモ公判始末書ヲ閱スルニ被告カ論告スル所ト異ナリ新聞條例ノ違犯者ナリト云フ公訴ナリシコト明瞭ニシテ毫モ原裁判ニ越權等不法ノ點アルヲ見サレハ是亦上告ノ理由ナキモノトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スルモノ也

第一千三百六號

○判文(竊盜)明治十六年四月廿五日上告
同 十七年五月九日發付

山形縣羽前國南村山郡關澤
村平民通運會社雇人

長 沼 金 助

明治十六年三月
三十年

右金助カ被告事件ニ付明治十六年三月十五日山形輕罪裁判所於テ被告金助ハ市川力松ト俱々陸前國柴田郡字千人澤へ魚獵ニ立越シタル際右力松ヲ申勸メ同所ニ建テアル小屋ノ中ヨリ斧外五品ヲ竊取セシモノト判定シ所犯刑法實施前ニアルヲ以テ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニテハ賊盜律竊盜條名例律斷罪無正條ニ依リ處斷スヘシ刑法ハ第三百六十六條第三百六十九條第三百七十六條第八十九條第九十條第九十九條等ニ依照シ處斷スヘキニ該當スルヲ以テ同法第三條第二項明治十四年第八十一號布告ニ從ヒ舊法ニ依リ懲役三十日ニ處スト言渡

シタル裁判ヲ不法トナシ被告金助カ上告セル其要旨ハ明治十二年十一月三日舊曆九月十九日ハ村

内稻荷神社ノ祭日ニテ例ノ如ク親戚等ニ使ヲ爲シタルヲ以テ他出セシコトナク其他出セサルハ佐藤爲三郎外一名ノ証言アルノミナラス市川力松カ云フ處ノ被害者鍵水常之助外一名ハ千人澤ニ行キタルコトナク斧并外五品ヲ紛失セシコト亦之レナク況ンヤ當時武田政吉ニ雇ハレ仙臺山ト唱フル所ニ行キ稼キ居タル旨ヲ陳述シアルニモ拘ハラス右力松カ虛構ノ自首等ヲ信用セラレ刑ヲ言渡サレシハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人檢事補土屋安久ハ上告旨趣ノ理由ナキヲ論辯シ原裁判適當ナリト答辯セリ玆ニ大審院於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

治罪法第四百六條第二項被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述云々其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ原判官カ諸般ノ証憑ヲ採擇シ即チ被告人ハ市川力松ヲ勸誘シ陸前國柴田郡字千人澤ニテ魚獵ノ際同所ニ建テアル小屋ノ中ヨリ斧一挺外五品ヲ竊取セシ所爲アリト認定シタル裁判ナレハ之レカ判定上ノ當否ヲ非難シ破毀ヲ求メント欲スルモ上告ヲ爲シ得ルノ原由ナキモノトス何トナレハ治罪法第四百十條各項外ニ涉ルノ訴旨ナレハナリ因テ同第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スル者也

第一千三百七號

○判文(竊盜)明治十七年四月一日上告
同 年五月九日發付

京都府上京區第十八組新御

幸町平民

明治十六年十二月

二十九年十月月

右米吉カ被告事件ニ付明治十五年十二月廿五日京都輕罪裁判所ニ於テ被告ハ同年九月廿日夜上京區第廿四組松竹町士族村井義編方南隣近藤忠助居室裏手ノ切戸ニ階子ヲ掛ケ板塀ヲ乘越ヘ忍入り蘭并萬年青ヲ竊取シタル者ト判定シ刑法第三百六十七條第三百六十八條及ヒ第三百七十六條ニ照シ重禁錮二年六月ニ處シ監視一年ニ付スト言渡シタル裁判確定ノ後被告米吉カ再審ノ訴ヲ爲シタル主要ハ被告カ竊盜ヲ爲サ、リシ事ハ隣佑ノ証言及ヒ他ニ之ト同一事件ヲ自首スル者アルトニ依テ明白ナレハ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ外ナラス玆ニ大審院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書并ニ本院檢事長渡邊驥ノ意見書ニ依リ之ヲ審按スルニ同一ノ事件ニ付共犯ニアラスシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時ハ之ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲シ得ヘキモ自首者アルノミニテハ未タ之カ原由ト爲ス能ハサル事ハ治罪法第四百三十九條ノ規則ニ照シテ明確ナリトス今原訴訟書類ニ依レハ吉川菊之助ナル者ハ本件ヲ自首スル者ノ如シト雖モ未タ之カ爲メ刑ノ言渡ヲ受ケタルニアラサル而已ナラス他ニ其原由アルニモアラサレハ本訴ノ効ナシトス仍テ本訴ヲ棄却スル者也

第千三百八號

○判文(竊盜)同 明治十六年四月二十日上告 十七年五月九日發付

栃木縣下野國安蘇郡栃木町

平民農

慶野馬藏

明治十六年二月

三十一年

明治十六年二月十六日栃木輕罪裁判所ニ於テ右慶野馬藏カ竊盜被告事件ヲ審判シ明治十五年八月三十日赤見村字蓮沼ノ畑中ニ於テ佐藤彦三郎所有ノ鎮瓶ヲ竊盜シ又同月三十一日同村矢野庄三郎宅ニ於テ同人ノ懷中時計ヲ竊取シタル者ト判定シ其時計竊取ノ罪ヲ重シト爲シ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ照シ重禁錮三月ニ處シ監視八月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補外島保信ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ鎮瓶竊取ノ所爲ハ慶野與市ナル者ト兩名ニテ犯シタル者ナレハ刑法第三百六十九條ヲ適用スヘキニ原裁判官ハ單ニ同第三百六十六條ヲ適用シ且其情狀重シトスル所ノ時計竊取ノ所爲ニ對シハ相當ノ言渡ヲ爲シタルモ其輕キ鎮瓶竊取ノ所爲ニ對シテハ法律ノ理由ヲ付セサルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

上告第一ノ論旨ハ被告カ鎮瓶竊取ノ所爲ハ二人ノ共犯罪ナルニ因リ刑法第三百六十九條ヲ適用スヘキ者ナリト云フニ在ルモ原裁判言渡書并ニ公判始末書ニ依ルモ被告カ鎮瓶竊取ニ付果シテ共犯人アリタリト認ム可キ證據アルナク檢察官自カラ公廷ニ於テ被告事件ヲ陳述スルニモ共犯人アルノ申立ヲ爲シタルヲナク又刑ノ適用上ニ付テノ意見モ單ニ刑法第三百

六十六條ヲ適用ス可キ者ト述ヘシニ依リ原裁判官ニ於テモ被告一人ノ所爲ナリト認タル者ニテ今更之ヲ共犯罪ナリト論告スルモ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サル者トス其第二ハ錠瓶竊取ノ所爲ニ對シ法律ノ理由ヲ付セストノ旨趣ナルモ原裁判言渡書ニ掲載セシ如ク原裁判官ハ竊盜ニ罪ノ事實ヲ明示シ時計竊取ノ所爲ヲ重シト爲シ刑法第三百六十六條ニ依リ處斷シタルモノナレハ同種類ノ犯罪ニ對シ各自ニ同條ヲ舉示セサルモ之ヲ以テ法律ノ理由ヲ付セスト謂フコトヲ得サルモノトス之ヲ要スルニ本件上告ハ治罪法第四百十條ノ各項ニ規定スル上告ノ理由ナキ者ト判定シ同第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第千三百九號

○判文(竊盜) 明治十六年四月九日上告
全 十七年五月九日發付

福岡縣筑前國粕屋郡津波黒
村平民

高橋伊三郎

明治十六年二月

四十七年三月月

同縣同國同郡同村平民

城戸藤次郎

明治十六年二月

五十六年七月月

同縣同國同郡同村平民

城戸七次郎

明治十六年二月

四十年二月月

同縣同國同郡同村平民

高橋喜三次

明治十六年二月

三十三年三月月

同縣同國同郡同村平民

城戸善七

明治十六年二月

二十七年三月月

明治十六年二月二十七日福岡縣輕罪裁判所ニ於テ右被告高橋伊三郎外四名ハ石炭坑借區出願中許可ヲ得サル以前炭坑ヲ開坑シ石炭若干ヲ得或ハ借區外ノ石炭若干ヲ竊取シタル罪アリト判定シ其所爲新法實施前後ニ連亘スルヲ以テ刑法第三條第二項ニ照シ新舊法ヲ比照シ其輕キ刑法第三百七十二條同第三百七十六條同第百條ニ依リ各重禁錮五月ニ處シ監視七月ヲ附スル旨宣告セリ

高橋伊三郎外四名ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ本按被告事件ノ事實ハ石炭坑

借區許可以前ナルモ已ニ出願中ニ係レハ開坑スルモ妨ナシト信シ石炭若干ヲ採掘シタリ又借區許可後ニ於テ開坑シタル區域内ニ炭脈之レナキヲ以テ一旦借區許可ヲ得タル上ハ他區域ニ於テ採掘スルモ妨ナシト信シタルヨリ許可以外ノ區域ニ及ヒタル者ニシテ素ヨリ罪トナルヘキ行爲タルヲ知リ惡意ヲ以テ爲シタル所爲ニ非サレハ刑法第七十七條第二項ニ依リ不論罪ニ付スヘキ者ナルニ原裁判所於テ前記ノ刑ヲ言渡スノミナラス假令被告等ニ犯罪アリトスルモ已ニ自首ヲナシタル者ナレハ刑法第八十五條ニ依リ本罪ヲ輕減シ尙情狀已チ得サルニ出タル所爲ナレハ刑法第八十九條同第九十條ニ依リ酌量減等アルヘキヲ至當ナリトス然ルニ原裁判ノ玆ニ出サルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補石井英彦ハ原裁判ノ相當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事林三介ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ証憑ノ採擇事實ノ認定ハ承審官ノ主權ナリ今被告等於テ罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテナシタルノ所爲云々論告スレモ原裁判官於テ其特有スル職權ニ據リ事實ヲ認定シタル者ナレハ其認定ニ對シ他ヨリ喙ヲ容ル可カラサルノミナラス假令上告論旨ノ如クナリトスルモ箇ハ却テ刑法第七十七條末項法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヲ得ストアル制裁ニ適當スル者ニシテ原裁判ヲ不當ナリト云フヲ得ス又被告人等ハ自首云々ト論告スルモ之ヲ原裁判所ノ簿冊ニ徵スルニ其自首タル告發後ニ在リテ刑法第八十五條罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前云々トアル明文ニ適合セス又酌量減輕ヲ與フルト否トハ原裁判官ノ權内ニ在ルヲ以テ之ヲ與ヘサルモ敢テ不當ト爲スヲ得サル者トス

以上辯明ノ如ク本案上告ハ徒ラニ原裁判ノ不當ヲ訴ヘ事實ノ覆審ヲ要ムルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者ナリ

第一千三百十號

○判文(竊盜) 明治十六年十一月十三日上告
同 十七年五月九日發付

埼玉縣武藏國橫見郡北吉見

村平民農

吉澤辰五郎

明治十六年五月
二十七年

右辰五郎カ被告事件ニ付明治十六年十月十九日浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ於テ被告カ所爲ハ野本兵吉カ其用水堀へ蓄へ置タル畚ノ鰻ヲ竊取シタルモノト認定シ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ其範圍内ニ於テ重禁錮二月十五日ニ處シ監視六月ニ付スル旨ヲ言渡シタリ檢事補高橋良榮ハ之レヲ不當ナリトシ上告セリ其要旨ハ被告カ竊取シタル物品ハ村内ヲ通過スル一條ノ川中ニ生養シ置キタルモノナレハ刑法第三百七十三條ニ依リ處斷スヘキカ當然ナルニ原裁判玆ニ出サルハ全ク擬律錯誤ニ付該言渡ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ對手人吉澤辰五郎ハ上告趣意ノ送達ヲ受ケタル證アルモ期限内答辯書差出サス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處被告ノ所爲ハ川中ニ蓄養スル魚ヲ竊取シタルモノナレハ刑法第三百七十三條ニ依リ擬斷スヘキカ的當ナリトノ主意ナレモ原告文ヲ閱スルニ野本兵吉カ其居室裏用水堀ヘ魚番ニ蓄ヘ置キタル鰻二百目ヲ竊取云々ト記載シ其証據ヲ認メ裁判言渡シタルモノナリ然ラハ即チ刑法第三百七十三條ニ謂フカ如キ川澤池沼湖海ニ生養シ游泳ヲ爲シ得ルモノト差別アルヤ明ラカナリ依テ原裁判所カ刑法第三百六十六條ニ問擬シタルハ的當ニシテ本案上告ハ的法の原由ナキモノトス

右ノ理由ナルニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ハ棄却スルモノナリ

第千三百一十一號

○判文(強盜)明治十六年五月二十九日上告
同十七年五月九日發付

宮崎縣日向國那珂郡楠原村
士族

合屋郁太郎

明治十六年五月

二十八年

兵庫縣播磨國赤穂郡眞殿村

平民

柏原磯次

明治十六年五月

二十年

右兩名カ被告事件ニ付明治十六年五月八日兵庫重罪裁判所ニ於テ被告郁太郎磯次ハ外一名ト相謀リ刀或ハ棒ヲ携サヘ強盜ヲ行フタルモノトシ刑法第三百七十八條第三百七十九條第六十七條ニ照ラシ輕懲役ニ二等ヲ加ヘ郁太郎ハ十二年磯次ハ十五年ノ有期徒刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人郁太郎及ヒ磯次カ上告ヲ爲シタルノ要領ハ被告郁太郎ニ於テハ明治十六年一月十二日山下勝三郎方ニ強盜ニ入りタル共犯ナリト判定セラレタレトモ該日ハ中川久四郎方ニ止宿シテ其強盜共犯者ニアラサルハ明瞭ナルヲ以テ証人トナシテ同人ノ喚問ヲ請求シタルニ之ヲ採用セラレス偏ヘニ磯次外一名カ共犯者ナリト判定セラレタルハ不當ナリト云ヒ被告磯次ハ貧困ノ餘リ不良心ヲ生シ郁太郎外一名ト俱ニ荷物運搬ノ爲メ同行シタルコトアルモ同人等カ強盜ヲ爲スノ情ハ知ラサルナリ因テ竊盜ヲ爲サンコトヲ謀リ同行シタルモノナルヲ以テ竊盜犯ノ處斷アルヘキモノナリ且ツ酌量減輕ヲ請求シタルニ之レヲ採用セラレサルハ不當ナリト云フニアリ

原檢察官ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ玆ニ大審院ニ於イテ專任判事ノ報告ニヨリ上告代言人山中道正ハ上告趣意書ノ外別ニ辯明スルコトナシト陳辯シ立會檢事加納久宜ハ原裁判相當ニシテ不法ノ裁判ニアラサル旨意見ヲ陳辯セリ因テ之レヲ審按スルニ被告郁太郎ニ於テハ証人喚問ヲ請求シタルヲ採用セラレス處斷アリシハ不當ナリト云フニ申立レモ公判ニ於イテ新ナル証人ノ請求ヲ採用スルト否トハ特リ原裁判長ノ權限ニアルモノナレハ被告郁太郎カ該請求ヲ採用セラレサルヲ以テ破毀ノ原由トナスヘカラス其他ハ原

裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實判定上ニ不服ヲ唱フルニ止マリ被告人磯次カ上告モ專テ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實判定上ノ當否ヲ論難スルニ過キスシテ共ニ治罪法第四百十條ノ規定外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ治罪法第四百二十七條ニヨリ之レヲ棄却スルモノナリ
第一千三百十二號

○判文(詐欺取財並強盜)明治十六年四月二十日上告
同 十七年五月九日發付

山口縣周防國玖珂郡日積村

平民農

常 森 常 吉

明治十六年二月
二十七年八月

右常吉カ被告事件ニ付明治十六年二月廿四日山口重罪裁判所ニ於テ被告ハ岡本彌之助ノ馬一頭ヲ詐取シ及ヒ池本淺次郎ニ酒ヲ勸メ醉迷熟眠セシメ懷中スル金員ヲ盜取シタル者ト判定シ刑法第三百九十條第三百九十四條第三百八十三條ニ依リ同第百條ニ照シ一ノ重キ同第三百八十三條ニ從ヒ輕懲役八年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告常吉カ上告シタル要領ハ被告ニ於テ藥酒ヲ用ヒテ人ヲ醉迷セシメタルヲナキハ明晰ナルノミナラス手附金貳圓ヲ交付シ馬一頭ヲ正當ニ買入レ殘金ハ借用証書ヲ渡シ置キタルモノナルニ告訴人等カ不實ノ陳述ニ固着シ前記ノ如ク刑ヲ言渡サレシハ事實ノ齟齬且擬律ニ錯誤アル不當ノ裁判ナリト

云フニ在リ同裁判所檢事補玉置琢ハ原裁判允當ニシテ上告ノ理由ナキヲ答辯セリ
爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及代言人大岡育造ノ陳辯立會檢事武内維積ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ諸般ノ証憑ヲ取捨シテ事實ヲ判定スルハ承審判官ニ特任スル所ノ職權ニシテ其判定ニ對シテハ漫ニ之ヲ動シ得ヘキモノニ非ス本件上告ノ旨趣事實ノ判定証據取捨ノ當否ヲ徒ラニ論疏スルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス又原書類ニ徵スルモ論旨ノ如キ事實ノ齟齬且擬律ニ錯誤アルヲナク且代言人ニ於テ原判文ニ依ルニ被告カ人ノ金員ヲ盜取シタル所爲ハ馬ヲ詐取シタルノ事實ト毫モ異ナル處ナシ然ルニ突然迷醉ノ文字ヲ掲載セラレタルハ舊法律ノ文詞ヲ假用セラル、モ實際ノ事實ト爲スヘキモノニ非ス又果シテ之ヲ醉迷セシメタルモノトセハ其因テ來ル所ノ事實ノ理由ヲ付セサル可カラス此事實ナキ上ハ馬ヲ詐取シタルト同一轍ノ所爲ナルヲ明ラカナルヲ以テ共ニ詐欺取財罪タル可キニ之ヲ刑法第三百八十三條ニ問擬セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フト雖モ抑モ人ヲシテ熟醉セシメ之カ知覺精神ヲ奪ヒ其虛ニ乘シテ財物ヲ盜取スルカ如キ所爲ニ至テハ豈ニ尋常一般ノ竊盜犯ト同一視スルヲ得可ケンヤ之レ即チ刑法第三百八十三條ノ設ケアル所以ナリ殊ニ原判文ニ(尾本峰藏ト謀リ共ニ他人ノ爲メ金策ノ周旋ヲ爲ス體ニテ池本淺次郎ヲ峯藏宅ニ招キ酒ヲ勸メ醉迷熟眠セシメ懷中スル金六十圓ヲ盜取シタルモノト判定ス)トアルヲ視レハ其金ヲ奪ハントノ目的ヲ以テ爲シタル計畧ノ事實粲然トシテ毫モ間然スルノ點アルヲナシ故ニ法律ノ文字タル醉迷ノ二字ヲ援用シタルモ何ヲ以テ不當ト爲スヲ得ンヤ矧ンヤ前顯ノ如ク前後ノ事實歷然タルニ於テオヤ結局該論點モ等シク上告ノ原由トナスヲ得サル

モノト判定ス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ棄却スルモノ也
第一千三百十三號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年七月十一日上告
同 十七年五月九日發付

大坂府和泉國大鳥郡高石北
村平民肥物商當時同郡中筋
村寄留

山内 佐太郎

明治十六年一月
二十七年八月

同府同國土師新田六番地平
民綿商

松本 富三郎

明治十六年一月
三十五年七月

同府同國同郡高石村二十六
番地平民農

山内 勘次郎

明治十六年一月

六十九年生月不詳

同府同國同郡同村二番地平
民農

山内 奥武

明治十六年一月
四十三年生月不詳

右佐太郎外三名カ恐喝取財被告事件ニ付明治十六年一月二十六日堺輕罪裁判所ニ於テ被告
等ハ恐喝取財ノ罪ヲ犯シタル証憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡
シヲナシタル處民事原告人タル石川「アヤ」ハ竹中卯平ヲ代人トナシ明治十六年一月二十七
日上告申立ヲナシタルニ爾來終ニ其趣意書ヲ差出サス爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十
五條ノ式ヲ踐ミ之ヲ判決スル左ノ如シ
凡ソ上告ヲナスモノハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス
ヲ要スルハ治罪法第四百十七條ノ規定セル所トス然ルニ今ヤ本按ハ上告申立ヲナシタルモ
其趣意書ヲ差出サ、ルヲ以テ之ヲ見レハ是レ即チ自ラ其權ヲ拋棄シタルモノニシテ上告ノ
効ナキモノトス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也
第一千三百十四號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年四月十一日上告
同 十七年五月九日發付

栃木縣下野國河内郡宇都宮

小幡町士族薪炭商

大宮 正久

明治十六年一月

四十一年

詐欺取財被告事件ニ付明治十六年一月十五日宇都宮輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十條ニ依リ重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ尙刑法第三百九十四條ニ照シ六月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス被告本人ハ上告ヲナシタリ其要領ハ明治十四年五月中荒木英明ナル者ヘ其實弟小野爲則ヲ証人トシ金員ヲ貸與セシニ期限ニ至リ返金セサルニ付出訴ノ末身代限リ濟方ノ處分ヲ受ケタルニ家屋宅地等ハ他ニ書入アリタルヲ以テ自分ハ其分配ニ加ハルヲ得サリシニヨリ右貸金元利及ヒ訴訟入費共合金二十圓六十六錢八厘ナリ受人小野爲則ヘ係リ辨償ノ勸解ヲ仰キ右代人内山館次郎ト對談ニ及ヒシ處自分ハ覺ヘナキモ該元金ニ對シ入金受取証書差入アル趣キニ付旁同人ノ求メニ應シ十三圓ニテ濟方ヲ承諾シ右証文ノ裏ニ金十三圓受取タル旨ヲ認メタリ其節同人ハ濟口延期願書ヲ認メ捺印スヘシト申聞ケニ任セ何タル文言ナリシヤ確ト看認メス捺印シ而シテ金十三圓受取リ証文ハ何氣ナク館次郎ヘ相渡タリ右ノ如ク金員ト証書トハ交換セシモ彼ノ入金ノ受取証ハ差出サ、ルニヨリ其違約ヲ責タル所該受取証ハ本人爲則手元ニ之アル趣ニ付キ不取敢太田原驛ニ至リ小野爲則ニ面會シ前條ノ次第ヲ述ヘ入金受取証ヲ一見センコトヲ求メシニ只管示談ヲ乞フニ付遂ニ十三圓ノ外六圓五十錢差出スヲ示談相整ヒタル所爲則ニ於テ現金持合之ナキヲ以テ証書ニテ

受取タル次第ナリ自分ハ畢竟訴訟手續キニ不慣ナルヨリ館次郎ノ言ニ任セ書面ニ捺印シタルヲ以テ今ノ刑典ニ處セラレタレ全ク濟口書ヲ呈供シテ再ヒ六圓五十錢ヲ請求スルノ惡意アルニアラス又言渡書ニ金四圓云々トアレ之レ等ハ一切請求シタルモノニアラサレハ固ヨリ刑法ノ干渉スヘキ所ニアラスシテ民事ノ制裁ヲ受クヘキモノナルヲ以テ原裁判ヲ破毀セラレシテ求ムト云ヒ仍ホ追申書ヲ以テ前意ヲ擴張セリ

對手人檢事補吉野信三ハ原裁判ハ相當ニシテ本按上告ハ其理由ナキモノナルヲ以テ棄却アラシメテ求ムト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見上告代言人小久保長吉ノ陳述ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案被告事件ノ如キハ原裁判所ニ於テ諸般ノ証憑ニ徴シ以テ被告人ハ小野爲則代人内山館次郎ヨリ金十三圓ヲ受取解訟シタルニ更ニ本人爲則ヨリ金四圓ト六圓五十錢ノ借用証書ヲ騙取シタルモノト認定シ之ヲ法律ニ照シ相當ノ刑ニ處シタルモノナレハ絲毫ノ不法アルヲ見ス然ルニ上告ノ趣旨ハ一ニ事實ノ有無ヲ論辯シ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ナキモノナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第一千三百十五號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十一月十九日上告
同 十七年五月九日發付

山梨縣甲斐國東八代郡竹居

村平民農業

藤卷丑五郎

明治十六年十月
二十七年

証書偽造及詐欺取財被告事件ニ付明治十六年十月十一日甲府輕罪裁判所カ刑法第百條ニ照
 シ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ニ從ヒ刑法第三百九十四條同第三百九十四條ニ依リ一年ノ重禁錮ニ
 處シ十圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス右丑五郎ハ上告ヲ爲
 シタリ其要旨ハ金圓受取證書ハ益盛社長有井泉ニ於テ被告カ祖父在世ノ時ノ負債ヲ拂フカ
 爲メ被告カ共盛社ヨリ借受ケタル金貳百圓ノ方ヘ金子ヲ差入レ其節同社長渡邊漏貴ヨリ受
 取リ他ノ書狀ト共ニ被告ヘ交付セシ者ニシテ固ヨリ被告ハ該證書ヲ偽造セシナク隨テ之
 ナ以テ盡スヘキ義務ヲ免カレタルニアラサルヲ原裁判所ニ於テ本案ノ如キ言渡ヲ爲セシハ
 乃チ事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ尙辯明書ヲ以テ
 前趣意ヲ擴張セリ

對手人檢事補若林爲三藏ハ上告ノ主旨ハ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キスシテ治罪
 法第四百十條ノ各項ニ適當セル旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

上告ノ理由トスル所原言渡ハ事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ナリト云フニ在ルモ其論旨タルヤ
 徒ニ原裁判官カ判定セシ事實上ニ立入り其裁判非難スルニ止マリ乃チ治罪法第四百十條ノ

項目ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告
 ナ棄却スル者也

第千三百十六號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年三月十六日上告
十七年五月九日發付

岩手縣陸中國瞻澤郡西根村
平民雜業

菊池菊松

明治十五年十二月
三十四年四月

詐欺取財未遂犯被告事件ニ付明治十五年十二月十二日盛岡輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九
 十條同第三百九十七條ニ依リ同第三百九十二條ヲ適用シ尙ホ同第三百九十四條ニ照シ六月ノ重
 禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス被告菊池菊松ハ
 上告ヲ爲シタリ其要領ヲ約スルニ被告カ携帶スル所ノ金貳百九十五圓ノ証書ハ被告人儀本
 年一月中阿部喜左衛門及阿部喜四郎ヨリ四葉ノ証券ヲ以テ合計金四百拾八圓佐々木長之助
 へ貸金アルヲ喜左衛門ノ依頼ヲ受ケ催促ノ末右代人被告名宛ノ日延証ヲ受取タリ然ルニ其
 以前被告ニ於テ朝倉今朝藏ナルモノニ金三百圓貸金之アリタルヲ以テ其際督促シタル所長
 之助父佐々木宇之吉其場ニ居合セ同人借用金ハ自分ヨリ返濟スヘキニ付証券差入借受度旨
 談示ニ任セ當金五圓ト貳百九十五圓ノ証券ヲ受取置タルモノニシテ全ク催促ノ依頼ヲ受タ

ル内阿部喜四郎分ノ証券ヲ書換ヘ延期ヲ與ヘタル証ニ非サルナリ然レモ前陳ノ如ク適依頼
 ナ受テ催促ヲナシ日延証ヲ受取タル折柄ナレハ或ハ疑似ニ涉ルナキ能ハスト雖モ字之吉今
 朝藏等ニ於テ互ニ貸借之アルヨリ繰替爲替ヲ爲シタルモノニシテ喜四郎長之助等ノ取引ト
 ハ判然殊別ノモノナリトス右ノ次第ナルニヨリ被告ハ二重ニ金員ヲ騙取セント字之吉父子
 ナ欺罔シタルモノニ非ス却テ右父子カ自己ノ借金ヲ返済セサル惡意ヨリ通謀シテ詐言ヲ構
 造シ其義務ヲ免カレントセシモノナリ否ヲサレハ戸長等ノ仲裁ニ立入り示談ヲ周旋スル謂
 レナシ加之被告ニ於テハ既ニ今朝藏ヨリ確平タル爲換証ヲ領受シ所持スレハ其事實明瞭ニ
 シテ罪トナルノ理由之ナシ然ルニ原裁判官ハ自分ヨリ陳述シタル事實ハ採用セス無根ノ誣
 言ヲ以テ有罪ナリトノ判定ハ不當ノ裁判ナルノミナラス仮リニ被告ヲ詐欺取財ノ罪アリト
 スルモ未遂犯ナレハ輕減アルヘキ法律アルニ重禁錮六月ニ處シ罰金十圓監視一年ヲ附加シ
 タルハ不法ト云ハサルヲ得サルナリ且佐々木字之吉ハ長之助ノ父ナレハ本件ニ付証人タル
 ノ權ハ法律上許サ、ルモノナリト云ヒ尙ホ辯明書ヲ以テ檢察官ノ答辯書ヲ駁撃シ重テ辯
 明書ト題シ照會及回答書ノ寫ヲ添ヘ差出シタルモ共ニ前意ヲ擴張敷衍スルニ止マレリ
 對手人檢事補高田貫之輔ハ該上告趣旨ノ不當ヲ逐一辯駁シ原裁判ハ至當ナリト答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告ノ理由トスル被告ノ携帶スル証書ハ朝倉今朝藏ヘ貸與セシ金員ニ對シ長之助父佐々木
 字之吉ヨリ領受セシ爲換証ニシテ阿部喜四郎ノ証券ヲ書換タルモノニ非ス假リニ被告ナ有
 罪者トスルモ未遂犯ナレハ原裁判ハ不當ナリト云フニ在テ要スルニ承審官ニ任從スル特權

内ニ侵入シ其認定シタル事實ノ有無採擇シタル証憑ノ當否如何ヲ非難スルニ止マルヲ以テ
 上告ノ理由ト爲スヲ得ス其法律上許サ、ル者ヲ以テ証人トシタリトノ論旨ノ如キモ公判ノ
 際証人ニ付異議アレハ之カ申立ヲ爲ス可キニ事玆ニ出サルハ其甘諾シタルモノナルコト明
 瞭ナレハ今ニ至リ之カ不服ヲ訴ヘテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス究竟治罪法第四百十條ノ項目
 外ニ涉ル上告ナレハ其趣旨ハ總テ相立タルモノナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ遵
 ヒ本按上告ハ之ヲ棄却スルモノ也
 第千三百十七號

○判文(詐欺取財) 明治十六年十一月廿二日上告
 同 十七年五月九日發付

兵庫縣播磨國揖西郡善定村
 平民農

笠端九十郎
 明治十六年十月
 四十年十月

右笠端九十郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十月二十二日神戸輕罪裁判所於テ被告ハ人ヲ教
 唆シ恐喝シテ財ヲ取ラシメタルモノト判定シ刑法第三百九十條第百五條第百四條第百九
 十四條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ監視十月ニ附スト言渡シタル裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ
 其要旨ハ近藤利兵衛等ヲ教唆シ咲本喜平治等ヲ恐喝シ財ヲ取ラシメタル覺ヘ之レナク同人
 カ大森「ウタ」ヘ渡スヘキ金員之レアルヲ香川重兵衛ナル者督促スルニ際シ村惣代ノ依頼ヲ

受ケ金員受授ノ仲裁ヲ爲シ前書「ウタ」喜平治等ヨリ謝禮金又飲食代價ヲ貰ヒ受ケタリ然ル
ヲ恐喝シテ財ヲ取ラシメタルモノト断定セシハ事實ニ違フ不當ノ裁判ナルヲ以テ承服スル
能ハス至當ノ處分ヲ仰クト云フニアリ原裁判所檢事補宮地直親ハ該裁判ハ正當ニテ上告ノ
原由ナキモノト答辯セリ

大審院於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
前顯被告人上告ノ旨趣ハ原裁判官ノ特權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難シテ不服ヲ訴フルニ過
キカレハ治罪法第四百十條各項以外ニ涉リ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス然レモ原裁判所於
テ被告ノ所爲ニ對シ刑法第三百九十四條第三百九十四條第三百九十四條ヲ適用セシニ關ハ
ラス單ニ重禁錮三月ニ處シ監視十月ニ附スト言渡シ罰金ヲ附加セサリシハ擬律ノ錯誤ニ係
ル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直チニ本院
ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

笠端 九十郎

原裁判所ニ於テ認定シタル事實ニ據テ之レヲ法律ニ照シ刑法第三百九十四條第三百九十四條第百四
條第三百九十四條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金範圍内ニ於
テ重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ監視十月ニ附ス
第一千三百十八號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年四月三十日上告
十七年五月九日發付

新潟縣越後國中頸城郡高田

下田端町平民肴商

室 彦右衛門

明治十六年三月

三十七年

右彦右衛門カ被告事件ニ付新潟縣輕罪裁判所高田支廳豫審判官カ犯罪ノ証憑充分ナラス免訴
ストノ終結言渡ニ對シ原檢察官堀小太郎ハ故障ヲ爲シタリ明治十六年三月二十九日同會議
ルハ豫審終結ノ言渡ハ至當ナリトシタル判決ニ服セス尙ホ上告セリ其趣旨ハ第一被告室彦
右衛門ハ失踪不在ノ者ナレハ之レヲ公判ニ付シ欠席裁判ヲ與ヘ禁錮以上ノ刑ニ該ル時ハ逮
捕狀ヲ發スヘキ者ナリ故ニ被告ノ人相着衣所持品等ヲ詳細ニ取調ヘ逮捕狀ノ記載ニ備フヘ
キ者ナルヲ以テ是等ノ取調ヲ請求スト雖モ豫審掛ニ於テ請求ニ應セサリシハ審理不盡ナリ
ト第二被告カ所爲ハ本罪詐欺取財ナルヲ以テ舊法賊盜律詐欺取財條及ヒ改正七贓例圖刑法
第三百九十三條第二項第三百九十四條第三百九十四條トナ比照シ其輕キ刑法ニ依テ所斷スヘ
キモノニテ不應爲ニ問擬スヘキモノナラス然ルモ會議局ニ於テ被告ノ所爲ハ詐欺取財ノ罪
ヲ以テ論スヘキモノニ非スト判決シ故障申立ヲ斥ケタルハ不當ナリト云ニアリ
對手人被告室彦右衛門ハ答辯セス

大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ハ答辯ニ併セ附帶上告ヲ爲シタリ其要
旨ハ本件ノ如キハ舊法ニ依リ詐欺取財又ハ不應爲ニ擬スルモ舊惡減免ノ期限ハ明治十四年
十二月三十一日ヲ以テ中斷サレタルモノナレハ免訴シタルハ不當ナルニモ拘ハラズ右終結

夫至當トシ尙判文ノ被告ノ所爲ハ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノニ非ストノミアツテ果シテ
 何等ノ理由アリ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノナラサルカ一モ之レカ理由ヲ明示セサルハ所
 謂事實ニ付言渡ノ理由ヲ付セサルモノニ付破毀アテノヲ求ムト云ニアリ依テ審按スルニ
 原檢察官カ上告ノ理由ハ被告カ犯罪ヲ舊法不應爲ニ擬スヘキモノナラス又被告ノ人相特徵
 ヲ取調サルハ不當ナリト云ニアレトモ畢竟豫審判官ハ被告カ犯罪ノ証憑充分ナラス免訴ス
 ヘキモノト認メタルニ付檢察官カ人相特徵取調ノ請求ニ應セサルモノナルヘク果シテ然ラ
 ハ其認定ハ裁判官ノ職權内ニアレハ此点ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スヲ得サルモ到底本院檢察
 官諭告ノ如ク會議局於テ被告カ所爲ヲ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノニ非スト認メタル理由
 ヲ明示セサルハ治罪法第三百四條ニ悖戾スルノミナラス舊法舊惡減免ノ期限ハ既ニ中斷サ
 レタルニモ拘ハララス免訴シタル豫審終結ノ言渡ヲモ至當ト爲シタルハ治罪法第四百十條第
 九項第十項ニ適合スル上告ノ理由アル不法ノ裁判ナリトス
 右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ長野輕罪裁判所會議局ニ
 移スモノナリ

第一千三百十九號

○判文(偽造証書)明治十六年十一月十三日上告
十七年五月九日發付

長野縣信濃國上水内郡鶴賀
 村平民

松澤 松太郎

明治十六年十月

三十四年七月

同縣同國同郡長野町平民

三澤 龜太郎

明治十六年十月

二十四年五月

右兩名カ被告事件ニ付長野輕罪裁判所ニオイテ被告等ノ所爲ハ若林治左衛門ヨリ手紙ヲ以
 テ返金督促ヲ受ケタル際其文面ト宛名トノ間ニ餘白アリシヲ俸トシテ文面而已ヲ切斷シ二
 通ノ受取書ヲ偽造シ負債返還ノ義務ヲ免レンカ爲メ之レヲ使用シタルモノト認定シ刑法第
 百四條ニ依リ皆正犯ト爲シ且二罪俱發ナルヲ以テ同法第百條ニ照シ其一ニ從ヒ同法第二百
 十條第二百十二條ノ範圍内ニオイテ重禁錮六月罰金十圓監視八月ニ處シ其犯罪ノ用ニ供シ
 タル証書ハ官ニ沒收スル旨言渡シタリ被告等ハ之ヲ不當ナリトシ上告セル其要旨ハ原判文
 ノ冒頭ニ証人尋問ノヲ掲ケスシテ判文中突然古畑岩吉堀内寅之丞ノ証言ヲ採用セラレシ
 ハ越權ナリ又岩吉ノ受取証及ヒ手紙ノ在ルアレハ被告ハ罪トナル可キ廉ナキヲ明鏡ノ如ク
 ナルニモ拘ラス有罪ノ認定ヲ下サレタルハ擬律錯誤ナリ良シ被告事件ノ存スルモノトスル
 モ偽造証書ノ單獨犯ニ對シ刑法第百條ヲ援引セラレタルハ亦不法ナリ依テ治罪法第四百十
 條ノ第九第十項ニ從ヒ上告スト云フニ在リ對手人檢事補太田篤祐ハ逐一上告趣意ノ不當ナ
 ルヲ駁撃シ且原裁判所カ二罪俱發例ヲ用ヒシハ被告等兩度ニ二通ノ証書ヲ偽造シタルニ依

ルモノニテ決シテ擬律錯誤ト云フ可キモノニ非スト答辯シタリ
 大審院オイテ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 凡ソ事實ノ認定ハ治罪法第百四十六條第二項ノ規定ヲ以テ裁判官ノ職權ニ任從スル所ナレ
 ハ他ヨリ輒少之レヲ批難スルヲ得サルモノトス今ヤ被告ハ原裁判官カ古畑岩吉外一名ノ証
 言ヲ採用シタルヲ上告ノ一點トシタルモ是レ畢竟裁判官ノ職權ニ立入探證上ニ不當ヲ鳴ラ
 スニ過キス又偽造證書ノ單獨犯ニ對シ刑法第百條ヲ援引シタルハ不法ナリト云フト雖モ兩
 度ニ二通ノ受取書ヲ偽造行使シタルハ原判文ニ「餘白ノアリシヲ倅イトシ云々」一通ノ受取
 書ヲ偽造シ「トアルヲ以テ原判文ニ二罪俱發ト明示シタルハ相當ニシテ越權又ハ擬律錯誤
 ノ裁判ニアラストス到底本案上告ハ治罪法第四百十條ノ項目ニ適當セル原由ナキモノニ付
 同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ
 第一千三百廿號

○判文(証券變造)明治十六年十一月十九日上告
 十七年五月九日發付

山梨縣甲斐國西山梨郡若松
 町平民酒類受賣業

山本常吉

明治十六年十月

二十六年

右常吉カ被告事件ニ對シ明治十六年十月二十日甲府輕罪裁判所於テ被告ハ名取育彌ヨリ借

用シタル金二百十圓八十五錢ノ内金トシテ明治十六年六月一日金四十圓ヲ渡シ曾テ差入置
 タル證書ニ其金員相渡ス云々且殘金ハ六月十日ニ返金スヘキ旨ヲ記入シ而シテ尙ホ判取帳
 へ育彌ヲシテ登記セシメ置タル後期限ニ至ルモ皆濟セサルニ依リ出訴セラレ詞訟中其判取
 帳ニ記載シアル六月一日附ノ一ノ字ニ一畫ヲ加ヘ二ノ字ニ變換シ其四拾圓トモ都合八十圓
 ナ渡シタル旨答辯シ金圓ヲ騙取セント試ミタルモノト認定シ刑法第二百十條第二百十二條
 第三百九十條第三百九十四條第三百九十七條第七十條第七十四條ニ照シ重禁錮
 七月ニ處シ罰金十圓及ヒ監視十月ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタ
 リ其要旨ハ名取育彌ヨリ借用シタル清酒代金ヲ六月一日内金四十圓同月二日又四十圓合計
 八十圓ヲ返濟シ而シテ六月一日ニハ差入レ置キタル證券ニ記入シ同月二日ニハ被告カ判取
 帳ニ登記セシメ置キタルモノニシテ六月一日トアル一ノ字ニ變換シ以テ一度相渡シタ
 ル金圓ヲ兩度相渡シタル体ニ詐爲シタルモノニアラス然ルチ甲府輕罪裁判所ノ裁判爰ニ出
 テス該判取帳ノ日付ヲ變造シ金圓ヲ二重ニ詐取セント試ミタルモノトシ刑ヲ言渡シタルハ
 不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人檢事補澁谷孝世ハ本案裁判ハ允當ニシテ毫モ違法アルヲ認メサル旨答辯シタリ
 本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 上告ノ主旨トスル所ハ清酒代金ヲ六月一日二日ノ兩度ニ八拾圓返濟シタルモノニシテ判
 取帳ノ六月一日トアル一ノ字ヲ二ノ字ニ變換シ以テ一度相渡シタル金圓ヲ兩度相渡シタル
 体ニ詐爲シタルニ非ラスト云フニ過キサレハ徒ラニ原裁判所カ認定シタル事實ニ立入り不

服ヲ唱へ其裁判ノ破毀ヲ要ムルニ外ナラサルヲ以テ治罪法第四百十條ノ各項目ニ適當スル

上告ノ原由ナキモノトス依之同法第四百二十七條ニ照シ本件上告ヲ棄却スル者也
第一千三百廿一號

○判文(私印偽造) 明治十六年十一月十四日上告
同 十七年五月九日發付

德島縣阿波國名東郡下助任
村平民籠屋職
八 田 虎 藏

明治十六年十月
二十六歲

他人ノ印影ヲ盜用証書ヲ偽造行使シテ金員ヲ得タル被告事件ニ付明治十六年十月十八日德島輕罪裁判所カ証憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪放免スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補川久保亮太ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ被害者坪内辰藏ノ印影ヲ盜用シ証書ヲ偽造行使シテ金員ヲ得タルハ被告カ供述ト右辰藏及ヒ櫻井「ヤク」等ノ申立ト互ニ符合セス其他被告カ辰藏ニ渡シタル約定書ノ文詞等ニ依リ事實明白ナルニ原裁判官カ第九乃至第十二ノ事項ヲ列舉シ証憑充分ナラスト斷定セシハ臆測ノ裁判ニ過キスシテ就中第十項ノ如キハ一ヲ知テ二ヲ知ラサル者ナリ何トナレハ被告カ正當ニ金百圓ヲ貸與シタル者ナレハ僅カ貳十圓ヲ甘受シテ止ムヘキノ理ナク又被告ハ富有ノ身代アル者ニモアラサレハナリ因テ原言渡ハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之レカ破

毀ヲ求ムト云フコアリ

對手人被告八田虎藏ハ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之判決スル左ノ如シ
治罪法第三百五十八條ニ犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ
同第三百五條ニ無罪ノ言渡ヲ爲スニハ其理由トシテ被告人ニ對シ犯罪ノ証憑ナキヲ明示ス可シトアリ今本案被告事件ニ付原裁判所カ第一ヨリ第十二ニ至ル事項ヲ列舉シ証憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタル者ナレハ乃チ適法ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ指シテ擬律錯誤アリト爲スヲ得ス要スルニ上告ノ主旨タルヤ徒ニ原裁判ヲ非難シテ事實ノ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ規定セル第一ヨリ第十一ニ至ル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ原由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也
第一千三百廿二號

○判文(証書偽造) 明治十六年十一月十三日上告
同 十七年五月九日發付

宮崎縣兒湯郡美々津町二百
五十三番戸平民
廣 田 寅 之 助

明治十六年十月
三十九年四月
二九五

右寅之助カ証書偽造及詐欺取財并私印盗用被告事件ニ對シ明治十六年十月十九日宮崎輕罪裁判所ニ於テ權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シタルハ刑法第一百十條ニ該リ又印影ヲ盗用シタルハ同第二百八條第二項ニ該リ又詐欺取財ノ所爲ハ同第三百九十條ニ該ルモ未タ遂ケサルヲ以テ同第三百九十七條同第一百十二條同第一百十三條ニ照ラシ數罪俱發スルヲ以テ同第一百條末項ニ據リ一ノ重キ同第二百十條ヲ適用シ尙ホ同第二百十二條ニ依リ重禁錮四月罰金五圓監視六月ニ處ストノ裁判言渡シヲ爲シタリ

右ノ裁判ニ對シ被告人ハ上告爲シタリ其要領ハ被告ニ於テ証書ノ偽造ナルカ否ノ鑑定ヲ乞ヒタルモ法官ハ之ヲ許サス却テ薄弱ノ証言ヲ信シ以テ其罪ヲ斷定シタルハ不法ノ裁判ナルニ付之カ覆審ヲ要求スト云フニ外ナラス

同裁判所檢事補松田方規ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本按上告ノ旨趣ハ原裁判官ニ對シ証書ノ偽造ナルヤ否ノ鑑定ヲ乞ヒタルモ之ヲ許可セス却テ薄弱ノ証書ヲ信シ其罪ヲ斷シタルハ不法ナリト云フニアレモ是レ則チ原裁判官ニ特任スル處ノ事實ノ判定及証憑ノ取捨ニ對シ其當否ヲ論スルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項以外ニ涉リ上告ノ原由ト爲スヲ得ス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

第一千三百廿三號

○判文〔官吏侮辱及毆傷〕明治十七年四月八日上告
年五月九日發付

宮城縣陸前國仙臺區光禪寺
通六丁目四十五番地平民

內 藤 養 治

明治十七年三月
二十六年九ヶ月

明治十七年三月十七日仙臺輕罪裁判所ニ於テ右內藤養治ガ毆打創傷及ヒ官吏侮辱被告事件ニ對シ刑法第三百一條第二項及ヒ同第四百十一條ノ二罪俱發スルヲ以テ同第一百條第二項ニ照シ一ノ重キ同第二百一十一條第二項ニ依リ重禁錮八月ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告養治ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ原裁判所ハ一トシテ効力ナキ証憑ヲ以テ被告ヲ有罪ト判定シタルハ不法ナリ又証人ノ呼出ヲ請求シタルニ之ヲ擯斥シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ對手人原裁判所檢事補阿部克己ハ上告ハ不當ニシテ原裁判適當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告者ハ原裁判官カ効力ナキ証憑ヲ採テ被告ヲ刑ニ處シタルハ不當ナリト論告スルモ上告正當ノ理由ト爲スヲ得ス何トナレハ諸般ノ証憑ヲ取捨シテ事實ノ如何ヲ判定スルハ承審官ノ特權ニシテ他ヨリ輒シ非難スヘキ所ニアラサレハナリ又証人呼出ノ請求ヲ許サ、ルハ越權ナリト云フト雖モ是亦承審官ノ權内ナレハ其職權ヲ以テ必要ナラスト認メ之ヲ許サ、ルモ素ヨリ越權ナリト云フヲ得ス之ヲ要スルニ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ適當セルヲ以テ同法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ該上告ヲ棄却スル者也

第一千三百廿四號

○判文(毆傷) 明治十六年十一月十四日上告
十七年五月九日發付

二九八

和歌山縣和歌山區杉馬場三

丁目平民賣藥營業

岩崎半四郎

明治十六年十月

四十四年

右半四郎カ毆打創傷被告事件ニ付明治十六年十月九日和歌山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ他ノ
委囑ヲ受ケ貸金ヲ催促スル際北村喜兵衛ヲ毆打創傷セシモノト認定シ刑法第百一條第三項
ニ依リ重禁錮二十一日ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告半四郎ハ上告ヲナシタリ其要
領ハ被告カ行爲ハ北村喜兵衛等ヨリ暴行ヲ加ヘラレ之カ防禦ヲナスノ際偶マ喜兵衛ノ額ニ
手ヲ觸レタルノミナレハ決シテ法律上罪トナラサルモノナルニ原裁判所ニ於テ正當防衛ノ
反証トナラサル証人ノ陳述及ヒ被告ノ敵手ニシテ證據トナスヘカラサル証人等ノ陳述ヲ採
リ又ハ被告カ豫審廷ト公判廷トノ供述吻合シアリテ毫モ差異ナキニ之ヲ前後矛盾ノ供述ナ
リトシ輒シ有罪ノ判定ヲ與ヘラレシハ全ク越權且事實理由ノ齟齬シ及ヒ擬律ニ錯誤アル裁
判ナリ又私訴ニ就テハ前述ノ如ク被告ノ行爲罪トナラサルモノナレハ治罪法第二百七條第
二項明治十五年七月司法省丙第二十六號達ニ依リ之レカ賠償ノ義務ナキニ之ヲ賠償スヘシ
ト言渡サレタルハ治罪法第四百十條第九項ニ定メタル事實理由ノ齟齬アルモノナリト云フ

ニ外ナラス原裁判所檢察官ハ被告ノ上告ハ其理由ナキヲ以テ棄却アリタキ旨答辯セリ爰ニ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ
本按上告ノ趣旨タル其名トスル所ハ原裁判ハ越權及ヒ事實理由ノ齟齬又ハ擬律ニ錯誤アリ
ト云フニアレモ其實論告スル所ハ悉ク原裁判官ノ職權内ナル探証及ヒ事實判定ノ當否ヲ批
難スルニ止リ一モ其名トスル所ノ事項ニ適スルノ理由ナキハ勿論原判文ヲ鑿查スルモ亦更
ニ其瑕瑾ナキヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス又私訴賠償ノ義務ナシト云フト雖モ既ニ原裁
判至當ニシテ瑕瑾ナキ上ハ其裁判費用ハ被告ノ負擔ニ歸スル言ヲ俟サル所ナルヲ以テ此論
旨モ亦相立サルモノトス

第一千三百廿五號

○判文(毆傷及山林盜伐) 明治十七年四月四日上告
同 年五月九日發付

長崎縣肥前國南高來郡西有

家村平民農

本村喜吉

明治十七年三月

四十四年

右喜吉カ毆傷及ヒ山林盜伐被告事件ニ付明治十七年三月四日島原治安裁判所ニ開キタル長
崎輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年八月廿六日西有家村ニ於テ伊藤初太郎ト爭論ノ末同

二九九

八チ毆打シ二十日ニ滿タサル時間疾病ニ罹ラシメ又明治十六年九月十三日東有家村林田榮太郎所有ノ山林ニ立入り櫛木拾貳本ヲ盜伐シタルモノト判定シ刑法第三百一條第二項同第三百七十三條同第三百七十二條同第三百七十六條ニ依リ仍ホ同第百條第三項ニ照シ其所犯情狀ノ重キ毆打創傷ノ罪ニ從ヒ六月ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判確定ノ後本院檢事長渡邊驥ハ非常上告ヲナシタリ其要領ハ原裁判所カ本案被告事件ニ對シ刑法第百條第三項ニ照シ其犯情ノ重キ同第三百一條第二項ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シタルハ當然ナルモ盜罪ノ附加刑タル同第三百七十六條ヲ適用シ一年ノ監視ニ付シタルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ踐ミ之ヲ判決スル左ノ如シ

抑本按ハ毆打創傷及ヒ山林盜伐ノ二罪併發ニ係リ而シテ原裁判官ハ刑法第百條第三項ニ照シ毆打創傷ノ罪ヲ以テ其犯情重シトナシタルモノナレハ即チ同條第三百一條第二項ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處スルノミニテ相當ナルニ原裁判此ニ出テス同第三百七十六條ヲ適用シ一年ノ監視ニ付シタルハ非常上告論旨ノ如ク全ク法律ニ定メタル相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不當ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百三十五條末項ニ從ヒ仍ホ同第四百三十一條ニ則リ原裁判言渡中一年ノ監視ニ付ストアル部分ヲ破毀シ之ヲ取消スモノ也

第千三百廿六號

○判文(毀棄器物)明治十六年十一月八日上告
同十七年五月九日發付

滋賀縣近江國滋賀郡大津了

徳町平民

山田音吉

明治十六年十月
五十八年十月

右音吉カ毀棄器物被告事件ニ付明治十六年十月十六日大津輕罪裁判所ニ於テ刑法第四百二十一條ニ依リ重禁錮三月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ之ニ服セス上告セリ其要領三個ノ點ニアリ第一ハ平素不品行ナル小笹伊三郎ト養女菊カ私通セシヲ以テ之ヲ制スルモ尙止マサル而已ナラス却テ伊三郎カ奸策ニ陥リ逃走セリ故ニ憤怒ニ堪ヘス曾テ菊ヘ惠與セシ箆笥及ヒ衣類ヲ毀シ憤怒稍收マルニ從ヒ尙之ヲ視レハ菊カ衣類ニアラスシテ伊三郎カ衣類ナルヲ知リ而シテ其當時右伊三郎ハ村上仙三ヲ媒介トシ菊ヲ貰受ケ度示談ニ依リ到底菊カ行爲抑制ス可カラサル情ヲ察シ其乞ニ應シ伊三郎ヘ嫁セシメ其際伊三郎ニ對シ養女衣類毀棄ノ罪ヲ謝シ且平素貸與ノ金圓ト外ニ衣類代金若干ヲ惠與シ和解セリ第二ハ被告カ所爲ハ前顯事實ノ如ク無意犯ナレハ刑法第七十八條ヲ適用セサル可カラスト信ス然レモ事實ノ認定ハ判官ノ特權ニアリテ之ヲ有意犯トスルモ該裁判ハ事實ノ理由ヲ明示セサル越權ノ處分ナリト第三ハ仮令有意犯トスルモ第一ニ陳說セシ如ク毀棄ノ賠償トシテ金圓ヲ與ヘ私和セシハ取換ヒ証書^{〔任意書中ニ〕}ヲ以テ知ル可シ左スレハ刑法第八十七條ヲ適用セサル可カラスト痛論セリ

對手人檢事補森田勉ハ上告ノ不法ナルヲ駁撃シテ其原由ナシト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聞以テ之ヲ審按スルニ
 上告ノ理由トスル第一點ハ無意犯タルノ事實ヲ縷陳スト雖モ其証憑ヲ舉示セサル已上ハ徒
 ニ不服ヲ唱ルニ過キサルモノトス第二點ハ事實ノ理由ヲ明示セスト云ト雖モ原判文ヲ視ル
 ニ^前「**前**」憤怒ノ餘リ小笹伊三郎ノ衣類ヲ毀棄セシ事實ハ其方ノ自白被害者小笹伊三郎カ告訴
 毀棄セシ衣類司法警察官ノ訊問調書等ニ據リ其証憑十分ナリトアリテ被告カ憤怒ノ起因ス
 ル顛末ハ其自白告訴訊問調書ニ事實ノ理由明瞭ナルヲ以テ殊更ニ細示セサルモ敢テ妨ナシ
 夫如是有意犯タルヲ認定セシニ於テハ刑法第七十八條ヲ適用スルノ限リニアラス前顯二點
 ノ論旨ハ歸着スル所承審官ノ特權ニ侵入シ探證ノ當否及ヒ事實ノ有無ヲ批難スルニ過キサ
 レハ治罪法第四百十條ニ規定セル上告ヲ爲スヲ得ヘキ各項外ニ涉ルモノトス第三點ハ告訴
 前被告カ金圓ヲ與ヘ毀棄ノ罪ヲ謝シ私和セシト云ト雖モ原裁判所ハ現ニ被害者タル伊三郎
 カ告訴狀其他ノ調書ニ徴シ証憑充分ナリト判定シタルモノナルカ故此點モ亦事實上ノ論難
 ニ過キサル上告ニシテ違法ノ原由ナキモノナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
 第一千三百廿七號

判文〔賭博〕明治十六年四月上告
 同十七年五月九日發付

滋賀縣近江國神崎郡下稻葉
 村平民
 辻常右衛門

明治十六年三月
 三十五年三月

同縣同國犬上郡彥根袋町平
 民常時同國神崎郡石馬寺村
 村上重太郎同居
 澤 フ シ

明治十六年三月
 四十三年七月

右兩名カ被告事件ニ付明治十六年三月九日大津輕罪裁判所彥根支廳ニ於テ被告常右衛門ハ
 高橋秀松外數名ト錢賭ノ博奕ヲ爲シ被告「フシ」ハ其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ト判定シ
 刑法第二百六十一條ニ照シ常右衛門ハ重禁錮三月罰金拾圓「フシ」ハ重禁錮二月罰金八圓ノ
 刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告兩名ハ各上告ヲ爲シタリ其旨趣常右衛門ハ金策依頼ノ爲メ
 村上重太郎宅二階へ上タル處突然巡查數名派出サレ自分並ニ外數名捕縛セラレ愛知川警察
 署へ拘引ノ上現ニ博奕ヲ爲シタリト暴行毆打シ以テ訊問ヲ受クルモ賭博ヲ爲セシコナキ旨
 事實ヲ申述シタルニ原裁判所ハ之ヲ賭博犯ナリト認定セラレシハ擬律錯誤ナリト云フニア
 リ又「フシ」ニ於テハ自分儀村上重太郎ト同居爲スト雖モ常ニ多病ニシテ寐臥シ居ルモノナ
 レハ林末吉等該家二階へ來リ賭博ヲ爲シタルヤ否ヤハ毫モ覺知セズ其情ヲ知ラサル証據ハ
 末吉等ノ陳述ニ依リ明白ナルニ原裁判所ハ賭博ヲ爲スノ情ヲ知リテ房屋ヲ給與シタルモノ

ト認メテレタルハ不服ナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ旨趣ハ專ラ原裁判官ノ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定証憑ノ採擇ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ規定ニ適合セサル上告ナルニ依リ其原由ト爲スヲ得ス今原書類ヲ檢審スルニ警察署ニ於テ毆打等爲シタルノ見ル可ク証ナキノミナラス原裁判ニ擬律錯誤アルヲナキヲ以テ惣テ上告ハ相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本按上告ハ棄却スルモノ也

第一千三百廿八號

判文〔誣告〕明治十六年五月九日上告
同 十七年五月九日發付

石川縣金澤區下川除町平民
新保利吉母

新保 テ ッ

明治十六年四月
四十二年一月

明治十六年四月十八日金澤輕罪裁判所ニ於テ右新保「テッ」ハ十六歳ニ滿タサル幼女ニ淫行ヲ勸誘シ通姦セシメタル罪アリト判定シ刑法第三百五十二條ニ依リ重禁錮五月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加スル旨宣告セリ

新保「テッ」於テ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ自宅ニ於テ賣淫ノ媒合ヲナシタルハ「ハッ」ノ養父母藤本文右衛門夫婦ノ依頼ニ依リタル者ニシテ被告於テ「ハッ」ニ淫行ヲ勸

誘シタルニ非ス且「ハッ」ノ年齢ニ於ケルモ被告ハ其若干ナルヲ知り得サルモノナレハ只賣淫ノ窩主ニ止リ前記ノ刑ニ處セラルヘキ者ニ非スト云フニアリ

檢察官原裁判所檢事補川北良哉ハ原裁判相當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

証憑ヲ採據シ事實ヲ認定スルハ原裁判所承審官ノ主權ナリトス今被告人於テ淫行ヲ勸誘セズ幼女ノ年齢ヲ知得セス云々論告スト雖モ都テ原裁判官ノ証憑ニ據リ認定シタル事實ノ不當ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ニ規定スル上告ノ原由トナスヲ得サル者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本按上告ハ之ヲ棄却スル者ナリ

第一千三百廿九號

○判文〔破獄逃走〕明治十六年十一月十九日上告
同 十七年五月九日發付

熊本縣肥後國天草郡御領村

平民農業當時重禁錮囚

天 藤 三 平

明治十六年十月

二十五年生月不詳

右三平カ被告事件ニ付明治十六年十月二十三日佐賀輕罪裁判所ニ於テ被告カ破獄ノ用ニ供セシカ爲メ未決囚西久吉ニ與フルノ目的ヲ以テ使役場備付ノ藁切鎌ヲ匿シ置タルハ決心豫備ニ止マリ刑法ノ問フ所ニアラサルヲ以テ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官檢事補三瀬

綾一郎カ上告ヲ爲シタル事件ニ付治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十四條ニ上告ノ期限ハ三日ナリトス同第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シトアリ今原檢察官ニ於テ天藤三平カ被告事件ニ付原裁判所ヲ不當ナリトシ上告スト雖其其上告申立ヲ爲シタルハ明治十六年十月二十七日ニシテ原裁判言渡即チ明治十六年十月二十三日ノ翌日ヨリ起算スレハ第四日目ニ方リ乃チ上告三日ノ期限ヲ經過セルヲ以テ訴訟權ヲ失ヒタル者トス因テ本件上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ棄却スル者也

第一千三百二十號

○判文(徵兵忌避)明治十六年十一月八日上告
同 十七年五月九日發付

東京府淺草區向柳原町一丁目廿七番地士族眞正弟摺物職

小 櫛 是 善

明治十六年十月二十四年二月

右是善カ徵兵免役ヲ圖リタル被告事件ニ付明治十六年十月廿二日東京輕罪裁判所ニ於テ被告善ハ徵兵適齡ノ身ニシテ明治十二年九月三日家出靜岡地方ヲ徘徊シ明治十六年十月十五日

ニ至リ初メテ歸宅シ即チ明治十三年徵兵檢査ノ期迄ニ復歸セカリシハ詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタルモノト判定シ刑法第三條第二項ニ基キ新舊法ヲ比照シ仍ホ明治十四年第八十一號布告第二條及ヒ第六條ニ照シ新法即チ刑法第七十八條第一項ニ依リ重禁錮一月十日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補永井次郎ハ上告ヲナシタリ其要領ハ被告ハ明治十三年ヨリ本年即チ明治十六年ニ至ル迄都合四回徵兵檢査ヲ避ケタルモノナレハ即チ四罪俱發ニ係ルヲ以テ共ニ公判ヲ求メタルニ原裁判所ハ第一次即チ明治十三年ノ犯罪ノミニ付判決ヲナシ其他ノ三罪ニ對シ裁判ヲ下サ、ルハ所謂請求ヲ受タル事件ニ付判決ヲ爲サ、ル不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人被告是善ハ上告趣意書ノ送達ヲ受クルモ答辯書ヲ差出サス爰ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ踐行シ之ヲ判決スル左ノ如シ凡シ徵兵適齡ニシテ檢査合格ノ上募集セラレ、ハ必ス一回ニ止リ一人ニシテ數回募集セラレ、ノ理由ハ之レナキニヨリ本按被告カ行爲ノ如キ固トニ失踪中四回徵兵檢査ノ期ヲ經過セシモノトスルモ是レ其免役ヲ圖リタルハ仍ホ止ク一回ニ過スシテ之ヲ四回免役ヲ圖リタリト云フヲ得サルモノトス故ニ原裁判所ニ於テ被告カ適齡ノ期ニ至リ故サラニ家出セシハ初度即チ明治十三年ノ檢査ヲ避ケ免役ヲ圖リタルノ行爲ト判定シ之カ處斷ヲナシタルハ固ヨリ當理ノ裁判ナリトス
以上辯明ノ理由ニシテ本按上告ハ相立サルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第一千三百卅一號

○判文(水利妨害)明治十六年十一月十四日上告
十七年五月九日發付

福岡縣豐前國仲津郡大村平民農

白石 丈平

明治十六年十月

四十三年八月

同村平民農

村上 次

明治十六年十月

二十六年十月

同村平民農

齋藤 東平

明治十六年十月

四十三年四月

同村平民農

藤井 周平

明治十六年十月

五十四年十月

同村平民農

藤井 三郎

明治十六年十月

三十五年四月

同村平民農

齋藤 吉三郎

明治十六年十月

三十三年十一月

同村平民農

光城 郡平

明治十六年十月

四十九年四月

同村平民農

中山 松藏

明治十六年十月

二十五年十一月

同村平民農

齋藤 萬平

三〇九

同村平民農

明治十六年十月
四十三年三月

光城 儀平

同縣同國同郡谷口村平民農

明治十六年十月
四十九年六月

西本庄 太郎

同村平民農

明治十六年十月
二十七年八月

岩田 圓六

同村平民農

明治十六年十月
二十六年五月

中島 平六

明治十六年十月
三十九年五月

同村平民農

田中 庄平

明治十六年十月
六十二年二月

同村平民農

中島 友三郎

明治十六年十月
三十三年一月

同村平民農

杉本 平次郎

明治十六年十月
四十一年生日不知

同村平民農

倉田 喜平

明治十六年十月
三十九年一月

同村平民農

上村 喜六

同村平民農

明治十六年十月
四十九年一ヶ月

中尾利平次

同村平民農

明治十六年十月
四十一年八ヶ月

木下友七

同縣同國同郡大村平民農

明治十六年十月
四十九年十ヶ月

白川熊太郎

同村平民農

明治十六年十月
二十八年四ヶ月

西川直平

明治十六年十月
四十三年一ヶ月

同村平民農

岡野榮次

明治十六年十月
四十三年生月不知

同村平民農

末森市藏

明治十六年十月
四十年三ヶ月

同村平民農

光城利市

明治十六年十月
四十年五ヶ月

同村平民農

藤井權平

明治十六年十月
四十四年二ヶ月

同村平民農

岡野定平

三一四

明治十六年十月
四十四年八月

同村平民農

白石平吉

明治十六年十月
四十年四月

同村平民農

岡野庄平

明治十六年十月
五十年七月

福岡縣豊前國築城郡雛子村
平民農當時同國仲津郡谷口
村寄留

榎定五郎

明治十六年十月
三十五年生月不知

同縣同國仲津郡谷口村平民
農

堀川彌吉

明治十六年十月
四十四年生月不知

同村平民農

木下定平

明治十六年十月
五十七年十月

同村平民農

中島久五郎

明治十六年十月
二十五年八月

同村平民農

木本仙平

明治十六年十月
二十六年十月

同村平民農

中島幸次郎

明治十六年十月
三一五

四十八年十月

同村平民農

木下吉九郎

同村平民農

明治十五年十月

同村平民農

五十四年十月

同村平民農

藤川市六

同村平民農

明治十六年十月

同村平民農

四十五年八月

同村平民農

坂井傳平

同村平民農

明治十六年十月

同村平民農

青木儀平

同村平民農

五十五年二月

同村平民農

同郡大村平民農

同村平民農

中山芳藏

同村平民農

明治十六年十月

同村平民農

四十五年四月

同村平民農

岡野菊平

同村平民農

明治十六年十月

同村平民農

三十六年八月

同村平民農

元收永井勝敬

同村平民農

右白石丈平外四十一名カ被告事件ニ付明治十六年十月十六日及ヒ十六年十月二十五日福岡
 輕罪裁判所小倉支廳ニオイテ被告等カ所爲ハ素ヨリ輕舉疏漏ヲ免レサル所アリト雖モ當時
 ノ早魃ヲ回想スレハ舊慣ニ據リ既ニ分水ヲ爲スヘキノ期ニ際會セルヲ以テ大村谷口ノ兩村
 ハ之レヲ要メ山鹿村ハ其求メニ應ス可キノ時ニ至リシモノト認定シ然シテ木下友七外二十
 三名ノ者ハ右分水ニ關係セシ者ニ非ストシ一同ニ無罪ヲ言渡シタリ
 檢事高野薫ハ右兩度ノ裁判ヲ不當トシ上告シタリ其要旨ハ第一原判文ニ「其舊慣アルハ秋
 元收永井勝敬カ手續右山鹿村戸長佐原林大村外三ヶ村戸長家成幸六カ答辯書ヲ比照シ明断

ナリトアレヒ這ハ明治六年非常ノ早魃ニ際シ初メテ分水シタルモノナレハ素ヨリ山鹿村ノ恩惠ニ過キス然ルニ原裁判所ハ舊慣アリト速了シ無罪ヲ言渡シタルハ越權ナリ第二原裁判官ハ木下友七已下二十三名カ該分水ニ關係セサリシト云フ片言ヲ信シ被告等カ豊津分署ニオイテ爲シタル自白ヲ取消ス可キ理由ヲ明示セス單ニ分水ニ關係セシ者ニアラストシタルハ不法也依テ治罪法ノ規則ニ從ヒ破毀ヲ乞度ト云フニアリ被告ハ之レニ對シ分水ノ舊慣アルヲ述ヘ且原裁判ハ適當ナリト答辯シタリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ
上告趣旨第一ハ明治六年ノ分水ハ山鹿村ノ恩惠ニ過キサルカ故之レカ取捨與奪ハ一ニ該村ノ權内ニ屬スト云フニアレヒ其舊慣アツテ然カセルコトハ原裁判官カ其事實ヲ認メ已ニ判文ニ明示シタリ第二ハ理由ヲ示サスシテ被告ノ自白ヲ取消シタリト云フニアレヒ是又裁判官ノ職權内ニ立入タル論難ニ過キサルモノトス抑事實ノ認定ハ治罪法第四百十六條第二項ノ規定ヲ以テ裁判官ニ任從シタルモノナルカ故他ヨリ敢テ之ヲ批難スルヲ得サルモノトス本按上告論旨ハ前顯ノ如ク事實及ヒ探証上ノ論難ニシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ適應スル原由ナキモノニ付同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

第一千三百卅二號

○判文〔財産藏匿〕明治十六年四月三十日上告
同 十七年五月九日發付

大分縣速見郡大神村平民

大神 瑚 吉

明治十六年三月

三十年一月生

右瑚吉カ被告事件ニ付明治十六年三月廿六日杵築治安裁判所ニ開キタル大分縣罪裁判所於テ被告瑚吉ハ身代限處分ヲ受ケ家資分散ノ際財産ヲ藏匿脱漏セシ所爲アリト判定シ刑法第三百八十八條ニ依リ重禁錮一年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告瑚吉カ上告セル其要領ハ〔原宣告書中戸長工藤彌平巡查平佐金三郎立會ノ調書〕云々トアルハ被告カ身代限處分後ニ於テ出來シ且明治十六年一月以後被告宅へ同居セシモノ、物品ヲモ付込ミアルノミナラズ被告ハ明治十五年六月中身代限リノ處分ヲ受ケシモ假リニ之ヲ同十六年二月ニ引直シ以テ財産脱漏ノ所爲アリトナスモ原告請求ノ如ク借金且ツ損害ヲ還償シ告訴モ却下チ出願シタルモノナレハ充分減輕ヲ與ヘタルヘキニ此ニ出テサリシハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人檢察官警部補千葉新一郎ハ上告旨趣ノ理由ナキヲ論駁シ原裁判適當ナリト答辯セリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
本件上告ノ趣旨ハ原判官カ諸般ノ證據ニ心證ヲ資リ即チ被告ハ家資分散ニ際シ財産ヲ藏匿脱漏セシ所爲アリト認定シタル事實ノ當否ヲ非難シ徒タニ不服ヲ訴フルニ過キスシテ上告ヲ爲シ得ルノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

第一千三百卅三號

○判文〔贓物ニ關スル罪〕明治十六年十一月十三日上告
同 十七年五月九日發付

鳥取縣因幡國邑美郡富安村

平民金五郎妻

三十三年生月不詳

明治十六年十月

勝井 ヲヨ

右勝井「ソヨ」カ被告事件ニ付明治十六年十月六日鳥取輕罪裁判所會議局於テ豫審終結ノ言渡ニ對スル故障ノ申立ヲ審按シ被告ハ無罪ナリト只口ヲ擬律錯誤ニ藉リ豫審判事カ蒐聚セシ証憑ニ因リ認定シタル事實ノ論難ヲ試ムルニ過キス夫レ豫審判事カ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ニ對シテハ治罪法第二百四十六條第三項ニ明記スル如ク豫審判事ノ管轄違越權又ハ其事件ヲ移スヘキ裁判所ノ管轄違ニ非サレハ故障ヲ爲スコトヲ得ス故ニ豫審判事補青木胤彦ニ於テ爲シタル豫審終結ノ言渡ヲ認可スルモノナリト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告勝井「ソヨ」ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ夫金五郎ハ古着商營業人ニテ買ヒ得タル衣類内ニ偶贓品アリシヲ以テ知テ寄藏シタルモノト誤認シ又男帶ニ於ケルモ婦女ノ要スル品ニアラサレハ故意ヲ以テ寄藏セシニハアラス茲ニ贓品ヲ寄藏シタル所爲アリト假定スルモ夫金五郎ノ罪ヲ免カレシメン爲メ其罪証ヲ隱蔽シタルモノナレハ刑法第五百二十二條同第五百十三條ヲ適用スルヲ同法第三百九十九條同第四百條ヲ適用シ鳥取輕罪裁判所ニ移ストノ擬律錯誤アル豫審終結ノ言渡ヲ認可セシハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ原裁判所檢事補安藤眞一ハ該判決ハ相當ノ上告ノ理由ナキモノト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ
 本按上告ノ旨趣ハ夫金五郎カ買ヒ得タル衣類内ニ偶贓品アリシヲ以テ知テ寄藏シタルモノト誤認シ又男帶ニ於ケルモ婦女ノ要スル品ニアラサレハ故意ヲ以テ寄藏セシニアラス假リニ贓品ナルヲ知テ寄藏シタリトスルモ夫金五郎カ罪証ヲ隱蔽シタルナレハ刑法第五百二十二條同第五百十三條ニ適當スルヲ同法第三百九十九條同第四百條ヲ適用シタル擬律錯誤アル豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ不法ナリト云フト雖モ徒ニ豫審判事カ認メサル處ノ事實ヲ舉ケテ其言渡ニ不服ヲ唱ヘ以テ會議局ノ判決ヲ論難スルニ止マレハ鳥取輕罪裁判所會議局ニ於テ治罪法第二百四十六條第三項ニ該當セサルモノナリトシ故障ノ申立ヲ棄却シテ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ毫モ不法ニアラストス右理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第千三百卅四號

○判文(無届不參) 明治十六年十一月十三日上告
十七年五月九日發付

栃木縣下野國河内郡宇都宮

曲師町平民

堀畑 誠 三

年齡不詳

右堀畑誠三カ被告事件ニ付明治十六年十月十九日宇都宮治安裁判所於テ被告ハ明治十六年十月十八日無届不參スルヲ以テ明治十年第五號及明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ

罰金貳圓申付ル旨言渡シタル裁判ニ服セス被告堀畑誠三ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ送達騰本ニ明治十六年十月十九日無届不參スルヲ以テ罰金申付ル旨ナレモ右十九日ニ召喚ヲ受ケタルコトヲ送達書ニハ科料金トアリテ罰金科料何レカ明瞭ナラス又明治十六年十月十八日出頭ノ猶豫願ヒテ却下シ勸解掛リ官換ヲ請求スルモ採用セス且追申書ヲ以テ柄本輕罪裁判所宇都宮支廳書記局ヨリ右裁判確定スルヲ以テ罰金上納スヘキ旨達アルモ上告中ナレハ確定シタルニアラサレハ該裁判ハ不服ナリト云フニアリ原裁判所檢事補吉野信三ハ本按上告ハ其理由ナキモノト答辯セリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
前顯上告ノ旨趣ニ對シ一件書類ヲ監査スルニ原裁判所宣告本書ニ(明治十六年十月十八日當廳ニ無届不參スルヲ以テ云々)トアリテ其謄本ニ明治十六年十月十九日トシ又送達書ニ科料金ト記載シタルハ何レモ其謄寫ノ誤リニ出タルコト明カニテ原裁判所書記局ノ過誤ヲ責メ不服ヲ唱フルニ止マリ又出頭猶豫願ヲ却下シ勸解掛リ換ノ請求ヲ採用セサルト訴フルモ徒ニ被告一己ノ苦情ヲ鳴ラスニ過キスシテ一件書類中其証憑アラサレハ共ニ上告ノ原因ナキモノトス且宇都宮支廳書記局ヨリ裁判確定シタルニ付罰金上納スヘキヲ達ハ既ニ明治十六年十月三十一日該支廳ヨリ取消書送達シアレハ茲ニ辯明ヲ要セス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本按上告ヲ棄却スルモノ也
第一千三百卅五號

○判文(無届不參)明治十六年十一月十三日上告
同 十七年五月九日發付

長野縣信濃國北佐久郡岩村
田町平民

川原田新太郎
年齡不詳

右新太郎カ無届不參被告事件ニ付明治十六年十月廿五日岩村田治安裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年十月廿五日同廳へ出頭スヘキヲ無届不參シタルモノトシ明治十年第五號公布及ヒ明治十四年第七十二號公布第三條ニ依リ罰金三圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告新太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ裁判所へ出頭スヘキノ日ハ他家へ嫁シタル妹ノ急病ニ罹リタル報アリテ該家ニ至リシカ爲メ裁判所へハ高柳勝次郎ヲ以テ日延願ヲ差出サセタル處一且採用相成其後更ニ採用相成ラサル趣キヲ以テ下付セラレタル由勝次郎ヨリ他行先へ報道シ來ルニ由リ直ニ裁判所へ出頭セシモ既ニ閉廷后ニ至リシ故立歸リシ事實ナレハ無届不參シタルニアラサルヲ原裁判所ニ於テ前說ノ如ク處罰セラレタルハ不當ナリト云フニアリ原檢察官ハ被告ハ當日高柳勝次郎ヲ以テ出頭ノ日延願ヲ差出シ一旦之ヲ採用シタル事實アルヲ審明セス輒ク明治十年第五號公布及ヒ明治十四年第七十二號公布ヲ適用シタルハ不法ノ言渡シナリトノ旨趣ヲ答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ被告ノ上告及ヒ原檢察官答辯ノ旨趣ハ共ニ其理由ナキ旨ヲ辯シ且附帶上告ヲナシテ云ク原判裁言渡書ニ被告カ犯罪ノ證據ヲ明示セサルハ治罪法第三百四條ノ規定ニ背キタル不法ノ裁判タルヲ以テ同法第四百十條第十一項ニ依リ之ヲ破毀シ他ノ相當

裁判所へ移スノ言渡アテノ望ムト因テ之ヲ判決スル左ノ如シ
 本案被告ノ上告原檢察官答辯ノ旨趣タル之ヲ要スルニ法律上裁判官ニ特任スル所ノ職權内ニ立入其事實認定ヲ批難スルニ過サレハ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス而シテ又立會檢事附帶上告ノ論旨アリト雖モ抑モ明治十年第五號公布ナルモノハ裁判所ノ呼出ニ對シ無屈ニテ遅不參セシモノアルキハ裁判官ニ於テ直チニ處罰シ得ルノ特權ヲ與ヘタル一種ノ特法ナレハ其裁判官カ視認シタル不參ノ理由ヲ示シ言渡ヲ爲シアル上ハ假令不參ノ證據ヲ掲ケサルモ敢テ之ヲ不當ノ裁判ト云フヲ得ストス何トナレハ不參者ヲ認メ直チニ之ヲ罰スルハ法律ニ適スル正當ノ職權ニシテ他ノ證據ヲ要スルノ謂レナキハ勿論不參ノ舉證タル裁判官ノ外他ニ之ヲ舉證シ得ヘキモノアラサレハナリ
 右辯明ノ理由ニシテ本按被告ノ上告ハ勿論立會檢事附帶上告共相立サルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第一千三百卅六號

○判文〔証券印稅違犯〕明治十六年五月七日上告
同 十七年五月九日發付

千葉縣上總國山邊郡一ノ袋

村平民農業

吉原彌次兵衛

年齡不詳

証券印稅規則違犯被告事件ニ付千葉輕罪裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ニ服セス右吉原彌次

兵衛ハ曩ニ上告ヲナシ大審院ニ於テ裁判言渡ヲ受ケタル後治罪法第四百三十六條第三項ノ原由アリトシ哀訴ヲ提起シタリ
 爰ニ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履踐シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ

治罪法第四百三十七條ニ哀訴ヲ爲ントスルモノハ裁判言渡シアリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其申立ヲ爲スヘシトアリ而シテ本案大審院ニ於テ裁判言渡ヲ受ケタルハ明治十六年三月十六日ニシテ哀訴ヲ提起シタルハ明治十六年五月二日ニ在リ其期限ヲ經過スルヲ四十餘日ナリトス治罪法第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付定メタル期限ヲ經過シタルキハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアリテ本訴ノ如キハ當然其權ヲ失却シ成立セサルモノトス依テ本訴ヲ棄却スル者ナリ

第一千三百卅七號

○判文〔烟草稅則犯〕明治十七年四月十日非常上告
同 年五月九日發付

熊本縣託麻郡出仲間村烟草

小賣營業人

清 崎 善 吾

明治十六年十月

五十六年

右善吾カ烟草稅則違犯被告事件ニ付明治十六年十月二十九日熊本輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年七月以降烟草買入帳ヲ製セスシテ葺ヲ販賣シタルモノト認定シ烟草稅則第二十

三條同第三十八條ニ依リ罰金五圓ニ處シ賣捌キ代金二十七圓九錢ヲ追徴シ犯罪ニ係ル葦壹皮籠沒収スト言渡シタル裁判確定ノ後明治十七年四月十日本院檢事長渡邊驥ハ非常上告ヲナシタリ其要領ハ本接被告カ行爲ハ單ニ帳簿ノ調製ヲ怠リシノミナルニ原裁判ニ於テ其烟草ニ犯罪ノ廉アルモノニ適施スル法條ニ依リ賣拂代金ヲ追徴シ及ヒ葦ヲ沒收シタルハ法律ニ定メタル相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不當ノ裁判ナリト云フニアリ爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

抑烟草稅則第三十八條末文ニ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ストアルハ其明文ノ如ク烟草ニ犯則ノ廉アル場合ニ適用スヘキ法章ナルハ言ヲ俟サル處ナリ故ニ本接被告事件ノ如キ同則第二十三條ニ違背シ止マ單ニ帳簿ノ調製ヲ怠リタルノミノ行爲ニ對シテハ便チ罰金ノミニ處シ該第三十八條ノ末段ハ之ヲ適施スヘカヲサルモノナルニ原裁判爰ニ出ス罰金ニ處シタルノ外尙ホ犯則ニ係ラサル烟草賣代金ヲ追徴シ且葦ヲ沒收シタルハ非常上告論旨ノ如ク墜ク法律ニ定メタル相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不當ノ裁判ナリトス

以上辯明スル理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十五條末項ニ從ヒ原裁判言渡中烟草賣捌キ代金貳拾七圓九錢ヲ追徴シ犯罪ニ係ル葦壹皮籠ヲ沒收ストアル部分ヲ破毀シ之ヲ取消スモノ也

第千三百三十八號

○判文〔詐欺取財〕明治十六年五月十一日 上告
 十七年五月十日 發付

山梨縣甲斐國北巨摩郡土手
 村平民農業

五味 直利
 明治十六年四月
 四十三年二ヶ月

山梨縣甲斐國西山梨郡柳町
 平民鐵物商

山田 米造
 明治十六年四月
 三十三年一ヶ月

東京府下谷區下谷西町平民
 被雇職

田村 莊左
 明治十六年四月
 三十年四ヶ月

右直利米造莊左カ被告事件ニ付明治十六年四月五日甲府輕罪裁判所ニ於テ私書偽造及ヒ詐欺取財ノ事實アリト認メ刑法第百條ニ從ヒ一ノ同第二百十條及同第二百十二條ニ依リ直利米造ニ對シ各五月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金六月ノ監視ヲ附加シ莊左ニ對シテハ仍ホ同第

八十七條同第八十五條ニ照シ四月ノ重禁錮ニ處シ七圓ノ罰金六月ノ監視ヲ附加ストノ裁判言渡ニ服從セス各上告セリ其要領ハ被告直利米造ニ於テハ其實際直利ヨリ田村家へ預ケ金アリタルモノニテ決テ無根ノ事ヲ共謀シ詐取セントシタルニアラスト云フニ外ナラス又莊左ニ於テハ直利米造等ト共謀シ証書ヲ偽造シ之ヲ以テ直利ヨリ勸解訴出シタル迎証書偽造ノ未遂ナルニ之ヲ既遂ナリトセラレタルハ不法ナリト云ヒ直利米造ハ追テ上告辯明書ヲ差出シ尙ホ前意ヲ敷衍シ且証據書類ヲ差出シ共ニ原裁判ノ破毀アリタシトノ趣旨ヲ要求セリ對手人檢事補若林爲三藏ハ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ被告人カ上告趣旨ノ理ナキヲ辯明シ而テ原裁判ハ自首減輕ト未遂犯減輕トヲ其本刑ヨリ通減シタルハ聊カ穩當ナラサルモ已ニ他ノ犯罪即チ偽造証書行使ト二罪俱發シ其一ニ從ヒ處斷シタル上ハ自カラ消滅ニ歸シ今更破毀ヲ求ムルノ有益ナシト思考シ旁以テ棄却ノ言渡アラントテ望ムト開陳セリ爰ニ之ヲ審案スルニ

上告ノ理由トスル處其實際直利ヨリ田村家へ預ケ金アリタルモノニテ詐欺ニ出テタル所爲ニアラスト云フニアリト雖モ原裁判所カ正當ノ定規ヲ履ミ各種ノ証憑ヲ取捨シ認メタル事實ニ對シ徒ニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ上告ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタル第一ヨリ第十一ニ至ル明文ニ適合セサレハ上告ノ理由ト爲スヲ得サル訴旨ナリトス莊左ニ於テハ直利米造ト共謀シ証書ヲ偽造シ勸解へ訴出シタル迄ナレハ未遂犯ナルニ既遂犯ナリト論決セラレタルハ不當ナリト云フニアルモ原裁判所言渡ニ(金八十圓ヲ五味直利へ預

ケタル証書ヲ偽造シ該金員ヲ詐取セント直利ヨリ田村家當戸主莊左衛門へ係リ甲府治安裁判所へ預ケ金取戻シ勸解出願ニ及ヒタル事實ハ云々)トアリテ既ニ偽造行使ヲ結了シタルモノタルコト明白ナリ刑法第二百十條ハ偽造行使スルヲ以テ其罪ヲ成立タシムヘキ法文ナレハ其目的ハ遂ケタルモノタル論ヲ俟タサルナリ然ラハ則チ其第二ノ目的即チ其金員ヲ詐取シ得サルモ何ソ之ヲ未遂犯ナリト云フヲ得ンヤ故ニ既遂犯ニアラス未遂犯ナリトノ訴旨モ亦破毀ノ理由ト爲スヲ得ス又其原裁判ハ莊左カ詐欺取財ノ一罪ニ對シ自首減輕ト未遂犯減輕トヲ本刑ヨリ通減シタルハ刑法第九十九條ニ但從犯及ヒ未犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ストアルニ牴觸シタル處分ナルモ他ノ一罪即チ私書偽造ノ重キニ因リ論決シ自カラ消滅セシモノニテ刑ニ輕重ノ差ナキノミナラス別ニ影響アルニアラサレハ是亦破毀ノ限ニアラサルモノト判定ス

以上ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千三百卅九號

○判文(詐欺取財)明治十六年五月十六日上告
十七年五月十日發付

山口縣周防國都濃郡鹿野上
村平民雜業

國 光 政 助

明治十六年四月
三十三年八月

右政助カ被告事件ニ付明治十六年四月十八日山口輕罪裁判所ニ於テ其所犯刑法實施前ニ係リ數罪俱發スルヲ以テ新舊法ヲ比照シ新法ノ輕ニ從ヒ刑法第百條明治十四年第八十一號公布ニ照シ一ノ重キ詐欺取財ヲ以テ論シ刑法第三百九十條ニ依リ重禁錮一年ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス被告政助ハ上告セリ其要趣ハ受寄ノ金祿公債証書ヲ費用セシモ金二百拾三圓ヲ詐取シタルコトナク私印私書ヲ偽造シ擅ニ金四十五圓ヲ借用シタルハ被害者ニ首服シ其承諾ヲ受ケタルモノナレハ罪トナルヘキモノナラス若首服シタルトノカカ分明ナラストスルモ私印私書ヲ偽造シ四十五圓ヲ借用シタル罪ヲ以テ論スヘキモノナリ然ルチ原裁判所ハ詐欺取財罪金二百十三圓ノ罪ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ナリト云ニアリ

原檢事補玉置琢ハ上告ノ不理ナルヲ辯駁シ原裁判允當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル所預リシ公債証書ヲ費用シ私印私書ヲ偽造シタルモ被害者ニ首服シ承諾ヲ受タルモノナリ若シ首服承諾ノ証不充分ナリトセハ私印私書ヲ偽造シ四十五圓ヲ借用セシ罪ヲ以テ論スヘキモノナリト云ニアレトモ原書類ヲ查閱スルニ被告カ首服シタリトノ申立ニ對シ被害者福永義一カ陳述中「決シテ斯クノ如キ事實ハ之ナク政助カ一時ノ造言ナリ」トアリテ其首服承諾ハ勿論被告カ借用金ハ四十五圓ナリト見ルヘキ証憑ナク到底論告スル所ハ裁判官カ認定シタル事實ヲ非難スルニ過キス上告ノ原由ナキモノトス何ントナレハ心証判斷証憑採擇ハ判官ノ職權内ニアリテ治罪法第四百十條各項目外ニ渉ル訴旨ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立ス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ
第千三百四十號

○判文(爲換手形偽造) 明治十六年五月十六日上告
十七年五月十日發付

富山縣越中國射水郡高岡地
子木町平民材木商

越前外次郎

明治十六年四月
十七年八月

右外次郎カ被告事件ニ付明治十六年四月二十日金澤輕罪裁判所富山支廳カ約定手形偽造行使及ヒ詐欺取財未遂ノ所爲アルモノト認メ刑法第百條ニ依リ一ノ同第二百九條同第二百二條ニ依リ同第八十一條同第六十九條ニ照シ三年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ約定手形ヲ偽造シタルコトナシ其所以タル被告人ハ堀井長平ト兼テ懇信ノ間柄ナルヨリ該手形ヲ借受ケ何心ナク眞成社ヨリ金九十圓ヲ受取タルモノニテ騙取シタルニ在ラス亦原判文ニ金六十圓ノ手形ヲ代金差引ノ爲メ已ニ堀井紋次ニ交附シ云々トアレヒ是亦決シテ眞實ニアラス然ルチ原裁判所ハ堀井長平堀井紋次等カ被告入ヲ陷害セントスル陳述ヲ採用シテ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナレハ更ニ公明至當ノ裁判ヲ求ムト云フニ在リ

對于人檢事平野長憲ハ上告旨趣ノ不當ナルヲ辯駁シテ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
 上告ノ理由トスル所手形ヲ偽造シタルニアラス借用シテ金員ヲ受取リタルモノナリ又ハ堀
 井長平外一名カ被告人ヲ陷害セントスル陳述ヲ採用セラレタルハ不當ナリト云フニ在リト
 雖モ原裁判所カ認メタル事實ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ上告ノ理由トハナラサ
 ルモノトス何トナレハ治罪法第四百十六條第二項ニ規定スル如ク諸般ノ徵憑ヲ取捨鑒別シ
 テ被告人ハ果シテ有罪ナルヤ否ヤヲ判定スルハ原裁判所ニ特任スル職權ナルヲ以テナリ因
 テ要求ノ趣旨ハ總テ相立タサルモノト判定ス
 以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スルモノ也
 第一千三百四十一號

○判文(古金銀偽造) 明治十六年五月三十日上告
 十七年五月十日發付

石川縣金澤區長町一番丁十
 二番地士族高木豊太父海産
 營業

高木 豊 房

明治十六年五月
 三十七年一月

明治十六年五月十日金澤輕罪裁判所ニ於テ右高木豊房カ被告事件ヲ審理シ被告ハ貨幣ヲ取
 受スルノ後偽造ナルヲ知テ之ヲ行使シタルノ所爲アリトシ刑法第九十三條同第四十三

條及ヒ明治七年第九十三號布告ヲ適用シ其使用セシ贋造貨幣ノ價格四十二圓六拾壹錢六厘
 餘ノ二倍罰金八十五圓二拾三錢六厘ノ刑ニ處シ其贋造貨幣ハ沒收スト言渡シタル裁判ニ對
 シ被告人高木豊房ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ瀬戸仁右衛門ヨリ壹朱銀抵當ニテ金借方ノ依
 頼ヲ受ケ横川久平及ヒ室田某ヲシテ鑑定ヲサシメタル上周旋ヲナシタルモ被告ノ眞ニ行
 使シタルハ僅カニ六圓ニシテ三十圓ニ非ス餘ハ威ナ瀬戸仁右衛門ノ行使ニ係レリ又假リニ
 被告ノ行使シタル所ト爲スモ之レヲ行使シタルハ單ニ眞價ニ依テ使用セシノミ即チ人ヲ欺
 キ僞ヲ以テ眞トスルカ如キ所爲アルニ非ス且右一朱銀ノ如キハ所謂古金銀ノ部類ニシテ通
 用貨幣ト云フヲ得ズ然ルヲ刑法第九十三條ニ依リ刑ヲ言渡サレタルハ不當ノ裁判ナリト
 謂フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ
 上告ノ論旨ハ二點ニ過キス其一ハ被告ノ眞ニ行使シタルハ僅ニ六圓ニシテ且人ヲ欺罔セシ
 ニ非スト論告スレトモ其偽造ナルヲ知テ現ニ三十圓餘ヲ行使シタルハ相當官吏ノ調書
 及ヒ原公判廷ノ審問等ニ徴スレハ事實明瞭ニシテ原判官ノ確認シテ以テ判定ヲ爲ス所ノモ
 ノナルニ其事實ノ當否ヲ論難スルモ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サルナリ何トナレハ事實
 ノ判定ハ法律ニ於テ之ヲ裁判官ノ職權ニ特任スル所ナルヲ以テ其判定ニ對シテハ他ヨリ之
 ナ動スヲ得サルモノナレハナリ其二ハ壹朱銀ノ如キハ古金銀ノ部類ニシテ貨幣ト云フヘ
 カラスト論告スレトモ是法律ヲ誤解シタルモノニシテ亦以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サル
 ナリ何トナレハ法律ニ於テ舊貨壹朱銀ノ如キ人民相互ノ通用ヲ廢止スト雖モ其價格比較ヲ
 以テ公納ニ供用スルヲハ之ヲ許可シ全ク通貨タルノ効力ヲ失ヒタルニ非サルヲ以テ其偽造

ナルヲ知テ之ヲ行使セシ者ハ刑法第九十三條ノ制裁ヲ免ル能ハサルモノナレハナリ故ニ本案上告ハ到底治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲スヲ得ヘキ各項目ニ適當セサルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ却棄スルモノ也

第一千三百四十二號

判文(官吏侮辱)明治十六年六月十九日上告
同 十七年五月十日發付

栃木縣下野國河内郡東川田
平民 横松竹三郎

明治十六年五月
二十八年

右竹三郎カ被告事件ニ付明治十六年五月二十六日栃木輕罪裁判所宇都宮支廳ニ於テ被告ハ巡查宇賀神得三郎カ職務ニ對シ言語ヲ以テ侮辱シタルモノト認定シ刑法第四百十一條ニ照シ重禁錮三月ニ處シ罰金十二圓五十錢ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告竹三郎上告ヲ爲タリ其要旨ハ本件ノ證據トスルニ足ラサル証人ノ陳述及ヒ證據物品ヲ採テ以テ心証ノ資トサレタルハ採証法ヲ誤リタル越權ノ處分ナリ又探ル可カラサル証憑ヲ以テ判定セラレシ事實ハ實際ノ事實ト齟齬アリ且公判ニ臨ミ被告カ証人ノ喚問ヲ請求スルモ之ヲ許容セラレサリシハ不當ナリト云フニアリ原裁判所檢事補吉野信三ハ上告趣旨ノ理由ナキ旨ヲ辯駁シ原裁判至當ナリト答辯セリ茲ニ大審院專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按

シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

諸般ノ証憑ヲ取捨採擇シ以テ犯罪ノ事實ヲ判定シ且公判廷ニ於テ新ナル証人喚問ノ請求ヲ許否スルハ治罪法第四百十六條及ヒ同第三百五十七條ニ規定シアルアリテ特リ事實裁判官ニ任從スル所ナレハ其職權ヲ以テ爲シタル處分ニ對シテハ漫ニ之ヲ動カスヘカラサルモノナリ本按上告ノ旨趣ハ專ラ裁判官ノ職權内ニ侵入シテ徒ニ其當否ヲ論難スルニ過キス今又訴訟書類ヲ檢審スルモ越權ノ處分或ハ事實理由ニ齟齬ノ廉アルナキヲ以テ上告ノ旨趣ハ總テ其理由ト爲スヲ得サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本按上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千三百四十三號

判文(官吏侮辱)明治十六年七月廿日上告
同 十七年五月十日發付

愛媛縣伊豫國宇摩郡川之江
村平民三好範平雇人

三宅健次

明治十六年六月
二十五年四月

右健次カ被告事件ニ付明治十六年六月二十二日西條治安裁判所ニ於テ松山輕罪裁判所カ酒造檢査官ニ對シ強テ有心隱蔽セシモノナリトノ申聞ケハ壓制ニ非スヤトノ言語ハ直ニ以テ檢査官ノ職務ヲ侮辱セシモノト認ムヘカラサルモノトシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪

ト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官警部高島徳次郎ハ上告セリ其要領ハ被告健次ハ警察署ニ於テ初メハ壓制ノ様存スルト云ヒシト云ヒ終ニハ壓制ト申シタル一語ハ不都合恐入ルト申立ナシテ其酒造検査官ヲ侮辱シタルモノタル著明ナルニ公判ノ際前供ヲ翻異シタシヨリ酒造検査官ヲ侮辱シタルニアラスト認メ無罪ヲ言渡シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀アリタシト要求セリ

對手人三宅健次ハ原裁判允當ナリト確信スル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ上告ノ理由トスル處被告人ハ前供ヲ翻異シタルヨリ終ニ無罪ヲ言渡サレタルモ其裁判ハ擬律錯誤ナリト云ト雖モ果テ其擬律錯誤アルニアラスト要スルニ原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ認メタル事實ニ對シ探證ノ當否ヲ批難スルニ外ナラサレハ破毀ヲ求ムル原由ト爲スヲ得ス何トナレハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ證據ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨相立サルモノト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千三百四十四號

○判文(官吏侮辱) 明治十六年六月廿日上告
同 十七年五月十日發付

長野縣信濃國東筑摩郡中川
手村平民農

清水權三郎

明治十六年五月
七十四年四月生

右權三郎カ被告事件ニ付明治十六年五月二十九日長野縣裁判所松本支廳於テ官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ言語ヲ以テ侮辱シタル罪アリト認メ刑法第四百一十一條ニ依リ重禁錮五月ニ處シ罰金貳拾圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告權三郎ハ上告セリ其趣旨ハ所有地ヲ賣却セント戸長加々見嘉根治ニ與書ヲ請ヒタル時被告カ會テ地引帳へ調印セサル理由ヲ詰問サル、ニ付其圖面實地ト齟齬セルヲ以テ調印セサル旨ヲ答へ且租稅取立方不審ノ事柄ヲモ申述タル迄ニテ盜人杯ト申セシヲナク而シテ豫審及公判廷ニ於テモ是等証憑ノ審問ヲ請求シタルニ採用セスシテ刑ヲ言渡シタルハ不當ナリト云ニアリ

對手人檢事補江木温直ハ上告ノ不當ナルヲ論駁シ原裁判允當ナリト答辯セリ
大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見上告代言人山田泰造カ上告擴張趣旨ヲ聽キ審按スルニ上告ノ要旨ハ戸長加々美嘉根治ニ對シ被告カ地引帳へ調印セサル理由ヲ答辯シタル迄ナリト云フニアリテ戸長カ租稅取立方等ニ不審ノ所爲アリト論辯スレモ毫モ侮辱シタルニ非ストノ証徴ト爲スヲ得ス然レハ承審官カ侮辱ノ事實アリト認メタルヲ徒ラニ非難スルニ過キス又公判始末書ヲ閱スルニ証憑審問ヲ請求シタルヲナク其論告スル所ハ上告ノ原由ナキモノトス何ントナレハ治罪法第四百十條ニ上告ヲ爲シ得ヘキ事柄ヲ定メタル各項目外ニ渉ル訴旨ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立ス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ハ棄却スルモノナリ

第一千三百四十五號

○判文(誹毀)明治十六年六月十三日上告
十七年五月十日發付

福井縣若狹國遠敷郡山内村
第四十六番地宇野喜三郎弟
平民大工職

宇野喜惣八

明治十六年五月
二十八年

明治十六年五月二十九日福井輕罪裁判所小濱支廳ニ於テ右宇野喜惣八カ誹毀被告事件ヲ審理シ被告カ所爲ハ罪ト爲ラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補吉田勝吉ハ上告ヲ爲シタリ其要旨被告人ハ長江村學校普請場ニ原田豐吉外二名其他姓名記臆セサル衆人會同ノ場所ニ於テ芳右衛門ノ盜取ラレタル生糸ノ賊ハ松藏シヤゲナト云フタル言語ハ誹毀ニアラスト謂フヘカラス況ンヤ被害者ハ其事ノ世上ニ傳播シ名譽ヲ損害シ現ニ營業上ニ影響ヲ生シタルニ於テチヤヤ是森下松藏ヲ公然誹毀シタルノ所爲ニシテ刑法第三百五十八條第一項ニ依リ處斷スヘキ犯罪アリト認ムル所以ナリ然ニ原法官カ其所爲罪トナラストシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ニ齟齬アリ擬律ノ錯誤ニ出テタル不法ノ裁判ナレハ破毀シテ相當ノ判決アラントナクフト謂フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

事實証憑ヲ審按シ罪ノ有無ヲ判定スルハ法律ニ於テ特ニ之ヲ承審官ノ職權ニ委テタリ故ニ其職權ヲ以テ判定シタル事實ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スコト得サルモノトス今本按ハ公衆會同ノ場所ニ於テ賊ハ松藏シヤゲナト云フノ言語ヲ發シタルハ即チ誹毀ト爲ルヘキ事實ナレハ有罪ト爲スヘキニ無罪ト爲シタルハ事實ヲ齟齬シ擬律ヲ錯誤シタルモノナリト論告スルモ要スルニ原法官ノ判定シタル事實點ヲ指摘シテ駁論スルニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ定メタル各項目ニ恰當セス原由ナキノ上告ナリト判定ス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スルモノ也

第一千三百四十六號

○判文(賭博)明治十六年十一月廿七日上告
十七年五月十日發付

大分縣豐後國日田郡豆田町
平民菓子商藤七妻

伊東リキ

明治十六年十月
二十四年五月

右「リキ」カ被告事件ニ對シ明治十六年十月三十日大分輕罪裁判所中津支廳ニ於テ被告外二人ハ骨牌ヲ以テ錢ヲ賭ク博奕ヲナシタル者トシ刑法第二百六十一條ニ依リ各重禁錮三月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ骨牌場錢ハ沒收スト言渡シタルニ服セス被告「リキ」ハ上告セリ其要領ハ被告ハ他ヨリ歸宅間モナシ巡查進入シタル者ナレハ仮令賭博ヲ爲サント欲スルモ其暇

ナキノミナラス他ノ兩人カ賭博ヲナシタルヤ否モ知ラサルナリ且原判文ニ證據物件トアルモ如何ナル物件ヲ云カ又被告カ如何ナル辯論ヲナシタルヤ之ヲ示サ、ルハ事實ノ理ヲ付セサル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ニ在リ原檢察官ハ上告ノ非理ナル旨ヲ述ヘ原裁判ハ相當ナリト答辯セリ

因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

被告カ上告ノ理由トスル第一ノ趣旨ハ專ラ原裁判所カ職權ヲ以テ認定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナスヲ得ス第二ハ原判文ニ證據物件トアリテ其物件ヲ明示セズ且被告カ辯論ヲ示サ、ルハ不法ナリト云ニ在レ且被告辯論ノ如キハ其取捨如何ヲ悉ク明示スヘキ者ニ非ス又被告ノ罪證ハ原判文骨牌ヲ以テ錢賭ケノ博奕ヲ爲スト明示シアレハ是亦破毀ヲ求ムル原因トナスヲ得ス

右ノ理ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者ナリ

第一千三百四十七號

○判文(放火) 明治十六年四月廿五日上告
同 十七年五月十日發付

岐阜縣美濃國不破郡伊吹村
三番地居住平民農業

高木儀右衛門

明治十六年三月

四十六年十月月

右儀右衛門カ被告事件ニ對シ明治十六年三月六日岐阜重罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年十二月六日夜同村伊吹神社境内ニアル祓堂ヘ放火シタルモノト認メ刑法第四百三條ニ該テ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ本刑ニ二等ヲ減シ重懲役十一年ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告ヲ爲セリ其旨趣ハ被告ニ於テ該犯罪ヲ爲シタルニアラス且ツ有罪ノ証トナリタル調書ハ關ケ原分署ニ於テ官吏ノ誘導ニ陥リ放火シタル旨登錄セラレタル事實ノ白狀ニアラス因テ之ヲ取消サン爲メ事實ヲ陳述シタルニ原裁判所ハ其審理ヲ盡サ、ルヲ以テ被告ハ終ニ冤罪ニ陥リタレハ上告シテ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人檢事武内直行ハ原裁判官ノ認メタル事實ハ明確ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行スルニ代官人内藤五郎ハ原裁判ノ採テ以テ証憑トナス關ケ原分署ニ於テ爲シタル口供ハ誘導脅迫ニ成立其他証人ノ陳述ヲ觀ルモ被告カ放火シタル証左アルナシ摺附木ノ如キハ固ヨリ日常必用ノ品ナレハ之ヲ以テ犯罪ノ證據ト爲スヘカラス斯ク不充分ナル徵証ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ナリ且ツ仮リニ被告ヲ犯罪人ト做スモ刑法第四百四條ノ火ヲ放テ廢屋云々トアルニ該ツヘキヲ同第四百三條ニ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ云々トアルニ該タルハ擬律ノ錯誤ニシテ到底不當ノ裁判ナリト辯論シ上告旨趣ヲ擴張セリ立會檢事加納久宜意見ノ要旨ハ上告旨趣書及ヒ代官人ニ於テ陳述スル所ハ要スルニ採証ニ付キ攻撃ヲ試ミ又ハ放火シタル伊吹神社ノ祓堂ハ建造物ニアラス廢屋ナリト論難スルモ其採証ノ當否ハ事實承審官ノ職權内ニ非議ヲ容ル、モノニシテ治罪法ニ規定シタル上告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ適合セサレハ素ヨリ上告ノ理由ニ

アラヌ又其家屋ハ現ニ祓堂ノ名義アルモノナルノミナラス廢屋ナルヤ否ノ認定モ亦事實ナレハ原裁判ハ一モ不法ノ点ナキモノトス仍テ棄却アラソクヲ求ムト陳述セリ茲ニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

抑モ証憑ノ採擇事實ノ認定ハ治罪法第四百十六條第二項事實承審官ニ任委シタル職權ニシテ他ヨリ其權内ニ侵入シテ論難スルヲ得ス本按上告ノ旨趣中被告ニ於テ放火シタルコトナシ關ケ原分署ノ訊問調書ハ誘導脅迫ニ成立不實ノ申供ナレハ証憑トスルニ足ラス其他有罪ノ証憑ナシト云フカ如キハ總テ承審官ノ職權内ニ侵入シテ不服ヲ鳴スニ過キス又燒毀ニ罹ル家屋ハ祓堂ノ名義アリ且ツ大工道具ヲ入レ置キタルモノナルノミナラス之ヲ廢屋ナリトスルヤ否ハ事實ノ認定ニシテ是亦承審官ノ職權ヲ以テ認定スヘキモノナレハ立會檢事ノ意見ノ如ク一モ治罪法第四百十條ノ規定ニ適當ナル上告ノ原由之レナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スルモノナリ
但シ明治十七年四月二十九日本按上告一件開廷審判ノ末本院檢事長渡邊驥ヨリ被告カ明治十七年四月二十五日ヲ以テ發シタル追申書ヲ送付セリ其要旨ハ本按被告事件ハ他ニ其犯罪人アツテ本年三月二十九日岐阜輕罪裁判所檢事局ニ於テ自白シタリト云フコトヲ確知セシヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニアルモ這ハ上告ノ原由ニアラサルノミナラス審理終決ノ後ニ係レハ之ヲ採用セズ

第千三百四十八號

○判文(監守盜)明治十六年五月八日上告
十七年五月十日發付

鳥取縣因幡國邑美郡覺寺村

六百三十三番地平民農業

平井善十郎

明治十六年四月

二十七年十一月

右善十郎カ被告事件ニ付明治十六年四月十八日鳥取重罪裁判所ニ於テ被告ハ邑美郡覺寺村圓護寺村戸長奉職中村民ヨリ徵集シタル國稅地方稅公儲金合計四百四十八圓ヲ竊取シ其罪跡ヲ蔽ハソカ爲メ明治十五年十二月十四日夜盜難ニ罹リタル體ニ偽裝シ翌十五日該金額ヲ盜ミ取ラレタル旨鳥取警察署ニ届ケ出タルモノニシテ看守盜ノ罪アリト認メ刑法第二百八十九條ニ依リ輕懲役七年ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス被告平井善十郎ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ被告カ犯罪ノ證憑ト爲シタル証人水野寧人青木清一外五名ノ申立參考人大西トメ外三名ノ陳述其他ノ諸徵憑ハ却テ被告カ無辜ヲ証明スヘキモノニテ且又浪費シタルニモアラサルニ原裁判官ハ之レカ審理ヲ盡サス此各証憑ヲ以テ直チニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ所謂被告事件ノ模様ニ因リ推測ヲ爲シタル越權ノ處分ナリト云フニ在リ原檢察官檢事渡邊融ハ本案ノ被告事件ハ犯罪ノ証憑充分ニシテ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ審理スルニ代言人上村乾ハ上告ノ趣旨ヲ擴張シ且原裁判ハ事實ノ齟齬アルモノトノ辯論ヲ爲シ立會檢事澄川拙三ハ上告論旨中ニ被告カ有益ノ証ナルヲ不利益ノ証トナシタルハ原裁判官ノ越權ナリト云ヒ又上告代言

人ハ事實ノ齟齬アルモノト云フモ渾テ事實ノ有無採証ノ當否ヲ論難スルニ止マリ上告ノ原由ナキモノトノ意見ヲ陳述セリ因テ判決スル左ノ如シ

被告善十郎カ上告ノ主點ナル各証憑ハ却テ被告カ無辜ヲ証明スヘキモ犯罪ノ證據トナラスト云フモ諸般ノ証憑ヲ取捨鑑別シテ事實ノ認定ヲ爲スハ治罪法第百四十六條第二項ノ法文ノ如クナレハ其權内ニ侵入シテ漫リニ論難スルヲ得ス又代言人ニ於テハ事實ノ齟齬アルモノト云フモ判文上明載シタル所ニ齟齬アルニアラサレハ是亦事實理由ノ齟齬ト云フヘカラス要スルニ本按論告ノ旨趣ハ總テ治罪法第四百十條各項目ニ適合シタル上告ノ原由アラサルヲ以テ上告其効ナキモノト判定シ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千三百四十九號

○判文(竊盜未遂) 明治十六年五月七日上告
同 十七年五月十日發付

千葉縣下總國香取郡入野村
平民疊屋職

高木榮吉

明治十六年四月
五十六年三月

右榮吉カ被告事件ニ付明治十六年四月十八日千葉縣輕罪裁判所カ竊盜及竊盜未遂ノ事實アリト認メ刑法第百條ニ從ヒ一ノ同第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ同第百十二條ニ照

シ一月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補山本辰六郎ハ上告セリ其要領ハ原裁判所ハ被告榮吉ニ對シ竊盜罪アリトシ單ニ重禁錮ノ刑ノミヲ適用シ附加ノ監視ヲ言渡サ、ルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトシ破毀アリタシト要求セリ

對手人被告榮吉ハ之ニ答辯セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

原裁判言渡ヲ閱スルニ被告榮吉カ竊盜罪ヲ犯シタルコトヲ認メ刑法第三百六十六條ヲ適用シ重禁錮ノ刑ヲ言渡シナカテ本節中ニ定メタル同第三百七十六條ノ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ストアル監視ヲ附加セザリシハ擬律錯誤ニ係ル破毀ノ原由アル裁判ナリト判定ス

以上ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

高木榮吉

原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ確認シタル事實ハ刑法第三百六十六條同第三百七十六條同第三百七十五條ニ依リ罰スヘキ竊盜及ヒ竊盜未遂ノ罪ナリトス

其第三百六十六條ニ曰人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス其第三百七十六條ニ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアリ

而テ其未遂罪ハ刑法第三百六十六條同第三百七十六條同第三百七十五條ニ依リ同第百十

二條ニ照シ本刑二月以上四年以下ノ重禁錮ヨリ二等ヲ減シ一月以上二年以下トナル仍ホ
刑法第百條末項ニ照シ其竊盜未遂罪ノ一ニ從フ

因テ被告高木榮吉ヲ二月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加シ差押ヘタル物件ハ被害者飯
島貞藏ヘ還付スル者也

第一千三百五十號

○判文(埋藏物隱匿) 明治十六年四月廿日上告
同 十七年五月十日發付

大分縣豐後國大分郡木上村
平民石工職

笠木岩五郎

明治十六年三月
三十四年

右岩五郎カ被告事件ニ付大分輕罪裁判所豫審終結言渡ニ對シ故障ヲ爲シタルニ因リ明治十
六年三月六日同會議局ハ被告ノ故障申立ハ治罪法第二百四十六條第三項ニ適合セサルモノ
ナルヲ以テ之ヲ棄却ストノ判決ニ服セス仍ホ上告ヲ爲シタル其要領ハ安井初平カ石ヲ目標
トナシ側ラニ埋置キタル石工道具即チ矢ト名クルモノヲ被告人カ掘得テ隱匿セシヲナキノ
ミナラス其証憑モナキモノナルニ豫審判事ハ刑法第三百八十六條ヲ適用スヘキ輕罪ナリト
シ大分輕罪裁判所ニ移ストノ言渡ハ越權ノ處分ナルヲ以テ之カ故障ヲ爲シタルモノナルニ
原會議局ハ之カ終結言渡ヲ認可セラレタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事補新庄久之ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シ原判決相當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按ズルニ

上告ノ理由トスル處理藏物隱匿ノ所爲アルニ非ス証憑モナキモノナルニ之ヲ有罪ナリトノ
言渡ハ越權ナレハ故障ヲ爲シタルニ棄却セラレタルハ不當ナリト言フト雖モ治罪法第百四

十六條第二項ニ被告ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ
徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ各種ノ證據ヲ取捨シ有罪ナルヤ否ヤ之ヲ認定スルハ豫

審判官ノ職權内ニアルコト明晰タレハ其終結言渡ハ越權ニアラスト判決シ之ヲ認可シタルハ
毫モ不當ニアラストス因テ上告趣旨相立タサルモノト判決ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第一千三百五十一號

○判文(不覺失四) 明治十六年五月二日上告
同 十七年五月十日發付

福島縣岩代國北會津郡八幡
村寄留士族當時監獄白河支
署看守

大岩七三郎

明治十六年四月
三十三年

右七三郎カ囚徒逃走ヲ覺ラサル被告事件ニ付明治十六年四月七日福島輕罪裁判所白河支廳

ニ於テ刑法第百五十條ニ照シ仍ホ同法第九十二條第八十九條第九十條ニ從ヒ科料金壹圓八十七錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告七三郎上告爲シタル旨趣ハ囚徒上野文吉カ便所ニ行クト僞リ突然駈出シ直チニ之ヲ追フモ彼レ逃走シテ捕獲スル能ハサルノ場合ニテ被告カ懈怠ニ依リ其逃走ヲ覺ラサルニアラサレハ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡アルヘキニ刑法第百五十條ヲ適用サレシハ不當ナリト云フニアリ原裁判所檢事補安藤武吉ハ原裁判適當ニシテ上告旨趣ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事竹内維積ハ上告ニ對スル意見ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シテ曰ク原判文ヲ閱スルニ其看守中該囚カ兩便ニ參ル途中突然駈出シタルヲ直チニ追跡セシモ終ニ踪跡ヲ失ヒ其逃走ヲ覺ラサル事實ハ云々ト記載シアリテ其懈怠タルノ事實ヲ確認スヘキ理由ヲ記セサルハ不法ノ裁判ナリト思考スルヲ以テ破毀ヲ求ムト因テ之ヲ審按シ判決ヲ爲スト左ノ如シ

刑法第百五十條ニ看守又ハ獲送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ストアリ該條ノ精神タルヤ其懈怠者ヲ罰スルノ法意ナレハ懈怠ノ摸樣如何ニ由テ其罪ノ有無ヲ定ムルヲ最モ緊要ナリトス今原判文ニ徴スルニ附帶上告旨趣ノ如ク其逃走ヲ覺ラサル事實ハ被告カ福島縣令三島通庸宛指出シタル手續書及ヒ押丁小營義之ノ手續書ヲ參照シ尙被告カ公廷ニ於テノ答辯ヲ聽キ以テ其証憑明カナリトアリテ其懈怠タル有無如何ノ理由明示シナク而テ原裁判官ノ証憑ト爲シタル小營義之カ手續書ニ依レハ重禁錮囚上野文吉カ二便致度旨願出候ニ付大岩看守ニ申述候處附添二便爲致候様指揮有之ニ付二便所へ參ル途中拾四五步隔ル否哉突然駈ケ出云々又被告手續書ニ右文吉ナル者二便致度

旨申出候ニ付押丁ヲ附添ヘ二便所へ爲參候途中拾四五步隔ルヤ否ヤ突然駈ケ出シ云々トアリ又被告カ公廷ノ陳述モ同一ナリ因之觀之ハ文吉カ逃走ハ押丁小營義之カ看護中ニアツテ被告ニ於テハ其責ノ歸ス可カラサルモノ、如シ然ルニ原裁判ハ該証憑ニ依據シナカラ被告カ看守中逃走セシメタルモノト爲ス而已ナラス本件緊要ナル懈怠アルヤ否ヤノ審理モ不遂又其理由ヲ明示セサルハ治罪法第二百四條ニ背反シタル不法ノ裁判ナリト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ朽木輕罪裁判所宇都宮支廳へ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第千三百五十二號

○判文(有夫姦) 明治十六年三月十五日上告 同 十七年五月十日發付

福島縣岩代國伊達郡八幡村

萩原源七

年齡不詳

宮城縣磐城國伊具郡小坂村

平民

齋藤アサヨ

明治十五年十二月

二十四年九月

明治十五年十二月二十六日福島輕罪裁判所會議局ニ於テ右萩原源七齋藤「アサヨ」ノ有夫姦

被告事件ニ付原檢察官カ爲シタル豫審終結言渡ノ故障申立ニ對シ本件告訴人高塚音五郎ト齋藤「アサヨ」トハ數年間共居セシ實アルモ戸籍簿ニ騰記シ之ナキ上ハ夫婦ナリト看認ルヲ得ヘカラス仍テ豫審掛ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ノ處分ナルヲ以テ之ヲ認可ストノ判決ヲ不當トシ原檢察官檢事補加治順之ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ戸籍簿ニ登記ナキモ夫婦ノ實アリト認ムルニ於テハ明治十年本省丁第四十六號布達ニ基キ處分ス可キモノナルニ付宜シク其實アリヤ否ノ審理ヲ盡サ、ル可カラス本按ノ如キ未タ其審理ヲ盡サ、ルモ猶夫婦ノ實アリト認ム可キモノアリト云フ可キモノナリ然ルチ其實及ヒ布達ノ點ニ付何タル判定チ下サス加之戸籍登載有無ノ證據不充分ナルニ拘ハラス單ニ戸籍ニ登記ナキモノト推測シ其登載ナキ以上ハ有夫ノ婦ヲ以テ論スル限りニ非ストナシ判決シタルハ越權ニシテ且事實理由ノ齟齬アルモノナリト云フニ在リ

對手人萩原源七ハ所在知レズ齋藤「アサヨ」ハ之ニ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按判決スル左ノ如シ

上告ノ論旨ニ依リ豫審終結言渡書ヲ閱スルニ被告「アサヨ」ハ高塚音五郎ト夫婦ノ約束ヲ爲シ同居中萩原源七ト姦通シ終ニ高塚音五郎ト分離シタルモ「アサヨ」ノ戸籍ハ未タ高塚音五郎ヘ移テサルニ於テハ同人夫妻ト看認ムルヲ能ハス云々トアリ業已ニ告訴人高塚音五郎ト被告「アサヨ」トハ夫婦ノ約ヲ爲シ同居セシモノト認ムルニ於テハ明治十年本省丁第四十六號達ニ基キ處分スヘキモノナルニ付宜シク其親族鄰佑等ノ接認如何ノ點ヲ審究セサル可カラス若シ果シテ夫婦ノ實アラハ假令戸籍上登記アラサルモ法律上ノ夫婦タルハ論チ悞サ

ルナリ然ルニ原裁判官ハ之カ審理ヲ盡サス惟其戸籍上登記ヲ怠リタル一點ヲ以テ夫婦ト看認ム可カラサルモソトシ免訴ヲ言渡シタル豫審終結ノ事實理由ノ不備ナルモソナルニ原會議局於テ之ヲ相當ノ處分ナリトシ該言渡ヲ認可セシハ不法ノ判決ナリトス因テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原判決ヲ破毀シ適當ノ處分ヲ受ケシメン爲メ仙臺輕罪裁判所會議局ヘ移スモノ也

第千三百五十三號

○判文〔証券印稅犯則〕明治十六年十一月二十七日上告

同 十七年五月十日發付

大坂府堺區九間町西二丁十

七番地平民樽ノ材料商

森 田 喜 市

明治十六年九月

四十一歲

右喜市カ被告事件ニ對シ明治十六年九月廿日堺治安裁判所ニ開キタル大坂輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年二月十二日付金高三百圓ノ樽丸蓋共賣渡約定証書ニ印紙ヲ貼用セズシテ森彌造ニ渡セシモノト認定シ明治八年第八十一號布告證券印稅規則第二則第一條第四則第二條及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ照シ罰金六圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告喜市ハ上告セリ其要領ハ該証書ハ只樽丸送致ノ「コ」ニ止テ未タ其直段ノ取極メモナサルナリ且其金高記載シタルハ尙高ノ制限立シ而已然ルチ原裁判所カ之ヲ賣買証書ト認メシ耳

ナラス証券印税規則ハ明治七年ノ頒布ナルコ之ヲ明治八年ノ布告トシタルハ共ニ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人原裁判所檢察官警部補近藤正大ハ之ヲ辯駁シ以テ原裁判ノ適當ナル旨答辯セリ
因テ治罪法第四百廿五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ該証書ハ被告カ樽丸三百圓ニ至ル迄森彌造ヨリ買収セントノ趣旨明記アリテ即チ賣買約定証書タルヲ分明ナリ又証券印税規則ハ明治七年第八十一號ノ布告タルヲ明瞭ナルニ原判文ヘ之ヲ明治八年ト書記シアルハ全ク誤寫ニ係ルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ其事實ニ當行スヘキ適正ノ規則正條ヲ歴舉シナカラ單ニ七ト八トノ一字耳ニ相違アルヲ見レハ也因テ被告ノ上告ハ相立サルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第千三百五十四號

○判文〔酒造犯則〕明治十六年四月廿八日上告
同 十七年五月十日發付

福井縣越前國丹生郡牛越村
平民酒造營業

加藤市右衛門

明治十六年三月
三十六年

酒造稅則違犯事件ニ付明治十六年三月十五日福井縣罪裁判所ニ於テ右被告人ハ酒造檢査ノ際醪三石二升七合ヲ隱蔽シタル者ト判定シ明治十三年第四十號布告酒造稅則第三十二條ニ

依リ一類ノ造石稅三倍ノ罰金拾八圓拾六錢貳厘ニ處シ其酒類ヲ沒收スト言渡シタル裁判ニ對シ被告市右衛門ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ明治十六年一月十七日酒造檢査員出張醸造増掛ノ尋問ヲ受ケタルモ被告ニ於テ増醸ヲ爲シタル等ノコトナシ素ヨリ桶ノ大小ニ依リ掛米水ニ増減アルモ均シク醸造高届出ノ内ナレハ増減アルヲ以テ直チニ隱蔽トセラル可キ者ニアラス且被告ニ於テ隱蔽セントセバ他所ヘ隱ス可キニ檢査濟ノ桶ニ入レ公然酒造藏ニ据置アルヲ以テ見ルモ隱蔽ノ所爲ナキ明瞭ナルニ原裁判官カ酒造稅則ニ依リ處分シタルハ公判ノ理由ニ齟齬アリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ旨趣ハ被告ハ酒造増掛等ノ所爲ナキニ原裁判官カ隱蔽シタリト判定シタルハ不法ナリトノ旨ヲ以テ結局公判ノ理由ニ齟齬アリト陳辯スルモ原裁判官ハ酒造檢査員ノ告發書及ヒ被告カ供述等ニ依リ被告ハ果シテ隱蔽ノ所爲アル者ト判定シ其事實ニ相當ノ刑ヲ科シタル者ナレハ裁判上毫モ不法ト認ム可キ廉アルニ非ス之ヲ要スルニ本件上告ハ原裁判官カ事實ノ判定上ニ對シ不服ヲ訴フルニ止リ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ノ原由ナキモノトス依テ刑法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第千三百五十五號

○判文〔煙草稅則犯〕明治十六年二月廿八日上告
同 十七年五月十日發付

東京府京橋區長澤町二十五
番地平民煙草商

白川辰五郎

明治十五年十一月
三十八年七月

煙草稅則違犯被告事件ニ付東京輕罪裁判所豫審終結言渡ニ對シ故障ヲ爲シ明治十五年十一月七日同裁判所會議局ニ於テ該終結言渡ハ相當ニシテ被告人ノ故障ハ其理由ナキモノニ付棄却ストノ判決ニ服セス被告白川辰五郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告事件ニ付豫審中事實証明ノ爲メ必要ナルニヨリ陳供書ヲ以テ關係人即チ証人ヲ召喚アラントテ請願セシニ之ヲ採用セス輒シ終結セラレタルハ即チ越權ノ處置ナルヲ以テ之カ故障ヲ爲シタルニ會議局ニ於テモ被告人カ當然故障ヲ爲シ得ヘキモノニアラストシ加之被告人カ差出シタル陳供書ノ末文ニ關係ノ者御喚問被成下度云々トアルモ果シテ其呼出ヲ請求シタルモノト認メ難シト辯明シ故障ノ申立ヲ棄却シ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ止タ文章ノ外面ニノミ拘泥シ曾テ其趣意如何ヲ討究セス審理ヲ盡サ、ルモノニ付不服ナリト云フニ在リ

對手入檢事補機邊是綱ハ原判決ハ上告趣旨ノ如ク不當ノ處分ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事薄井龍之ノ報告ニ依リ代言人邑居一正ハ上告趣旨ヲ擴張辯明シ立會檢事池上三郎ハ原判決ハ原檢察官答辯書ノ如ク不當ノ處分ナリトノ意見ヲ陳述セリ因テ之ヲ審按判決スル左ノ如シ

治罪法第七十條ニ豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ証人トシテ指名シタル者ヲ呼出ス可シ其第二項ニ原告証人被告証人ノ員數夥多ナル時ハ指名ノ順序ニ從ヒ又ハ最モ事

實ヲ知ル可シト思料シタル者輕罪事件ニ付テハ各五名云々ト之アリ今一件書類中ニ就キ該陳供書ナルモノヲ檢按スルニ其文中關係人ノ氏名ヲ掲ケ未段ニ關係ノ者御喚問被成下度云々ト記載アリテ其指名シタルモノト認ムルニ足ルノミナラス原檢察官ノ意見書ニモ其理由ヲ辯明シ判然其氏名ヲ指示セリ而シテ本件豫審ノ証人ハ未タ定員ニ充タサレハ之ヲ呼出ス可キハ當然ナルニ其請求ニ應セサルハ治罪法ニ定メタル成規ニ違反シ治罪法第四百十條第十一項ノ場合ニ適當スル越權ノ處分ナリトス又原會議局ニ於テモ其故障ノ趣意ハ要スルニ事實覆審ヲ求ムルニアリテ即チ治罪法第二百四十六條ノ制限外ナリトシ該申立ヲ棄却シタルハ是亦越權ノ處分ニシテ上告ノ原由アル不法ノ判決ナリトス因テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十八條ニ遵ヒ適法ノ處分ヲ受ケシメン爲メ橫濱輕罪裁判所會議局ニ移スモノ也

第一千三百五十六號

○判文〔謀殺未遂〕明治十六年十一月六日上告
同 十七年五月十二日發付

千葉縣下總國香取郡小貝野
村三十四番地平民椎名與兵
衛奮養孫椎名良助事下總國
香取郡高野村平民高野惣右
衛門弟

高野良助
明治十六年十月
滿二十七年

右長助カ被告事件ニ付明治十六年十月十三日千葉重罪裁判所オイト被告カ所爲ハ豫シメ妻「カチ」ヲ殺害ス可クト謀リ簞笥ニ入置タル短刀取出シ之レヲ懷中シ「カチ」ノ寐所ニ至リ其短刀ヲ以テ同人ヲ突殺ントシタル際養母「ギン」養祖父與兵衛ニ障碍セラレ爲メニ創傷ヲ負ハスモ殺害シ遂クル能ハスシテ其場ヲ逃去リ及ヒ養祖母「ウメ」ノ胸部ヲ突キ以テ創傷ヲ負ハセ十餘日間疾病ニ至ラシメタルモノト認定シ「カチ」ニ對スル所爲ハ刑法第二百九十二條第一百十二條第一百十三條ニ依リ「ウメ」ニ對スル所爲ハ刑法第三百六十三條第三百五條第三百一條ニ依リ之レヲ同法第六十七條第七十條ニ照シ加減スル時ハ其重罪ノ刑ハ死刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減シ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ該ル其輕罪ノ刑ハ重禁錮一月已上一年已下ニ二等ヲ加ヘ一月十五日已上一年六月已下ノ重禁錮ニ該リ二罪俱發ナルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ同法第十七條ノ範圍内ニオイトテ有期徒刑十二年ニ處斷スル旨ヲ言渡シタリ被告ハ之レヲ不當ナリトシ上告セリ其要點ハ被告カ曾テ千葉輕罪裁判所豫審廷並重罪公判廷ニオイト屢申立タル如ク妻「カチ」ニ向ヒ被告ヲ離別セントナラハ莫キニ汝カ墮胎セシヲ告訴ス可シト云ヒタルニ「カチ」ハ恐怖シ小刀ヲ以テ自殺セントシ自ヲ傷ツキタルモノナレハ被告ハ之レニ關ラス又養祖母「ムメ」ニ創傷セシハ逃走ノ際過テ傷ケタルモノニテ素ヨリ有心故造ニアラサレハ刑法第三百十九條ヲ適用サレ可キカ當然ナリ然ルニ原裁判茲ニ出サルハ即チ擬律ノ錯誤ナリ又仮リニ數歩ヲ讓リ被告ハ「カチ」ヲ創傷セシモノトスルモ其所爲故殺ニ過キサルモノナリ何ントナレハ若シ豫メ謀リシモノナリセハ兇器ヲ携帯セサルノ理ナシ然ルニ被告ニ其用意ナキハ畢竟「カチ」ノ心底如何ノヲ尋ント欲セシニ起因スレハナ

リ矧ヤ此事ナキニオイトオヤ旁原裁判ノ平翻破毀ヲ乞ヒ度ト云ニアリ對手人檢事岩田武儀ハ本按上告趣意ハ架空ノ妄言ニシテ一モ採ルニ足ラストシ着々之レヲ駁撃シ治罪法第四百十條ノ項目ニ適當スル原由ナシト答辯シタリ
 茲ニ大審院オイト治罪法第四百二十五條之式ヲ履行シ被告代理人土山虎四郎立會檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ代言人虎四郎ハ上告ノ趣意ヲ擴張シ立會檢事ハ原由ナキ上告ニ付速ニ棄却アラントシ望ム旨ヲ陳述ス依テ按スルニ凡ソ事實ノ認定ハ治罪法第四百十六條第二項ノ規定ヲ以テ裁判官ノ職權ニ任從スル所ナレハ原裁判ニ對シ相當ノ原由アルニ非サレハ敢テ論難駁撃スルヲ得サルモノトス然ルニ本按上告論旨ハ即チ承審官ノ職權内ニ立入事實ノ認定ヲ動サント試ムルニアリテ毫モ治罪法第四百十條ノ項目ニ適當スル原由アルヲナケレハ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ハ棄却スルモノナリ
 第千三百五十七號

○判文(詐欺取財)明治十六年十一月一日上告
 十七年五月十二日發付

長野縣信濃國東筑摩郡南深
 志町平民宿屋營業

渡邊 三次郎

明治十六年十月
 三十八年十一月

右三次郎カ被告事件ニ付明治十六年十月十日長野輕罪裁判所松本支廳於テ被告三次郎ハ發

ニ諏訪郡金澤村小池郁水ヨリ小松圓吉ニ係ル刑事告訴事件ニテ繫留セラレ居ル故其親屬タル諏訪郡金澤村宮坂孫造カ被告人方ニ投宿シ只管圓吉ノ宿下ケテ懇願スルヲ奇貨トシ金七十圓ヲ謝金トシテ相遣スナラハ宿下ノ事心配シ吳レルトテ該金受取ノ契約ヲ本年七月十二日被告人ノ自宅裏土藏坐敷ニ於テ圓吉ノ親戚矢島伊勢松宮坂孫造ト爲シ而シテ宮坂孫造ヲ欺罔シ該金ヲ騙取セントシテ未タ遂ケザルモノト認定シ刑法第三百九十條同第三百九十四條同第三百九十七條及ヒ同第一百十二條ニ照シ重禁錮三年ニ處シ罰金二十八圓ヲ附加シ監視一年五月ニ付ストノ裁判ヲ言渡シタリ」右ノ裁判ニ對シ被告人ハ上告爲シタリ其要領ハ刑法第三百九十條ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタルモノハトアルヲ以テ人ヲ欺罔セシ事實ナカル可ラサルニ本案事件ニハ毫モ欺罔ノ情狀ナシ然ルニ原裁判所ハ玆ニ何等ノ理由モ明示スルコトナク該三百九十條ニ問ヒシハ不法ノ裁判ナリ而シテ原判文ニ「金澤村宮坂孫造カ被告人方ニ投宿シ云々而シテ宮坂孫造ヲ欺罔シ該金圓ヲ騙取セントシテ未タ遂ケザルモノナリ」トアリ此文面ヨリ見ル時ハ本年七月十二日付ノ契約カ金圓ヲ欺罔セントセシ現象ト云フモノ、如シ然レモ其契約ノ文詞ハ何レカ欺罔ノ情狀ナリト云フノ意カ若シ此契約書ヲ指シテ欺罔ノ現象トナセシナラハ事實ニ齟齬アルモノト云ハサルヲ得ス何ントナルニ此契約書ノ行文ハ拘留ヨリ宿下ケニ相成候節ハ謝金トシテ金百圓ヲ速カニ御渡シ可申候云々又其但書ニ該金万々一有罪ト相成リ處刑ヲ受ケ候節ハ謝金百圓ハ差出不申候也トアリテ其旨趣タル無罪放免トナレハ該謝金ヲ受ケ然ラサレハ受ケストノ謂ヒタル一目標然タリ然ルニ之ヲ指シテ該金ヲ得ントセシモノト認メテレタルハ不當ナリ云々

到底原裁判ハ治罪法第四百十條第九項以下各項ニ觸レタル不法ノ裁判ナルニヨリ破毀ヲ乞フト云フニアリ

同裁判所檢事補江本温直ハ該上告ハ事實ニ對スル當否如何シテ論スルモノナレハ其原由ナキ旨答辯シ玆ニ附帶上告ヲ爲セリ其要領ハ原裁判ハ事實ノ理由ニ不備アルヲ免レス且刑法第三百九十七條同第一百十二條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ本件犯罪ノ事實ハ豫審終結前如何ナルコトカ被告ハ圓吉カ免訴放免ニナルヘキコトヲ知リテ該契約書ヲ詐取シタルモノナリ然リ而シテ被告ハ全ク己ノ力ニヨリ圓吉カ放免ニナルコトヲ宮坂孫造ヘ對シ尙ホ信セシムル爲メ殊更ニ契約書ノ但書ニ有罪云々ト記載セシメタルモノト確信スルニ因リ刑法第三百九十九條同第三百九十四條ニ依リ處斷スヘキモノナリト云フニアリ

大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ被告代言人山田泰造ハ上告趣意ヲ擴張シ曰ク被告ハ假リニ詐欺ノ事情アルモノトスルモ該契約書ヲ授受セシノミニテハ未タ豫備ニアリテ未遂犯ナリ且速了シカダシ故ニ斯ノ如キ場合ニ至ツテハ其事由ヲ明示セサルヘカラス又刑法第三百九十條ハ財物ヲ騙取スルト証書類ヲ騙取スルトノ二箇ノ制裁ナレハ宜シノ第一項中ノ前段ニアルカ將タ後段ニアルカヲモ明示セサルヘカヲサルニ其之ヲ明示セサル以上該判文ハ架空ノ事實ニ對シ法律ヲ適用セシモノト云フヘクシテ治罪法第四百十條第九項以下ノ項目ニ該當スル上告ノ原由アルモノト思考スト云フニアリ

立會檢事加納久宜ニ於テモ同法第四百十條第九項ノ場合ニ相當スル上告ノ原由アルモノナリ且原檢察官カ附帶上告ノ旨趣タル裁判官カ認定以外ノ事實ニ涉リ云々スルモノナレハ採

ルニ足テ到底本件ハ破毀ノ上他ノ裁判所へ移サルヘキモノト思料ストノ意見ヲ述ヘタリ
 因テ判決スルコト左ノ如シ
 本按上告ノ旨趣ハ之ヲ要スルニ欺罔シテ騙取セントシタル事實ナキニ關テス原裁判所於テ
 被告カ欺罔シ金員ヲ騙取セントシテ未タ遂ケサル者ト判定セシハ不法ナリト云フニ外ナラ
 ス因テ原裁判言渡書ヲ閱スルニ(被告人渡邊二次郎ハ龔ニ誣訪郡金澤村小池郁水ヨリ小松
 圓吉ニ係ル云々該金受取ルノ契約ヲ本年七月十二日被告人ノ自宅裏土藏坐敷ニ於テ圓吉ノ
 親戚誣訪郡金澤村矢島伊勢松宮坂孫造ト爲シ)トアルモ此等ノ事實ハ以テ欺罔シ金員ヲ騙
 取セントシタルノ理由ト爲スヲ得ス然ラハ該言渡書中(宮坂孫造ヲ欺罔シ該金ヲ騙取セン
 トシテ未タ遂ケサル者ナリ)トアルハ如何ナル事實ニ依リタルモノカ他ニ理由ノ明舉シア
 ラサルヲ以テ尙ホ之ヲ原書類ニ徵スルニ果シテ詐欺取財ノ未遂犯ナリト確認スルニ由ナク
 到底原裁判ハ越權ノ處分ニ出タルモノニシテ治罪法第四百十條第十一項ニ適當セル破毀ノ原
 由アルモノトス因テ其他代言人ノ論點ニ對シテハ一々辯明ヲ附セス而シテ原檢察官於テ被
 告ハ小松圓吉被告事件豫審終結以前如何ナル事カ免訴放免ニナルヘキコト知リテ詐取シタ
 ルモノナリトノ事實ヲ掲ケ原裁判ハ事實理由ノ不備且擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリトシ
 附帶上告ヲ爲スモ是レ原裁判官カ認定以外ノ事實ヲ舉ケ以テ原裁判ノ當否ヲ論難スルニ過
 キスシテ治罪法第四百十條第十項ニ適當セル破毀ノ原由ナキモノニ付之ヲ棄却ス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ之ヲ甲府輕罪
 裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

第一千三百五十八號

○判文(詐欺取財未遂) 明治十六年十一月廿一日上告
 同 十七年五月十二日發付

京都府山城國下京區第一組
 四坊大宮町平民雜業參考人

大石 シ

松永昌言カ被告事件ニ對シ明治十六年十月十五日京都輕罪裁判所ニ於テ被告昌言ハ私書ヲ
 偽造シ金員詐取セントシテ未タ遂ケサル者トノ公訴ヲ受ケタルモ其証憑不充分ナルヲ以テ
 無罪ノ言渡ヲナシタリ大石「シ」ハ右裁判ヲ不當トシ上告スルノ要旨ハ被告昌言カ犯罪ノ
 事實証憑充分ナルニ不審理ノ裁判ヲ降シ且原檢察官カ第一號証ニ對スル意見ヲ述ヘス証人
 カ曖昧ノ陳述ヲナシタルニ之ヲ譴責セサルハ不服ナルヲ以テ覆審ヲ求ムト云ニ在リ對手人
 松永昌言ハ本按ノ上告ハ事實上ノ苦情ヲ陳述スルニ過キサルノミナラス告訴人証人參考人
 等カ上告スルヲ得ヘキ法文ナシ且上告趣意書ヲ二十四時内ニ送致セサルハ規則ニ背ク者ト
 思考スル旨答辯セリ
 因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ民事原告人ハ私訴ノ裁判ニ對シ
 上告スルヲ得ルノ法文アルモ公訴ノ裁判ニ對シテハ上告スルヲ得ス本訴ハ則チ松永昌言ニ
 係ル公訴ノ裁判ニ對シ違法ノ上告ヲ爲シタル者ナレハ茲ニ論告ノ辯明ヲ要セス治罪法第四
 百二十七條ニ據リ右上告ヲ棄却スル者ナリ

第一千三百五十九號

○判文(証書變造) 明治十六年十一月六日上告
十七年五月十二日發付

三六二

秋田縣羽後國南秋田郡土手

長町平民大工職

池 永 常 松

明治十六年九月

三十七年

右常松カ被告事件ニ對シ明治十六年九月二十八日秋田輕罪裁判所ニ於テ被告カ明治十五年
七月中横田順治へ係リ賣掛代金請求ノ勸解出願シタル際提出シタル濱物通帳ハ變造セシモ
ノナリト順治并ニ証人高橋「サト」柳原「シモ」ニ於テ申立ツルモ証人飯塚「テツ」等ニ於テハ
右通帳ノ表紙ハ「サト」シモ「兩人承知ノ上書換ヘタルモノニテ順治於テモ承諾シタル旨申
立且其通帳ニ記入シアル濱物ハ元來被告ノ手ヨリ出タルモノナレハ順治外二名ノ陳述ハ確
信シカタシ因テ被告ニ對スル証書變造詐欺取財ノ証憑ハ充分ナラサルニ付治罪法第三百五
十八條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補小澤新太郎ハ上告ヲ爲シタリ其
要旨ハ被告ハ高橋「サト」柳原「シモ」カ飯塚藏人ヨリ濱物ヲ買受ケ横田順治へ賣渡シタル通
帳即濱物受取帳横田様高橋「サト」ト記載シタル帳面ノ表紙ヲ取換ヘ之ニ池永常松横田様ト
書シ直接ニ横田順治へ濱物ヲ賣渡シタル体ニ取替ヒ順治へ係リ被告ノ手ヨリ出テサル濱物
代價マテヲ合セ賣掛代金催促ノ勸解ヲ秋田治安裁判所へ出願シタル事實ナルハ横田順治ノ
告訴狀高橋「サト」柳原「シモ」等ノ調書ニ依リ明瞭ナレハ刑法第二百十條第二百十二條第三

百九十條第三百九十四條第三百九十七條第百條第百十二條第百十三條ヲ適用處斷スヘキハ
當然ナルニ原裁判官ハ他ノ証人ノ陳述ヲ打消スヘキ効力ナキ飯塚「テツ」ノ証言ヲ妄信シ牽
強附會ノ推測ヲ下シ被告ニ對シ無罪ヲ言渡シタルハ事實理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナルヲ
以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニアリ對手人池永常松ハ横田順治ノ使人ナル高橋「サト」柳原
「シモ」ニ數回濱物ヲ賣渡シタル末此上購求セントナレハ通帳ヲ製シ横田ニ檢印ヲナサシム
ヘク談示及ヒタルニ其後右兩人ハ横田へ宛兩人ノ名ヲ記シタル通帳ヲ持參セルニ付右ニテ
ハ不都合ナル旨申述ヘ更ニ表紙ヲ換ヘ横田様池永常松ト記シ被告ト濱物商法ノ組合ナル飯
塚藏人於テ明治十五年六月八日ヨリ十一日マテニ賣渡シタル濱物四筆ヲ記入シ横田方へ差
遣シタルニ横順トアル認印ヲ押捺シタル上ハ横田順治カ被告ト直接ノ取引ヲ認諾シタルモ
觀ルニ足ルノミナラス証人飯塚「テツ」ノ証言ニ依ルモ被告カ無罪ナルハ明白ナル旨答辯セ
リ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニヨリ立會檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ其要旨ハ該上告ハ事實
ノ判定ニ非難ヲ加フルニ過キサレハ速ニ棄却アラントシ望ムト云フニアリ因テ判決スル左
ノ如シ
上告ノ主點ハ原裁判官カ他ノ証人ノ証言ヲ付ケ飯塚「テツ」ノ証言ノミチ妄信シ被告ニ對シ
無罪ヲ言渡シタルハ事實理由ノ齟齬スル不當ノ裁判ナリト云フニアルモ抑モ事實ノ判定証
憑ノ取捨ハ事實裁判官ノ特權ニ屬スルモノナレハ之カ當否ヲ論難スルモ原裁判ノ破毀ヲ求
ムル原由トナスヲ得サルハ勿論原判文ニ毫モ事實理由ノ齟齬アル點ヲ見ズ乃本案上告ノ如

三六三

三六四
キハ治罪法第四百十條各項ニ掲クル上告ヲ爲シ得ル場合ニ適合セサルヲ以テ同法第四百一十七條ニ依リ之ヲ棄却スル者ナリ

第一千二百六十號

○判文(私書偽造) 明治十六年四月廿日上告
同 十七年五月十二日發付

茨城縣常陸國新治郡土浦仲
町寄留東京府淺草區淺草河
原町平民雜業

三 谷 恂

明治十六年二月
四十二年一月

右恂カ被告事件ニ付明治十六年二月廿三日水戸輕罪裁判所土浦支廳ニ於テ私書偽造ノ事實アリト認メ刑法第二百十條第二項同第二百十二條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金一年ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ委任狀ヲ筆記セシハ委任者ノ頼ミニ因リ承諾上ナレハ偽造ニアラサルヲ明カナリ而テ惡意アルノ所爲ニアラサレハ内道徳ニ悖戾セス外公安ヲ妨害セサルモノナレハ罪トナラサルナリ然ルチ原裁判所ハ審理ヲ盡サス裁判ヲ下シタルモノナレハ事實ニ齟齬シタル不當アリト云ヒ又上告追申書ヲ以テ擬律錯誤アリト云ヒ又ハ越權ノ處分アリト云フニアルモ共ニ前趣意ヲ擴張スルニ過キサルナリ對手人檢事補山口重理ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ立會檢事澄川拙三ハ本件上告趣旨ノ外別ニ原裁判ノ不當ヲ見出シタレハ爰ニ附帶上告スト陳述シ其上告セル要領ハ被告恂ハ平山嘉助妻「モト」ノ宿帳調ノ義ニ付警察署へ出頭答辯スルノ委任ヲ受ケ委任狀所持セサルヨリ持參スヘキトノ命ヲ受ケ退キ中途ニ於テ右「モト」ノ委任狀ヲ作爲シ之ヲ差出シ行使シタルモノトノ事實ヲ認メ刑法第二百十條第二項ニ依リ所斷シタリ然ルニ裁判言渡中其作爲シタルノ原由ヲ認メズ直ニ刑ヲ言渡タルハ不當ノ裁判ト思考ス何ントナレハ委任狀ハ本人ノ實印ヲ要シテ始テ其効アルヘキモノナルニ本按ニ掲クル委任狀ハ本人平山「モト」名下ニ捺印ヲ用ヒタルモノニテ其効ナキハ本院慣例ニ徴スルモ明カニテ本職ハ斷シテ委任狀トハ認メズ無効無用ノモノナリトス加ルニ原裁判官ノ認メタル事實ニ據レハ途中ニ於テ之ヲ作爲シタリトノミアリテ其己レヲ利スル意思ナク所謂無意犯ニシテ不論罪ノ域内ニアルモノナルニ原裁判所カ刑法第二百十條第二項ニ依リ所斷シタルハ擬律錯誤ナルニ因リ破毀シテ直ニ無罪ノ言渡アリタシト要求セリ上告代言人和田清風ハ上告趣旨ヲ擴張辯明シ附帶上告ハ最モ允當ナリト開陳セリ玆ニ之ヲ審案スルニ

原裁判言渡ニ明示シタル事實ヲ見ルニ 中 被告ハ明治十六年二月一日ヨリ二日迄ノ宿帳調之儀ニ付土浦警察署へ出頭答辯スルノ委任ヲ受ケ同署へ出頭シ委任狀所持セサルヨリ持參スヘキノ命ヲ受ケ退キ中途ニ於テ明治十六年二月八日付右「モト」ノ委任狀ヲ作爲シ再ヒ出頭其委任狀ヲ差出シ既ニ行使シタルヲ巡查高杉健作ノ具狀書平山「モト」ノ供述ニ依リ事實明白ナリ云々トアリテ其犯罪ノ原素即チ意思如何ノ理由ヲ明示セス試ミニ其偽造ニ係ル

委任狀ヲ見ルニ本人即チ委任者平山「モト」ノ名下ヘハ拇印ヲ押捺セシモノニテ正當ノ委任狀ナリト言フヲ得サルモノナリ其故ハ本院檢察官附帶上告趣旨ノ如ク抑委任狀ハ其委任スヘキ權限ヲ確實証明スヘキ證據ニテ拇印ヲ用ユヘキ場合ニアラサレハナリ然ラハ無効ノ委任狀ヲ作爲スルモ亦罪ヲ犯スノ具ト爲スニ足ラスシテ一反古紙タルニ過キサレハ罪ヲ構造スヘキ所爲タラサルヲ論チ俟タサルナリ況ンヤ原裁判所カ認メタル其實實ニ於ケル已レチ利スル念アルモノト爲サレハ所謂無意犯ニテ不論罪ノ域内ニアリテ支配セラレヘキモノナルニ於テオヤ然ルヲ刑法第二百十條第二項ニ該ル罪ナリトシ刑ニ處シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス

三 谷 恂

原裁判所カ各種ノ証憑ヲ掲ケ確認シタル事實ハ刑法第七十七條ヲ適用スヘキ不論罪ナリトス

其第七十七條ニ曰罪ヲ犯スノ意ヲキ所爲ハ其罪ヲ論セズ但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニアラストアリ

因テ被告三谷恂ニ無罪ヲ言渡ス者也

第千三百六十一號
○判文(私書偽造)明治十六年十一月廿七日上告
十七年五月十二日發付

山梨縣甲斐國東山梨郡八幡

村平民

市川重右衛門

明治十六年十月

五十二年

右重右衛門カ私印盜用被告事件豫審終結故障ノ申立ニ對シ明治十六年十一月二日甲府輕罪裁判所會議局ニ於テ被告カ故障申立ノ内其前段ハ豫審懸ニ對シ開陳シタル趣旨ヲ敷衍スルニ過サレハ理由トスルニ足ラス後段ハ戶長役場ノ地所質書入奥印簿ヲ查閱シ及ヒ丸山義貴ノ喚問ヲ請フハ特ニ故障ノ原因タラサルノミナラス會議局ニテ採用スルノ限リニ非ス且豫審懸リニ於テ証憑充分ナラストシ免訴ノ言渡シヲナシタルハ適當ニシテ越權ノ處分ニ非ルヲ以テ之ヲ棄却スト言渡シタルニ服セス被告重右衛門ハ上告セリ其要領ハ舊戶長丸山義貴カ地租上納ニ差支金圓調達ノ爲メ被告悻武重ノ地券ヲ添ヘ証書ニ印影ヲ盜捺シ吳ル、樣依頼ヲ受ケ餘議ナク承諾ノ上印影ヲ盜捺シ地券ト共ニ之ヲ委子義貴ヨリ中澤仁兵衛ヘ一番抵當ノ趣キニ欺キ金圓ヲ借り受タレト該地所ハ己ニ悻ヨリ他ヘ抵當ニ差入アルヲ以テ到底發覺スルハ當然ナルニ依リ今回自首シタル次第ナルニ豫審掛リニ於テ免訴ノ言渡シヲナシタルハ越權ノ處分ナルヲ以テ仍ホ故障ノ申立ヲ爲シタルニ原會議局ニ於テ其理由ヲ付セス棄却セラレタルハ不法ナリト云フニ在リ對手人原檢察官ハ答辯セス

因テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ被告ハ自己ノ事實トスル處ヲ主張シ原判文ニ其理由ヲ付セス棄却ノ言渡シヲナシタルハ不法ナリト論告スレト該判文ニ掲

ル如ク一々其理由明示シアリテ毫モ瑕瑾アルヲ見ス且被告カ免訴ノ言渡シヲ受タル場合ニ在テハ上告ヲ爲スノ限リニ非サルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ據リ右上告ヲ棄却スル者也

第一千三百六十二號

○判文(恐喝取財)明治十六年五月一日上告
同 十七年五月十二日發付

山梨縣甲斐國東山梨郡岩手
村一番地藤原幾五郎養子平
民農業

藤原 文吉

明治十六年三月
三十年一ヶ月

右文吉カ被告事件ニ付明治十六年三月二十二日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告ハ弦間由造ナル者ト明治十六年一月十四日竹川明次郎ヲ八幡村古屋清知方ニ連レ行キ恐喝シタル末由造カ不良ノ牡馬ヲ明次郎ニ與ヘ明次郎カ牡馬并ニ金三圓鞍一個及ヒ明次郎ヨリ交換相違ナキ旨ノ書面ヲ騙取シタルモノト認メ刑法第三百九十條ニ依リ十ヶ月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金及ヒ十ヶ月ノ監視ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス被告文吉ハ上告ヲ爲セリ其旨趣ハ被告カ關係シタル弦間由造竹川明次郎等カ各自ニ所有シタル牡馬ヲ交換セシヤ固ヨリ相互間ノ承諾上ニ成立テ敢テ恐喝ノ事實アルニアラス又其證書ヲ受授セシモ尋常ノ手續ヲ履ミ決シ

テ騙取シタルニアラス而シテ被告ハ該交換ノ契約ヲ履行スルニ際會シ其立會ヲ爲シタル迄ニ過キサレハ抑モ犯罪ノ所爲タルヘキモノニアラス然ルチ原裁判所ハ該交換ノ際ニ關與セサル前田利左衛門等ノ片言ヲ信用シ被告カ証人對質ヲ請求スルモ之ヲ許サズ有罪者ト判定セシハ被告ヲ冤罪ニ陷レタル枉斷ノ裁判ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補重良三ハ上告旨趣ハ不當ニシテ原裁判允當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ曰ク被告カ上告ノ論點ハ一モ破毀ノ原由ニアラス然レモ裁判言渡書中古屋清知方ニ連レ行キ恐喝云々書面ヲ騙取シタル云々トノミアツテ如何ナル所爲ヲ以テ恐喝シタルカ如何ナル手段ヲ以テ騙取シタルカ茫乎トシテ之レカ事實摸樣ヲ知ルニ由ナシ是レ治罪法第三百四條ニ規定セル規則ニ違反シ同第四百十條第九項ニ相當セル破毀ノ原由アルモノト思考ス依テ附帶上告ニ及フト陳述セリ

按スルニ被告ノ上告旨趣ハ弦間由造竹川明次郎カ相互ノ承諾上ニテ馬ヲ交換スルニ際會シ偶然之レカ証人ト爲リタル迄ナレハ罪トナルヘキノ事實ニアラス恐喝騙取ト做シタルハ信スヘカラサルノ証言ヲ信シテ原裁判官ノナシタル枉斷ナリト云フニアリ是レ徒ラニ承審官ノ特權ナル事實ノ認定証憑ノ監別ヲ非議論難スルニ止マリ治罪法第四百十條ノ各項目ニ適合シタル論旨ニアラサレハ上告ノ原由ト做ステ得ス故ニ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却ス然レモ立會檢事附帶上告ノ旨趣ハ大ニ取ルヘキノ所アリトス何トナレハ夫レ恐喝騙取ハ本按ノ大主點ニアラスヤ然ルニ被告等ハ如何ナル所爲ヲ以テ恐喝シ如何ナル詐術ヲ施

シ騙取シタルヤ原判文上此ノ緊要部ノ事理ヲ明示セサレハナリ是レ則チ治罪法第二百四條ノ成規ニ違背シ事實ノ理由ヲ付セサルモノニシテ同第四百十條第九項ニ當ル上告ノ原由アルモノトス因テ附帶上告ノ趣旨ヲ採リ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシムル爲メ本按被告事件ヲ静岡輕罪裁判所ニ移スモノナリ
第一千三百六十三號

○判文(偽量使用)明治十六年五月九日上告
同 十七年五月十二日發付

岐阜縣美濃國土岐郡大湫村
平民農業
大竹喜兵衛

明治十六年四月
五十二年十一月

右喜兵衛カ被告事件ニ付明治十六年四月二十日御嵩治安裁判所ニ開ク岐阜輕罪裁判所ニ於テ被告ハ定規ニ違犯シタル量ニ個ヲ所有シ利ヲ得タルニハアラサレモ所有セシニハ相違ナキ旨申供セシヲ以テ明確ナリトシ刑法第二百二十九條ニ依リ重禁錮一月ニ處シ罰金二圓ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ被告大竹喜兵衛ハ上告ヲ爲セリ其旨趣ハ被告カ所有セシ量トアルモ通常ノ量ニアラスシテ鹽ノ小賣ヲ爲ス箱ナリ因テ一杯ヲ何錢ト價ヲ定ムル迄ニシテ固ヨリ非理ノ利ヲ貪ル目的ニアラス芋烏芋等ヲ量ル如キ箱ト同種類ナレハ度量衡規則ヲ違犯シタルニアラス然ルチ原裁判犯則チ以テ被告ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ

在リ原裁判所檢察官警部補稻吉綱五郎ハ上告ノ不理ヲ辯駁シテ原裁判至當ナリト答辯セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
被告大竹喜兵衛ハ原裁判ニ被告カ鹽ノ小賣ニ用ユル處ノ箱ヲ以テ定規ニ違犯シタル量ナリト判定セラレタルモ其使用スル所斗概チ用ユル量ト異ニシテ一杯何錢ト其價ヲ定ムルニ止マリ芋烏芋ヲ量ル箱ト同種類ナレハ度量衡規則ニ觸レスト云フモ原裁判官カ職權ヲ以テ其心証ニ照シ芋烏芋ヲ量ル箱ト同一視セスシテ定規ニ違犯シタル量ト認メタル以上ハ徒ラニ事實ノ有無ヲ論告スルニ止マリ治罪法第四百十條ノ事項ニ適合シタル上告ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ
第一千三百六十四號

○判文(竊盜)明治十六年五月九日上告
同 十七年五月十二日發付

大坂府攝津國西成郡木津村
平民當時廣島縣備後國御調
郡尾道久保町藤谷繁次郎方
滯在

玉島已代之助
明治十六年四月
三十三年

右已代之助カ被告事件ニ付明治十六年四月廿六日廣島輕罪裁判所尾道支廳於テ被告已代之

助ハ頼兼佐助ノ發意ニ同シ瓦礫久保町高木龍藏ノ雇人樋口千代三カ所持ノ反物等數品ヲ竊取シタルモノト認メ刑法第百條同第三百六十六條ニ依リ二人以上ノ共犯ナルヲ以テ同第三百六十九條ニ照ラシ一等ヲ加ヘ仍ホ同第三百七十六條ニ據リ重禁錮五月ニ處シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告已代之助ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ頼兼佐助カ依頼ニ應シ同人カ商業上ノ反物ナリト思考シ船積等ノ運搬ヲ爲シタルモ被告カ目的ハ正當ノ謝金ヲ受取ルニ止マリ頼兼佐助ト竊盜ノ同謀ヲナサハルノミナラス該品物ノ贓品ナルヲタモ知ラサルナリ然ルチ原裁判ハ頼兼佐助ノ發意ニ同シ樋口千代三カ所持ノ反物等數品ヲ竊取シタルモノト認定セラレシハ事實及ヒ其理由ノ齟齬スル裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ對手人檢事補永井次郎ハ上告ノ旨趣トスル所ハ原裁判言渡ノ法律ニ相違セシ點ヲ舉示シテ破毀ヲ求ムルニアラス事實ノ覆審ヲ請求スルニ過キサルモノト答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ被告玉島已代之助カ上告ノ論旨ハ竊盜ヲナシタル確証ナキニ有罪ノ處斷ヲ爲シタルハ不當ナリト云フノ一點ニ止マリ裁判官ノ特權ニ任從シタル其心証判斷ニ對シテ徒ラニ不服ヲ唱フルニ外ナラス治罪法第四百十條ニ於テ上告ヲ許シタル事項ニ適合シタル上告ノ原由ナキモノト判定ス

因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本按上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千三百六十五號

○判文(竊盜) 明治十六年五月九日上告
同 十七年五月十二日發付

愛知縣三河國額田郡東藏前

村三十六番郎平民農鴨喜三

郎弟

鴨 庄 三 郎

明治十六年四月

二十五年九月

明治十六年四月二十四日名古屋輕罪裁判所岡崎支廳ニ於テ被告ハ鈴木幸三郎カ水車小屋ノ窓又ハ水車脇ノ空隙ヨリ兩度ニ忍入玄米竊取シタル末事發覺前自首シタルモノト認定シ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ據リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノナルモ未發自首ニ係リ以テ第八十五條ニ照シ一等ヲ減シ重禁錮二月ニ處シ監視六月ヲ附加スト言渡タル裁判ハ擬律ノ錯誤ナリトシ檢事補濱田辰之助上告ノ旨趣ハ被告カ盜罪ヲ犯シタル内窓ヨリ忍ヒ入りタルハ刑法第三百六十八條ニ該ル罪ナルニ踰越ノ所爲ナキモノトシ刑法第三百六十六條ノミニ依リ處斷シタルハ不法ナリト云フニアリ被告人ハ原裁判相當ト思料スル旨答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ按スルニ

原判文ニ水車小家ノ窓又ハ水車脇ノ空隙ヨリ兩度ニ忍入り云々ノ明載アリ其兩度ノ内窓ヨリ入りシモノト認定シタルハ刑法第三百六十八條ニ依ラサルヘカヲサルモノトス何トナレハ窓ハ通路ニアラサルヲ以テ窓ヨリ忍ヒ入りタルハ即チ踰越ノ所爲ナレハナリ然レハ刑法第三百六十八條ニ該ル一罪ト刑法第三百六十六條ニ該ル罪アルモノナルニ單ニ刑法第三百

六十六條ノミチ適用處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ當ル上告ノ
原由ナリトス仍テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判破毀ノ上直ニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如
シ

鳴 庄 三 郎

右ノ理由ナルヲ以刑法第三百六十八條第三百六十七條ノ刑ニ該ルヘキ罪及ヒ刑法第三百
六十六條ノ刑ニ該ルヘキ罪ニ罪ノ内刑法第三百六十七條第三項ニ從ヒ刑法第三百六十八條第三百
六十七條ニ依リ未發自首ニ係ルヲ以刑法第八十五條ニ照シ一等ヲ減シ四月十五日以上三
年九月以下ノ重禁錮其範圍内ニ於テ四月十五日ノ重禁錮ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條
ニ依リ六月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ六月ノ監視ニ付スルモノ也

但書原判文ノ如シ

第千三百六十六號

○判文(竊盜) 明治十六年五月八日上告
同 十七年五月十二日發付

福島縣警城國檜葉郡本岡村
平民

渡 邊 善 助

明治十六年四月
二十五年二月

同縣同國同郡同村平民平藏

長男

林 喜 次 郎

明治十六年四月
二十年四月

右善助并ニ喜次郎カ被告事件ニ付明治十六年四月十二日福島縣輕罪裁判所平支廳ニ於テ被告
共ノ内喜次郎ハ明治十六年一月二十八日夜善助カ發意ニ同シ居村貯倉ノ粉石ヲ運出シ右三
俵宛脊負ヒ善助ト共ニ善助方ニ運ヒ置キ夜明ケノ爲メ殘七俵ハ其儘拾置タル旨臨檢場所ニ
首出シ喜次郎カ竊盜ノ所爲一分ハ被害者陳供臨檢調書ニ照應シテ明白ナリ善助ハ當夜喜次
郎カ粉二俵ヲ携來リ貸米返却ノ旨申ニ付受取リ置翌朝ニ至リ又一俵ヲ夜中ニ持込タル趣喜
次郎申ニ承知シ尋テ貯倉盜難ヲ聞込夜中ノ返却覺束ナシト思惟シ其場ニ至リ戸長ニ屈ケタ
ルモノニテ共犯ノ覺ナシト辯護シ且臨檢ニ至リ現在粉三俵ノミニシテ賊證符合セサルモノ
トシ右喜次郎ハ重禁錮六月ニ處シ監視十月ニ付シ善助所爲ハ証憑不充分ナリトシテ無罪放
免ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ原檢察官檢事補村上則敏ハ上告ヲ爲セリ其旨趣ハ被告渡邊
善助ニ於テ林喜次郎ト共謀シ郷倉ノ粉石ヲ竊盜セシノ情况ハ該郷倉ニ竊盜入タル夜半ニ善
助カ家出シタルヲ明白ナルモ歸宅セシハ何時ナルヤ他ニ知ル人ナキニ參照シ現ニ共犯人
林喜次郎カ供述ニ據テ事實明瞭ナリトス然ルチ原裁判ハ其賊証ノ符合セサルトテ証憑不充
分トナシ謂レナク共犯者喜次郎カ供述ヲ採用セス善助ヲ無罪喜次郎ヲ有罪ト判決ヲ爲シタ
ルハ抑モ何ノ因ル所アル歟偏頗不當ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九項事實ノ齟齬及ヒ

第十項ノ原由アルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ對手人被告兩名ハ上告趣意書ノ送達ヲ受シモ之ニ對シテ答辯ヲ爲サス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ本案上告人要旨ハ被告善助カ該夜半ニ家出ヲ爲シ歸宅ノ時刻証明ナラサルト相被告喜次郎カ供述ニ參照スレハ犯罪ノ情况明白ナルヲ單ニ善助カ無証ノ片言ヲ信シ其賊証符合セストノ理由ヲ以テ善助ヲ無罪トナシ喜次郎ノミ有罪ト爲シタルハ不當ナリト云フニアルモ要スル所事實承審官ノ特權内ニ侵入シテ探証ノ當否ヲ論難シ其心証判斷ヲ左右セント試ルニ外ナラス且又原判文中其事實ノ理由ニ於ケルモ擬律ノ當否ヲ檢案シ難キ程ノ瑕瑾アルニアラサレハ共ニ治罪法第四百十條ニ於テ規定シタル上告ノ原由ナキモノト判定ス

因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第千三百六十七號

○判文(罪人藏匿贓物寄藏及收受) 明治十六年十一月廿九日上告
同 十七年五月十二日發付

長崎縣肥前國西彼杵郡時津
村平民瀛船問屋業

今 村 藤 平

右今村藤平カ被告事件ニ付明治十六年十月二十七日長崎重罪裁判所ニ於テ被告ノ所爲ハ中陰曆四十年四月生

野虎一カ懲役終身ノ逃走囚ニシテ強竊盜ノ犯罪者ナルヲ知テ自宅ニ藏匿シ又ハ之レヲ隱避セシメ且虎一カ竊取セシ衣類ナルヲ知テ之レヲ受ケ又ハ寄藏シタルモノト認メ刑法第百五十一條同第三百九十九條同第四百條ニ依リ數罪俱發ナルヲ以テ同法第百條ニ從ヒ一ノ重キ同第三百九十九條ノ範圍内ニ於テ重禁錮六月罰金三圓ニ處シ監視十月ニ付スル旨ヲ言渡シタリ被告藤平ハ之レヲ不當ナリトシ上告セリ其要旨ハ自分儀強盜犯ヲ藏匿セシ旨ヲ以テ家宅搜索ノ未引致セラレタレハ藏匿又ハ隱避セシメタル事跡証憑毫無之又質入レノ二品ハ漏船問屋出張所ニオイテ他ノ船客ニ頼マレ質屋ヲ指示シタル迄ニテ之レヲ受ケタルモノニ非サルヲハ中野虎一カ豫審調書ニ由ルモ明カナリ旁原裁判ハ擬律錯誤及ヒ理由ノ齟齬ヲ免レサルモノト云フニアリ

對手人檢事河野通倫ハ上告趣意ヲ駁撃シ原裁判ヲ適當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處中野虎一ヲ藏匿隱避セシメタルヲナシ且ツ盜品ヲ受ケ又ハ寄藏シタルヲナシト云フニアレハ是レ只原裁判官カ認メサル被告隨意ノ辯難ニ歸シ破毀ヲ求ムル理由ト爲スヲ得ス抑事實ノ認定ハ治罪法第四百十六條第二項ノ規定ヲ以テ裁判官ノ職權ニ任從スル處ナレハ他ヨリ輒ク之ヲ批難スルヲ得サルモノトス况ンヤ原裁判ハ一切ノ証據物件ヲ檢按シ其事實ヲ認メタルモノニテ毫モ瑕瑾アルヲ見出サ、ルニオイテ到底治罪法第四百十條ノ項目ニ適當スル原由ナキ上告ニ付同法第四百二十七條ニ照シ之ヲ棄却スルモノ也

第千三百六十八號

○判文(遺失物故買) 明治十六年四月三十日上告
同 十七年五月十二日發付

京都府上京區第廿五組甘露
町住平民袋物商

山本重助

明治十六年三月
五十八年三月

明治十六年三月十六日京都輕罪裁判所ニ於テ右重助カ被告事件ヲ審判シ被告ハ佐見田鐵藏
カ拾得タル火鉢等ナルヲ知リナカラ賣却ノ牙保ヲ爲シ又ハ太田藤五郎妻「ムメ」ヲ欺キ万
年青ヲ騙取シタルモノト認メ其第一ノ犯罪ニハ刑法第四百一條ヲ適用シ第二ノ犯罪ニハ刑
法第三百九十四條第三百九十四條ヲ適用シ刑法第四百一條ニ照シ第一ノ罪即チ刑法第四百一條ニ
依リ被告重助チ一月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ付加スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補谷
口重輝ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ數罪俱發ノ時各罪事犯ノ情狀輕重ヲ判別スルハ獨リ裁判官
ノ職權内ニ任放シアリト雖法律ニ定メタル刑期ヲ濫リニ伸縮スルハ法ノ許サハ本本案被
告事件ノ内故買ノ牙保ヲ爲シタル事犯ノ情狀ヲ重シト認メナハ宜シク詐欺取財ノ罪ニ比較
シ二月以上ノ重禁錮ヲ宣告セサルヘカラサルニ原裁判玆ニ出サリシハ擬律ノ錯誤ナリト云
フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
抑輕罪ノ刑ニ該ルヘキ罪二罪以上發覺シタル場合ニ於テ其犯罪情狀ノ輕重ヲ定メ重キニ從

テ處斷スルノ職權ハ獨リ裁判官ノ特有スルモノナリト雖詐欺取財ノ罪アリト認メシ上ハ其
刑期二月以上ナルヲ以其情狀極メテ輕キモノトスルモ酌減等爲スニアラサルヨリハ其刑ノ
短期二月ニ下ラス然レハ一月ノ刑ニ該ツヘキ故買牙保ノ罪ヲ重シトスルヲ得サルヤ素ヨリ
論ヲ俟タサルニ原裁判官ニ於テ故買牙保ノ罪ハ詐欺取財ノ罪ヨリ情狀重キモノト認定シ却
テ詐欺取財ノ刑ノ最下點ニモ及ハサル刑期ニ依リ處斷シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ
當ル擬律錯誤ノ裁判ナリトス仍テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ更ニ裁判言
渡ヲ爲スノ左ノ如シ

山本重助

右ノ理由ニ原裁判所カ認メシ事實ナルヲ以テ第一刑法第四百一條ヲ適用スヘキ罪第二
刑法第三百九十四條第三百九十四條ヲ適用スヘキ罪其二罪ノ内刑法第四百一條ニ照シ所犯情狀
重キ第一ノ罪即チ刑法第四百一條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加スル者也
第三三百六十九號

○判文(身分詐稱) 明治十六年四月三十日上告
同 十七年五月十二日發付

山口縣長門國赤間關區岬ノ
町第五十二番舍平民

岡本治兵衛

明治十六年三月
三十二年一ヶ月